

Altova DiffDog 2021

ユーザーマニュアル

Altova DiffDog 2021 ユーザーマニュアル

All rights reserved. No parts of this work may be reproduced in any form or by any means – graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or information storage and retrieval systems – without the written permission of the publisher.

Products that are referred to in this document may be either trademarks and/or registered trademarks of the respective owners. The publisher and the author make no claim to these trademarks.

While every precaution has been taken in the preparation of this document, the publisher and the author assume no responsibility for errors or omissions, or for damages resulting from the use of information contained in this document or from the use of programs and source code that may accompany it. In no event shall the publisher and the author be liable for any loss of profit or any other commercial damage caused or alleged to have been caused directly or indirectly by this document.

公開日: 2015–2021

(C) 2015–2021 Altova GmbH

目次

1	はじめに	8
1.1	サポートメモ.....	9
1.2	製品の機能.....	10
1.3	DiffDog 用語.....	12
1.4	比較モード.....	14
1.5	DiffDog インターフェイス.....	16
2	ファイルの比較	18
2.1	ファイルの比較の実行.....	20
2.2	ファイルの比較オプションの変更.....	23
2.2.1	テキストの比較のためのオプション.....	23
2.2.2	XML 比較のためのオプション.....	25
2.2.3	空白文字のための比較オプション.....	31
2.3	ファイル内の差異の表示.....	33
2.3.1	テキストビュー.....	33
2.3.2	グリッドビュー.....	37
2.4	ファイルの編集.....	40
2.4.1	コンテンツの変更.....	40
2.4.2	構造の変更.....	41
2.5	テキストの検索と置換.....	42
2.5.1	テキストビュー内での検索と置換.....	42
2.5.2	グリッドビュー内での検索と置換.....	46
2.5.3	例: 正規表現を使用してテキストを置き換える.....	49
2.6	ファイルの保存.....	52
3	ディレクトリの比較	53
3.1	ディレクトリの比較ウィンドウを開く.....	55
3.2	比較のためのディレクトリを選択する.....	56

3.3	ディレクトリの比較オプションを変更する.....	57
3.4	ディレクトリ比較の実行.....	58
3.5	ビューの構成.....	59
3.6	ディレクトリ内の差分を表示.....	61
3.7	ディレクトリ比較内からファイルを比較する.....	63
3.8	ディレクトリの同期.....	64
3.8.1	完全な同期.....	65
3.8.2	同期設定の適用.....	65
3.8.3	同期のアクションの変更.....	66
3.8.4	ディレクトリの同期の開始.....	68
4	差分のナビゲーション	70
5	差分のマージ	71
6	差分のエクスポート	72
7	比較の保存とロード	73
8	比較の管理オプション	75
8.1	自動比較機能.....	76
8.2	最近比較した組み合わせ.....	77
9	DiffDog オプション	78
9.1	アプリケーション.....	79
9.2	ファイルの比較.....	81
9.3	ディレクトリ比較.....	83
9.3.1	フィルターの定義.....	85
9.4	ファイル型.....	88
9.5	ネットワークプロキシの設定.....	90

10 ユーザーレファレンス	92
10.1 ツールバーアイコン.....	93
10.2 ファイルメニュー.....	95
10.2.1 ファイルの比較.....	95
10.2.2 ディレクトリの比較.....	96
10.2.3 開く.....	96
10.2.4 閉じる.....	96
10.2.5 全て閉じる.....	96
10.2.6 保存.....	97
10.2.7 名前を付けて保存.....	97
10.2.8 差分のエクスポート.....	97
10.2.9 印刷.....	97
10.2.10 印刷プレビュー.....	97
10.2.11 印刷設定.....	98
10.2.12 終了.....	98
10.3 編集メニュー.....	99
10.3.1 元に戻す.....	99
10.3.2 やり直し.....	100
10.3.3 切り取り.....	100
10.3.4 コピー.....	100
10.3.5 貼り付け.....	100
10.3.6 削除.....	101
10.3.7 検索.....	101
10.3.8 次を検索.....	101
10.3.9 置換.....	101
10.4 表示メニュー.....	102
10.4.1 テキストビュー.....	102
10.4.2 グリッドビュー.....	102
10.4.3 ツールバー.....	102
10.4.4 ステータスバー.....	102
10.4.5 同時スクロール.....	103
10.4.6 行/文字に移動.....	103
10.5 テキストビューメニュー.....	105

10.5.1	ワードラップ.....	105
10.5.2	XML テキストを整形して出力.....	105
10.5.3	ブックマークの挿入/削除.....	106
10.5.4	次のブックマークへ移動.....	106
10.5.5	前のブックマークへ移動.....	106
10.5.6	全てのブックマークを削除.....	106
10.5.7	全ての行の展開/折りたたみ.....	107
10.5.8	テキストビュー 設定.....	107
10.6	グリッドビューメニュー.....	108
10.6.1	挿入.....	108
10.6.2	追加.....	113
10.6.3	子の追加.....	117
10.6.4	変換.....	121
10.6.5	テーブル.....	122
10.6.6	左に移動.....	124
10.6.7	右に移動.....	124
10.6.8	要素の中へ.....	124
10.7	XML メニュー.....	126
10.7.1	整形式のチェック.....	126
10.7.2	検証.....	126
10.8	比較とマージメニュー.....	127
10.8.1	ファイルの比較.....	127
10.8.2	ディレクトリ比較.....	131
10.9	ツールメニュー.....	134
10.9.1	DiffDog オプション.....	134
10.9.2	比較オプション.....	134
10.9.3	ドキュメントの比較オプション.....	134
10.9.4	カスタマイズ.....	135
10.10	ウィンドウメニュー.....	146
10.10.1	重ねて表示.....	146
10.10.2	左右に並べて表示.....	146
10.10.3	上下に並べて表示.....	146
10.10.4	現在開かれているウィンドウのリスト.....	147
10.10.5	ウィンドウ.....	147
10.11	ヘルプメニュー.....	148

10.12	ステータスと結果メッセージ.....	153
11	コマンドラインオプション	154
11.1	コマンドラインの構文.....	155
11.2	コマンドライン サンプル.....	157
12	バージョンコントロールシステム 統合	158
12.1	DiffDog を Git と統合する.....	159
12.2	DiffDog を TortoiseSVN と統合する.....	161
12.3	DiffDog を SmartSVN と統合する.....	162
12.3.1	他のバージョンコントロールシステム.....	163
13	ライセンス情報	167
13.1	電子的なソフトウェアの配布.....	168
13.2	ソフトウェアのアクティベーションとライセンスの計測.....	169
13.3	エンドユーザー使用許諾契約書.....	170
	インデックス	171

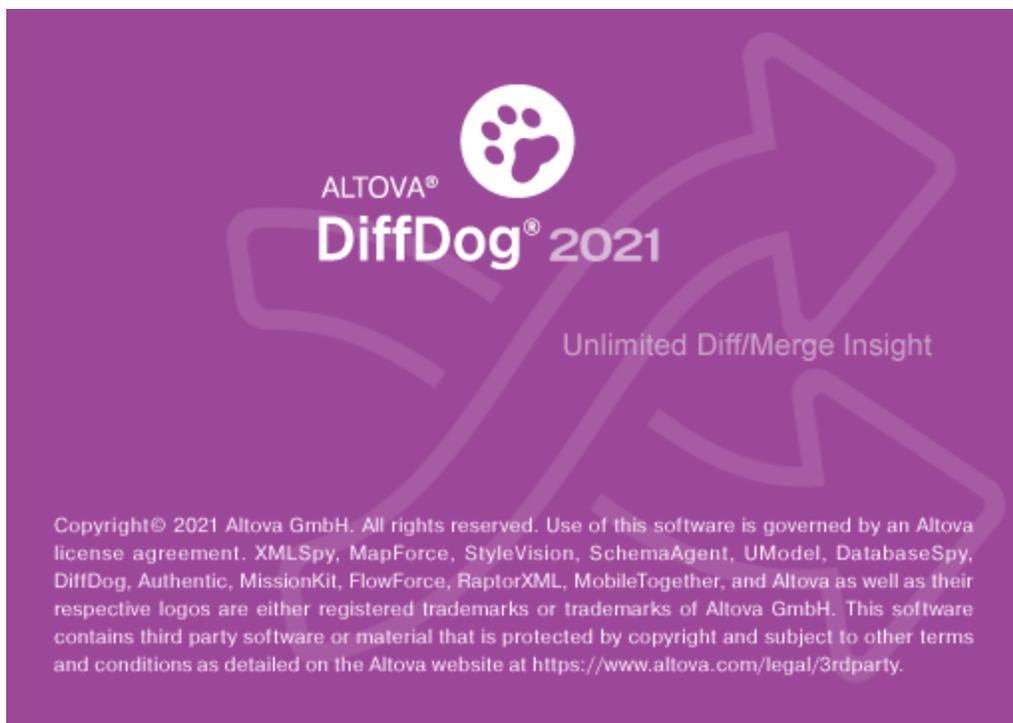
1 はじめに

Altova website: [🔗 差分ツール](#)

Altova DiffDog 2021 は、ディレクトリのペア、および ファイルのペア間の差分をインテリジェントに検索する、パワフルな差分アプリケーションです。3方向のファイル比較もサポートされています。

DiffDog は、プラットフォーム更新済みのWindows 7 SP1、Windows 8、Windows 10 とプラットフォーム更新済みのWindows Server 2008 R2 SP1 まで以降上で作動する32/64 ビット Windows アプリケーションです。[サポートメモ](#)も参照してください。

データは異なるベースで比較され、視覚的なユーザーインターフェイス内で素早く変更することのできるオプションにより比較することができます。更に、DiffDog はファイルの差分をマージし、2つのディレクトリのコンテンツを同期化し、変更されたファイルをコピーまたは削除することができます。



最終更新日: 2021 年 02 月 24 日

1.1 サポートメモ

DiffDog は次のオペレーティングシステムで作動します:

- プラットフォーム更新済みのWindows 7 SP1、Windows 8、Windows 10
- プラットフォーム更新済みのWindows Server 2008 R2 SP1 まで以降

32 ビット と64 ビット プラットフォームがサポートされています。

1.2 製品の機能

DiffDog には以下の主要な機能が搭載されています。

ファイルの比較

DiffDog 内の[ファイルの比較](#)は、ファイルの比較ウィンドウで実行されます。比較するファイルは、Windows Explorer に類似したウィンドウから参照、または、以前に開かれたファイルのドロップダウンリストから開くことができます。DiffDog は、ファイルの比較の組み合わせを記憶しており、比較のためファイルを選択すると、[前に比較された](#)選択されたファイルのリストを表示します。

ファイルはテキストまたは構造化された XML として比較されます。バイナリファイルと比較することもできますが、DiffDog は、バイナリファイル内の変更を表示することはできませんが、バイナリファイルの組み合わせが等価であるかを検知することができます。[ナビゲーションコントロール](#)の広い範囲で、差分の間を移動することができます。

広い範囲の[比較オプション](#)を使用することができます。ファイルのどのアスペクトを比較し、どのアスペクトを無視するかを定義することができます。比較オプションには、空白スペースと空白行の扱い、大文字と小文字の区別、差分が列、または、文字別に表示されるか、ノード型、名前空間、属性およびまたは要素の順序が無視されるか、エンティティが解決されるかなどが含まれます。

DiffDog の外部でファイルが変更されると、ファイルの比較ウィンドウ内で開かれているにもかかわらず、DiffDog は変更に注意し、必要に応じてファイルを再ロードします。

ファイル内の差分は、背景色と2つのペインの間の差分を接続するラインによって表示されているため、視覚的な分析を簡単に行うことができます。バイナリファイルはこの機能を適用できない点に注意してください！ 比較ウィンドウ内の2つのファイルの上下、および、左右のスクロールを同期化することができます。これにより対応する差分が常に表示されます。

ファイルの比較ウィンドウ内の編集とマージ

ファイルの組み合わせを比較した後、ファイルの比較ウィンドウ内から直接ファイルを[編集](#) および [保存](#) することができます。 [ファイルのバックアップ](#) がどのように編集され保管されるかを指定することができます。[編集中に](#)動的に比較を行うことができます。

DiffDog は、正規表現へのサポートも含むレベルの検索と置換の機能を搭載しています。ファイル間の差分を[マージ](#)することができます。すなわち、1つのファイル内の異なるブロックを他のファイル内の対応するブロックを置き換えるためにコピーすることができます。ファイル内の編集とマージは、無制限にやり直すことができます。

デレトリ比較

DiffDog 内の[デレトリ比較](#)は、デレトリの比較ウィンドウ内で作成されます。比較するデレトリは、デレトリの比較ウィンドウの個別のペイン内で開かれます。DiffDog には、選択することのできる最近比較されたデレトリのドロップダウンリストが表示されます。更に、デレトリがペイン内で開かれると、DiffDog は、そのデレトリが[前に比較された](#)デレトリのリストを提供することができます。生成された結果のペインはデレトリの比較ウィンドウ内で素早く開かれます。デレトリ比較内で比較する、または、無視するファイル型を指定する[フィルター](#)を定義することができます。

クイック比較モード)内のファイルのサイズとタイムスタンプをベースとしてデレトリは比較されます。または、ファイルのコンテンツをベースとして比較されます。比較されたデレトリは、展開または折りたたむことのできるツリーとして表示され、ファイルサイズと最終更新日などの詳細と共に表示されます。比較されたデレトリのビューは、比較の結果をベースとして、[比較](#)することができます。例えば、等しいデレトリとファイルを非表示し、等しくないファイルのみを表示することができます。デレトリとファイル間の差分は、色分けされた、簡単に識別することのできるアイコンにより[表示](#)されます。

DiffDog の外部でデレトリが変更されると、デレトリの比較ウィンドウ内で開かれますが、必要であれば、DiffDog は変更を確認し、デレトリを再ロードすることができます。等しくないデレトリとファイルを1つのペイン(デレトリ)から他のペインにコピーすることができます。デレトリを[同期](#)することもできます。すなわち、すべての不足している、または、更新されたファイルを1つのデレトリから他のデレトリにコピーし、不必要なファイルを削除することもできます。

インターフェイス

複数の比較ウィンドウ(ディレクトリとファイル)を1度にDiffDogで開くことができます。[ディレクトリの同期](#)は、ディレクトリ比較を実行後ディレクトリ比較ウィンドウから開くことができ、必要に応じてデフォルトの同期の設定をカスタマイズすることができるダイアログボックスで行うことができます。

GUIには、ユーザーの使いやすいメニューレイアウト、直感的なツールバーアイコン、クイックメニューの右クリック、および比較の結果をまとめるステータスバーが搭載されています。差分をハイライトするために使用される [背景色](#) を含む、ディレクトリの比較ウィンドウとファイルの比較ウィンドウの外観をカスタマイズすることができます。ファイルを [テキストビュー](#) または Altova の [グリッドビュー](#) で閲覧することができます。

ファイルの比較ウィンドウ内のドキュメントのテキストビューには、行番号、ソースの折り返し(すなわち、拡張と折り返しが可能な要素)、インデントガイド、ブックマーク、構文の色分け、および空白文字とラインフィードインジケータが搭載されています。[構文の色分け](#) は、ファイルの型に従って調整することができます。

グリッドビューは、XMLドキュメントなどの構造化されたドキュメントをテーブルで表示します。これにより、大きなスケールの変更を簡単に行うことができます(例えば、列の挿入は、グリッドの行により示される全てのノード内の列により示されるノードを挿入します)。

コマンドライン

DiffDogを[コマンドラインから呼び出すことができます](#)。DiffDog実行可能ファイルへのパスを設定する可能性を提供するソースコントロールシステムにアプリケーションを統合することができます。

1.3 DiffDog 用語

このドキュメントで使用されている用語は以下に定義されているとおりです。

比較

DiffDog には2つの比較の種類が存在します: ファイルの比較とディレクトリ比較。

ファイルの比較

ファイルの比較は、2つのファイルを比較する処理です。用語は、比較の結果の表示を参照するためにも使用されます。

ファイルの比較ウィンドウ

各ファイルの比較は、ファイルの比較ウィンドウに表示されます。DiffDog 内で一度に複数のファイル比較を開くことができますが、一度には1つの比較だけをアクティブ化することができます。

ディレクトリ比較

ディレクトリ比較は、2つのディレクトリを比較する処理です。用語は、比較の結果の表示を参照するためにも使用されます。

ディレクトリの比較ウィンドウ

ディレクトリの比較ウィンドウ内で、各ディレクトリ比較が表示されます。DiffDog 内で一度に複数のディレクトリ比較を開くことができますが、一度には1つの比較だけをアクティブ化することができます。

ディレクトリとフォルダー

これら2つの用語を互いに入れ替えることができます。

差分

2つの差分の型が識別されます: (1) 2つの比較されたファイル間の差分、および(2) 2つの比較されたディレクトリ間の差分。

(1) テキストとして比較される2つのファイルの差分は、(存在する場合)対応するファイル内の対応する行と異なるファイル内の行を表します。行内の差分を表示するオプションが選択されている場合でも、行全体は単一の差分として考えられます。(行全体がマージされるため、この点は、差分をマージする際にも重要です。マージは文字レベルで実行されません)。

テキストの1つまたは、複数の文字が異なる場合、テキストが不足する場合、比較されるファイル内に対応する行が存在しない行が存在する場合、テキストの行は対応する行から異なるものとして考えられます。XMLとして比較される2つのファイルの差分は、比較されたファイル内の対応するノードとは異なるノードを表します。一般的には、対応するテキストの値が一致しない場合、ノードは異なるものとして考えられます。「比較オプション」ダイアログボックス内で差分の内容を[詳細設定](#)することができます。

(2) 2つの比較されたディレクトリ間の差分は2つの比較されたディレクトリ内の対応するファイルを比較することにより決定されます。クイック比較モードでは、対応するファイルのファイルサイズとタイムスタンプが比較されます。これらの1つが異なる場合、ファイルは異なるものと考えられます。または、ディレクトリ内の対応するファイルのコンテンツをベースに比較されます。このような比較は通常のDiffDog ファイルの比較として実行され、差分によりファイルが異なるものとしてラベルされます。[等しいファイル](#)と[等しくないファイル](#)の定義を参照してください。

等しいファイル

ディレクトリ比較内の比較オプションに従い同一のファイルは、等しいファイルとみなされます。

等しくないファイル

ディレクトリ比較内には2つの種類の等しくないファイルが存在します: (1) 異なるファイル(次を参照してください: [差分の定義](#))、と(2) ファイルが1つのディレクトリ内に存在するが、他のディレクトリには存在しない場合。等しくないファイルは異なるファイルとは限らないことにご注意してください。

マージ

ファイル比較内で検出される差分をマージすることができます。すなわち、1つのファイルから他にコピーすることができます。コピーされるブロックは、比較されたファイル内の対応するブロック、またはスペースを上書きします。ファイルの比較では、アクティブな(現在の)差分のためにマージが行われ、両方向にマージを行うことができます。データベース比較内では、マージは全てのアイテム、または選択されたアイテムのために行われます。ディレクトリ比較内の等しくないファイルは、ペイン(ディレクトリ)から他にコピーすることができます。

同期

異なる2つのディレクトリは、それぞれ全ての等しくないファイルとサブフォルダーを1つのディレクトリから他のディレクトリにコピー、または削除して、または1つのディレクトリのみが存在するファイルを削除することにより、同期されます。デフォルトの同期オプションは、ディレクトリ全体のために変更することのできるディレクトリの同期ダイアログボックス内に表示されます。更に、個々のファイルまたはサブフォルダーのために同期のアクションを編集することができます。

1.4 比較モード

ファイルおよびディレクトリを DiffDog 内で複数の方法で比較することができます。比較モードは、比較モード内のアイコンツールバーにより表示されます。異なるツールバーアイコンまたは「比較とマージ」メニューから希望するモードを選択することにより比較モードを変更することができます。

使用することのできる比較モードは、下で説明されています。

ファイルの比較

ファイルの比較ウィンドウがアクティブな場合、または、ディレクトリの比較ウィンドウ内でクイック比較モードが対して切り替えられている場合、次の4つのファイルの比較モードから選択することができます。

-  テキスト: ファイルをテキストファイルとして比較します。テキストファイルとして扱われるコンテンツを持つディレクトリを比較します。
-  XML: ファイルを XML ファイルとして比較します。XML ファイルとして扱われるコンテンツを持つディレクトリを比較します。
-  **Binary:** ファイルをバイナリファイルとして比較します。バイナリファイルとして扱われるコンテンツを持つディレクトリを比較します。
-  ファイル拡張子: ファイル拡張子のための設定に従い、ファイルをテキストまたは XML として比較します。DiffDog オプション ダイアログ (「ツール | DiffDog オプション」) の [ファイル型](#) タブ内での設定を行うことができます。ディレクトリを、ファイルの拡張子に従い、テキストファイル、XML ファイル、Microsoft Word ファイル、または、バイナリファイルとして扱われるコンテンツと比較します。

ディレクトリ比較

[ディレクトリ比較](#) ウィンドウがアクティブな場合、クイック比較モードと、上のファイルの比較セクションで説明されている4つのファイルの比較モードから選択することができます。

-  **クイック比較:** ディレクトリとサブディレクトリ内のファイルを変更されたサイズと日付に基づき比較します。このモードをオン、または、オフに切り替えることができます。オフに切り替えられると、4つのファイルの比較モードが使用できるようになります。ファイルの比較モードの1つを選択すると、ディレクトリはテキスト、XML、または、バイナリファイルのコンテンツとして比較されます。

現在の比較モード

DiffDog は、現在の比較モードの概念を使用しています。これは与えられた時点で最も新しい比較モードです。比較ウィンドウの型 (ファイルとディレクトリ) のために、個別の現在のモードが存在します。それぞれの比較ウィンドウのための現在の比較モードは、その型の比較ウィンドウのために最後に選択されたモードです。アプリケーションが開始されると、現在の比較モードは、最後にアプリケーションが閉じられた時に使用されていた比較モードです。

各ファイルの比較ウィンドウとディレクトリの比較ウィンドウには比較モードがあります。

新規の比較ウィンドウ (ファイルまたはディレクトリ) が開かれると、比較ウィンドウのその型 (ファイルまたはディレクトリ) のための現在の比較モードが存在します。クイック比較モードがディレクトリ比較のための現在の比較モードではない場合、ファイルの比較のための現在の比較モードは新規のディレクトリ比較ウィンドウに適用されます。

ディレクトリの比較のためにクイック比較モードが現在の比較のモードとして選択されていない場合、ファイルの比較のための現在の比較モードは、新規のディレクトリに対して適用されます。比較ウィンドウの比較モードを変更すると、比較モードは、特定の比較ウィンドウに適用されます。開かれている他の比較ウィンドウに影響はありません。しかしながら、新規に選択された比較モードは現在の比較モードになり、次に開かれる全ての比較ウィンドウに適用されます。

1.5 DiffDog インターフェイス

DiffDog インターフェイスは、複数のファイルの比較ウィンドウとディレクトリの比較ウィンドウを DiffDog アプリケーション ウィンドウ内で表示します。下のスキーマのダイアグラムは、インターフェイスの主要な部分を表示しています。これは複数のインターフェイスの部分の短い説明と共に表示されています。



タイトルバー

タイトルバーは、アプリケーション名を表示します。(すなわち、DiffDog) の後に、アクティブなファイルの比較ウィンドウの名前、またはディレクトリの比較ウィンドウが表示されています。右側のボタンにより、DiffDog アプリケーション ウィンドウを最小化、最大化、または閉じることができます。

メニューバーとツールバー

メニューバーはメニューを表示します。各ツールバーは、DiffDog コマンドのためのアイコンのグループを表示します。メニューバーとツールバーのウィンドウを希望する場所にドラッグすることにより位置を変更することができます。右側には、アクティブな比較ウィンドウを最小化、縮小、最大化、または閉じるボタンがあります。

ファイル/ディレクトリ比較ウィンドウ

複数のファイルの比較ウィンドウおよびまたはディレクトリの比較ウィンドウ can be を同時に開くことができますが、そのうちの1つのみがアクティブです。アクティブな比較ウィンドウの名前がタイトルバーに表示され、名前タブがハイライトされ、(DiffDog アプリケーションウィンドウの下に) 名前が赤字で表示されます。他の開かれた比較ウィンドウの名前タブは、灰色で表示され、名前は標準のフォントで表示されます。他の比較ウィンドウをアクティブな比較ウィンドウにするには、名前タブをクリックします。

各比較ウィンドウ(ファイルMicrosoft Word または ディレクトリ)には、横に並べられた等しい幅の2つのペイン、2つのペインの下に比較ウィンドウのためのステータスバーがあります。各ペインの上はファイル/ディレクトリ選択エリアです。これは、比較するファイル/ディレクトリ名、を入力するエディットボックス、または開かれたファイルまたはディレクトリを選択することができるドロップダウンメニューにより構成されています。このエリアの右側のペインにより、ファイルとディレクトリを参照し、ファイルを開き、保存し、更新することができます。各ペインで開かれているファイルとディレクトリは、このための他のペインのファイルとディレクトリに関連せず開くことができます。両方の比較ウィンドウのペインでファイル/ディレクトリが開かれると、比較を行うことができます。

ディレクトリの比較ウィンドウ内で、ディレクトリはツリーとして表示されます。ツリーのレベルはディレクトリレベルでダブルクリックすることにより、展開または折りたたむことができます。更に、個別の列の幅は希望する幅に枠をドラッグすることにより調整することができます。ファイルの比較ウィンドウ内では、ドキュメントのビューは「表示」とテキストビューメニュー内のコマンドを使用してカスタム化することができます。

比較ウィンドウステータスバー

比較ウィンドウのステータスバーは、その比較のステータスを示します。ファイルとディレクトリが開かれていない場合、これは表示されます。比較が実行されると、比較の種類が比較の結果と共に報告されます。比較ウィンドウステータスバーアプリケーションステータスバーと区別される必要があります。

アプリケーションステータスバー

アプリケーションステータスバーは、アプリケーションウィンドウの下に表示され、アプリケーションレベルの情報を表示しています。最も役に立つ情報は、ツールバーアイコンにマウスをかざすと表示されるヒントです。アプリケーションステータスバーと比較ウィンドウステータスバーを区別することは重要です。DiffDog の64 ビットバージョンを使用する場合、これは、ステータスバー内のアプリケーション名の後に付くサフィックス(x64)により示されています。サフィックスが存在しない場合は、32 ビットバージョンです。

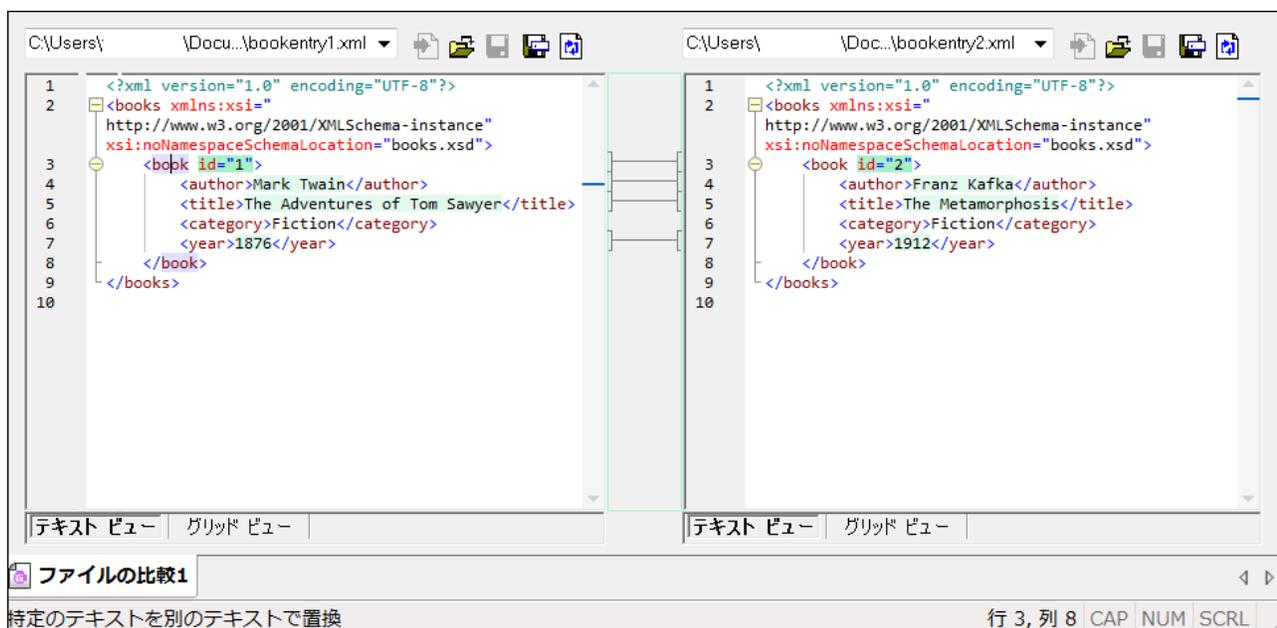
2 ファイルの比較

Altova Web サイト: [ファイル比較ツール](#)

このチャプターでは、DiffDog を使用して2つのファイルを比較する方法について説明されています。ここで含まれる情報は、ファイル型の大部分に適用することができます。

メモ ZIP に準拠するファイルと Office Open XML (OOXML) ファイルを比較するには、(ZIP と OOXML ファイルは複数のファイルが含まれるため) ファイルの比較ではなくディレクトリ比較を実行してください。それ以外の場合、ZIP に準拠するファイルをファイルの比較を使用して比較しようとすると、DiffDog は代わりにディレクトリ比較を使用するようにプロンプトします。詳細に関しては、次を参照してください: [ディレクトリの比較](#)。

DiffDog 内でファイルの比較を行うには、ファイルをファイルの比較ウィンドウに追加する必要があります。ファイルの比較ウィンドウより、ファイルの差分を左右に並べて確認することができます。順序を追って説明は、次を参照してください: [ファイルの比較の実行](#)。



ファイルの比較ウィンドウ

上記のように、ファイルの比較ウィンドウは、テキストビューとグリッドビューという2つのペインから構成されています。テキストビューは、多くのファイル型のデフォルトのエディターです。ワードラップ、コードの折りたたみ、行番号、複数のファイル型のための構文のハイライト、テキストの検索と置換機能、および、正規表現を使用した検索などの複数のナビゲーション補助を提供するファイルのコンテンツを表示します。XML 比較の場合、ファイルとテキストビューには、開始および終了タグの自動ハイライト、および、整形出力などの多くの機能が搭載されています。詳細に関しては、次を参照してください: [テキストビュー](#)。

グリッドビューは、整形形式のファイル、通常 XML ドキュメントに適用することができます。特定のセクションを簡単に展開、および、折りたたむことができ、XML タグを誤って変更することがなく、テーブル内で行うようにコンテンツを変更することができ、ドキュメントの構造が一目でわかるためとても役に立ちます。詳細に関しては、次を参照してください: [グリッドビュー](#)。

必要な場合は、テキストビューまたはグリッドビューで直接ファイルを編集することができます(次を参照してください: [ファイルの編集](#))。変更を元のファイルに保存することができます。または、変更を「元に戻す」を使用して、または、元のファイルをディスクから再ロードして元に戻すこともできます。1つのファイルから他のファイルへのマージ、差分に関する情報は、次を参照してください: [差分のマージ](#)。

同じまたは同様のファイルを頻繁に比較する場合、ファイルとして比較を保存し、後に開くことができます(次を参照してください: [比較の保存とロード](#))。

多種の比較オプションをカスタマイズすることができます(次を参照してください: [ファイルの比較オプションの変更](#))。

2.1 ファイルの比較の実行

DiffDog 内でファイル比較を開始するにはお通りの方法があります:

1. DiffDog グラフィカルなユーザーインターフェイスから開始する
2. Windows Explorer から DiffDog を使用して比較する コンテキストメニューコマンドを使用してファイルを右クリックします。

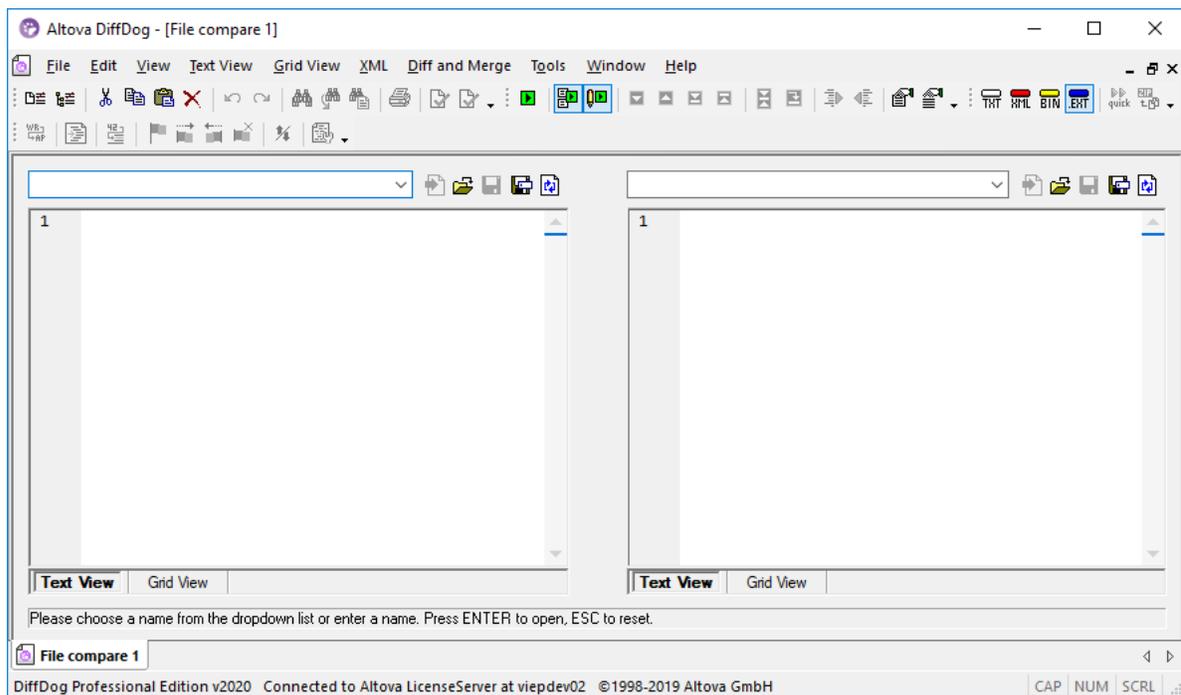
設定に従い、比較は両方のファイルが開かれると自動的に行われます。ボタンクリックにより比較を明示的に開始することもできます。

これらの詳細は以下で説明されています。

DiffDog から比較を開始する方法

DiffDog を使用したファイルの比較の実行:

1. メニューオプション「ファイル | ファイルの比較」を選択、または「ファイルの比較」 ツールバーボタンをクリックします。



2. 比較されているファイル型 (バイナリ、テキスト、XML、または拡張子ベースの) に適切な比較モードを選択します。詳細に関しては、次を参照してください [比較モード](#)。
3. 比較するファイルを選択します。比較方法が以下に上げられるようになります:
 - 既存のファイルの比較ウィンドウの左側のペインから、「開く」 ボタンをクリック、「開く」ダイアログボックス内のファイルを選択します。
 - ファイルのフルパスを入力し、「適用」 ボタンをクリックします。



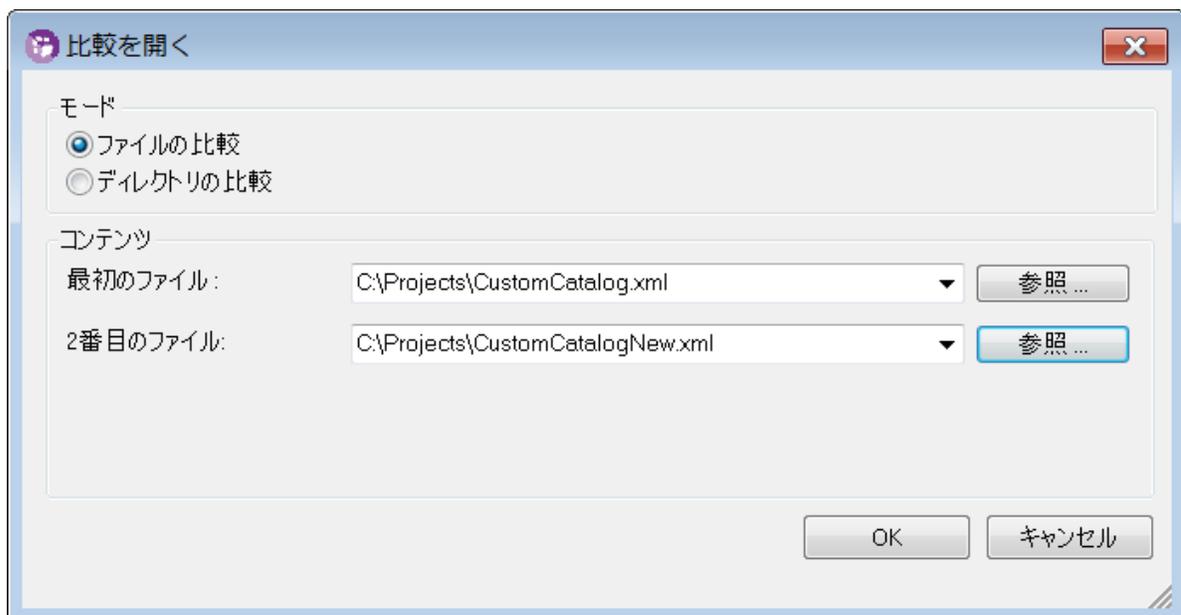
- Windows Explorer からファイルをペインにドラッグします。
- ドロップダウンリストから前に比較されたファイルを選択します。



4. 右側のペインのために同様のステップを繰り返します。

または、ファイルの比較を以下のように実行します:

1. ファイルメニューからをクリックします。「開く」(または **Ctrl+O** を押します。)



2. 比較を開くダイアログボックス内で「ファイルの比較」を選択します。
3. 比較するファイルを参照し、「OK」をクリックします。

Windows Explorer からファイル比較を開始する

ファイルの比較の別の方法は、以下のとおりです:

1. Windows Explorer 内で、2つの比較するファイルを選択します。(Windows Explorer 内で、複数のファイルを選択するには、ファイルを選択中に **Ctrl** キーを押します。)
2. ファイルの1つを右クリックし、コンテキストメニューから、「Altova DiffDog を使用して比較する」コマンドを選択します。

自動的な比較

デフォルトで、比較される2つのドキュメントが比較ウィンドウロードされると、比較は自動的に行われます。自動比較を有効化、または無効化するには、以下を行います:

- 「比較とマージ」メニューから、比較を自動的に開始するメニューコマンドを開きます。
- 比較を自動的に開始する  ツールバーボタンをクリックします。

更に、比較は明示的に複数回開始することができます。比較を明示的に開始する場合、以下を行います:

- 「比較とマージ」メニューから、「比較の開始」コマンドを開きます。
- 「比較の開始」  ツールバーボタンをクリックします。

ドキュメントを編集する際、編集中に比較するコマンドがオンの切り替えられている場合、入力中に動的に比較されます。このオプションをオンまたはオフに切り替えるには、以下を行います:

- 「比較とマージ」メニューから、編集中に比較するコマンドを開きます。
- 編集中に比較する  ツールバーボタンをクリックします。

「比較の前にオプション設定を表示する」コマンドがオンの切り替えられると、「比較オプション」ダイアログボックスが比較が実行される前に表示されます (DiffDog に自動的に編集中に実行される場合を除外します)。異なるオプションを使用して比較を実行する場合、これは役に立ちます。このオプションをオンまたはオフに切り替えるには、以下を行います:

- 「比較とマージ」メニューから、比較の前にオプション設定を表示するコマンドを開きます。

2.2 ファイルの比較オプションの変更

ファイルの比較のオプションは「比較オプション」ダイアログボックス内で変更することができます。このダイアログボックスは XML 比較のために個別のタブを与えます。「比較オプション」ダイアログボックスを開くには以下を行います:

- 「ツール」メニューから「比較オプション」をクリックします。

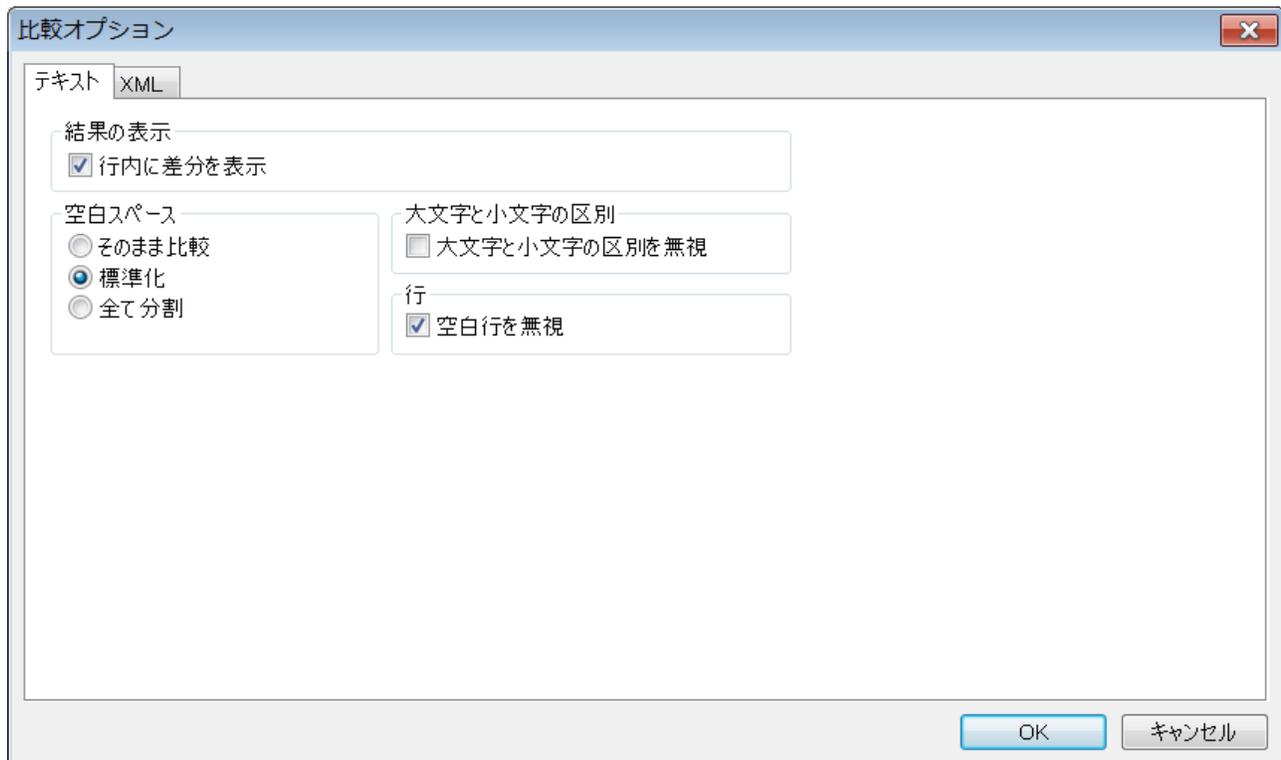
更に、「比較とマージ」メニューには、メニューを使用してオン、またはオフに切り替えることのできる切り替えコマンドがあります:

- [比較の前にオプション設定を表示する](#)
- [比較を自動的に開始する](#)
- [編集中に比較する](#)
- [「最近比較された組み合わせ」をサポートする](#)

ファイルの比較のための全般のオプションは、DiffDog オプションダイアログボックスの[ファイルの比較](#)タブで使用することもできます。

2.2.1 テキストの比較のためのオプション

「比較オプション」ダイアログボックスのテキスト タブは、テキストの比較のために使用されるオプションを表示します。



結果の表示

「ライン内で差分を表示する」チェックボックスを選択して、文字レベルで差分を表示することができます。「テキストとして比較する」

 ボタンは、行内の差分を表示するために有効化されている必要がある点に注意してください(次を参照してください! [比較モード](#))。

<code><Covering>Leather</Covering></code>	7	<code><Covering>Leather</Covering></code>
<code><SatNav>Saqua</SatNav></code>	8	<code><SatNav>Global Inc.</SatNav></code>

チェックボックスが無効化されていると、差分は行レベルのみで表示されます。すなわち、文字レベル差分は、ハイライトされません。行全体が差分を含むと表示されます。

<code><Covering>Leather</Covering></code>	7	<code><Covering>Leather</Covering></code>
<code><SatNav>Saqua</SatNav></code>	8	<code><SatNav>Global Inc.</SatNav></code>

空白文字

次を参照してください! [空白文字のための比較オプション](#)。

大文字と小文字の区別

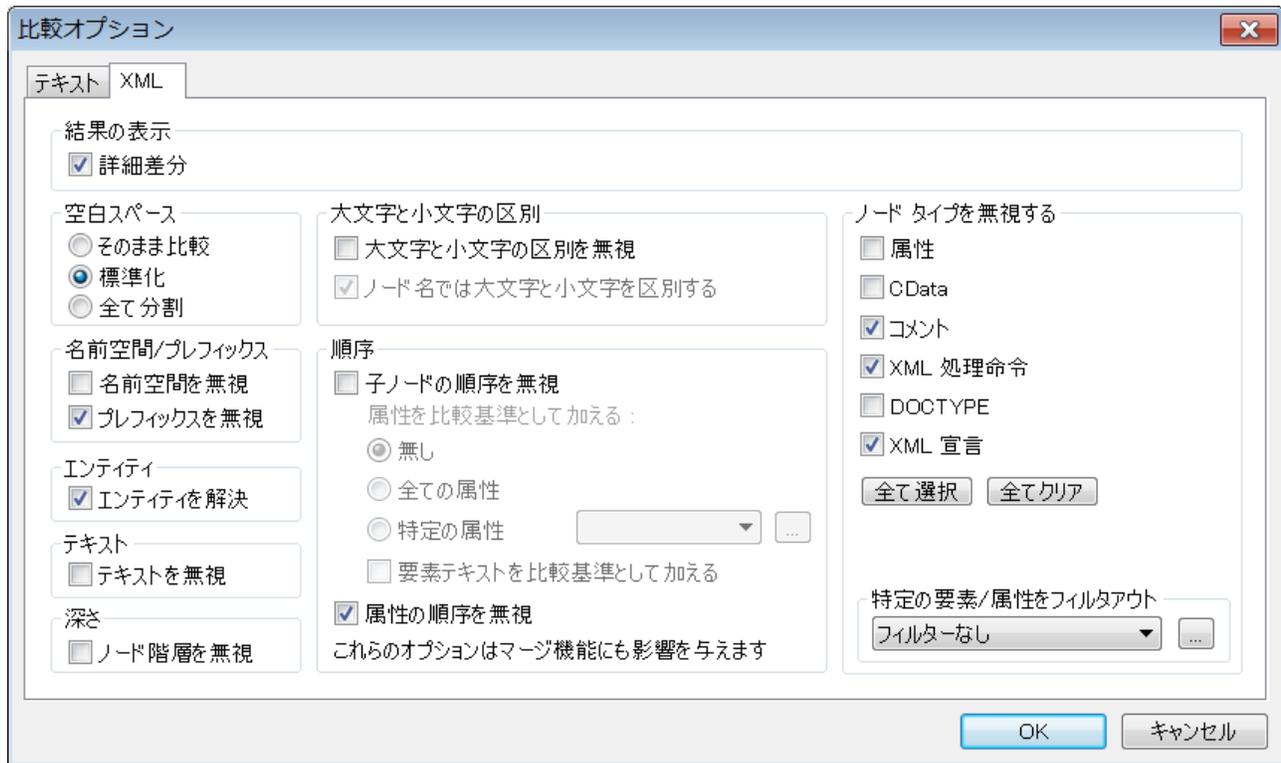
差分をチェックする場合、大文字と小文字の区別が無視される場合、「大文字と小文字を区別しない」ボックスを有効化します。

ライン

空白行が無視されるかどうかを定義することができます。

2.2.2 XML 比較のためのオプション

「比較オプション」ダイアログボックスのXML タブは、XML をベースにした比較のために使用されるオプションを表示します。



結果の表示

「詳細差分」オプションにより、差分を詳細に表示することができます。または、削減された項目の差分を表示することができます（ナビゲーションをより速く行うことができます）。詳細差分がオフに切り替えられていると、異なる連続したノードは単一のノードとして表示されています。これは、要素ノードとその子属性ノードとして、異なる階層的なレベル上の連続したノードに適用されます。マージと差分のエクスポートするためには、詳細差分はオンに切り替えられ、有効化されている必要があります。

空白文字

次を参照してください！ [空白文字のための比較オプション](#)。

名前空間/プレフィックス

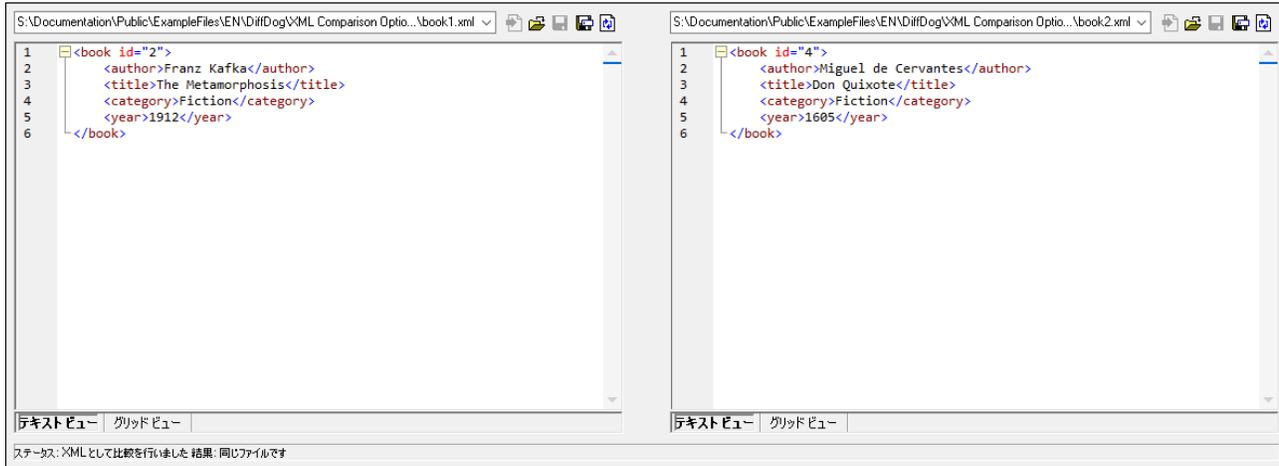
差分を検索する際、名前空間とプレフィックスを無視するためのオプションです。

エンティティ

「エンティティの解決」が選択されると、ドキュメント内のエンティティは解決されます。それ以外の場合、エンティティがそのまま比較が行われます。

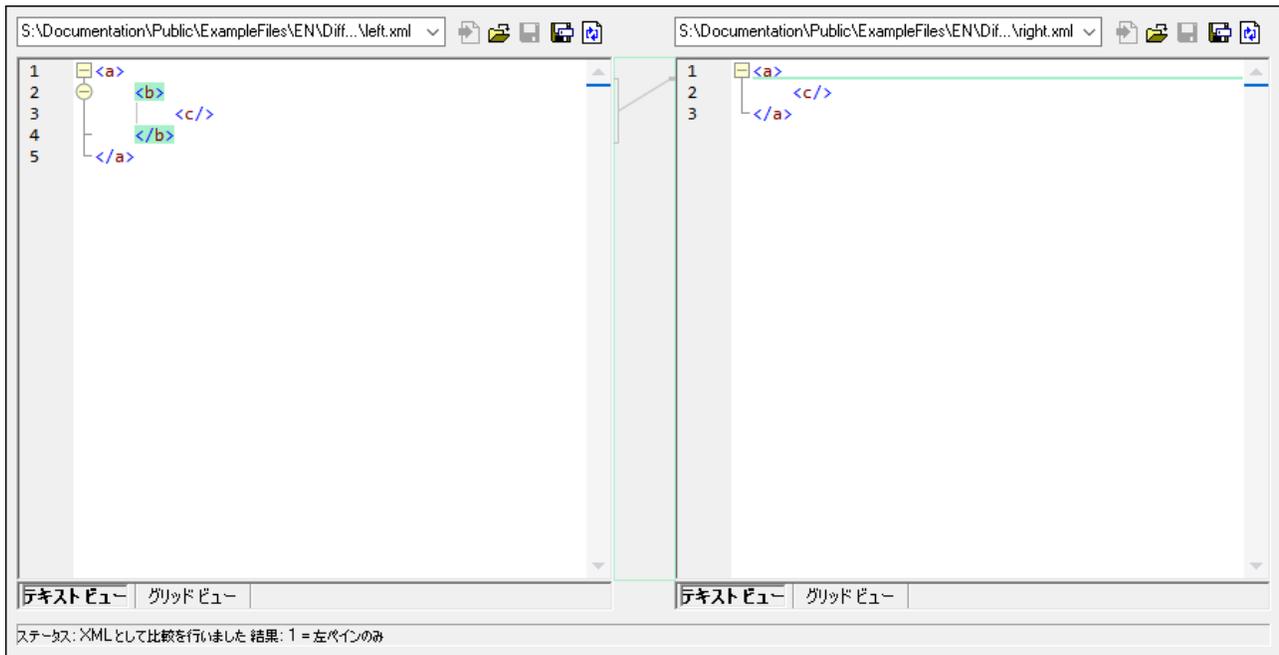
テキスト

「テキストを無視」が選択されると、対応するテキストノード内の差分は報告されません。XML 構造のみが比較されますが、テキストコンテンツは比較されません。これは2つのXMLの構造を比較する際に役立ち、実際のコンテンツからは無視されます。例えば「テキストを無視」チェックボックスが選択されていると仮定する場合、(コンテンツは異なりますが)次の2つのXMLファイルは同等です。



深さ

「深さを無視」が選択されていると、要素は深さに関係せず同等として扱われます。例えば、チェックボックス「深さを無視」が選択されている場合、下に表示される比較では、要素 `<c>` は両側で同等として扱われます。



メモ 「ノードの深さを無視」チェックボックスが選択されていると、差分のマージとエクスポートは不可能です。

大文字と小文字の区別

「大文字と小文字の区別を無視」チェックボックスがチェックされていると、大文字と小文字が区別され、ノード内の大文字と小文字を無視、または、無視するオプションが与えられます。

順序

「子ノードの順序を無視する」が選択されている場合、ノードレベル内の個別のノードが一意のノード名を持つことを想定して、要素の子ノードの相対的な位置は無視されます。

同じ名前を持つ要素ノードが兄弟ノードの2つのセット内に存在する限り、これら2つのセットは同じと考慮されます。次のサンプル内では、「子ノードの順序を無視する」オプションが無効化されている場合、<Name> と <FirstName> ノードの順序は、左側と右側のファイル内で異なることがマークされています。

2	<Person Manager="true" Developer	2	<Person Developer="false" Manage
3	<Name>Smith</Name>	3	<FirstName>John</FirstName>
4	<FirstName>John</FirstName>	4	<Name>Smith</Name>
5	<Phone type="office">+3375456	5	<Phone type="office">+3375456

「子ノードの順序を無視する」オプションをチェックすると、比較ウィンドウ内のこの差分が無視されます。

2	<Person Manager="true" Developer	2	<Person Developer="false" Manage
3	<Name>Smith</Name>	3	<FirstName>John</FirstName>
4	<FirstName>John</FirstName>	4	<Name>Smith</Name>
5	<Phone type="office">+3375456	5	<Phone type="office">+3375456

特定のノードレベル上のノード名が一意の場合のみ、DiffDog は子ノードの順序を無視することができることに注意してください。例えば、異なる属性が与えられているノードの複数の発生が表示されると、異なる順序で表示されるノードは「子ノードの順序を無視する」が選択されている場合でも、比較されている兄弟セット内で同じ名前と属性を持つノードと異なるものとして考えられることに注意してください。

サンプルの<Phone> ノードに異なる属性が追加されると、<Phone> ノードの発生順序内の差分が、「子ノードの順序を無視する」選択されている場合でも、比較ウィンドウ内に表示されます。

4	<FirstName>John</FirstName>	4	<Name>Smith</Name>
5	<Phone type="office">+3375456	5	<Phone type="office">+3375456
6	<Phone type="mobile">+331894	6	<Phone type="home">+3375584
7	<Phone type="home">+3375584	7	<Phone type="mobile">+331894

異なる属性が割り当てられている子ノードの発生順序を無視する場合、これらの属性を比較の条件として追加することができます。DiffDog 1.0 におけるオプションが扱います: (i) 全ての属性を追加し、(ii) サンプル内の<Phone> ノード内の両方の結果が等しいと表示される、特定の属性のリストを定義します。しかしながら、特定の属性 オプションを選択すると、属性グループを必要に応じて最初に定義する必要が扱います。

4	<FirstName>John</FirstName>	4	<Name>Smith</Name>
5	<Phone type="office">+3375456	5	<Phone type="office">+3375456
6	<Phone type="mobile">+331894	6	<Phone type="home">+3375584
7	<Phone type="home">+3375584	7	<Phone type="mobile">+331894

同じ属性が割り当てられている子ノードの発生が報告される場合があります(すなわち、サンプル内に3つ以上の携帯電話番号を持つ個人が存在しています)。下のスクリーンショットでは、すべての属性 ラジオボタンが選択されていますが、差分がレポートされています。これは 2 つの携帯電話の番号がリストされていることにより確認することができます。

4	tName>John</FirstName>	4	ne>Smith</Name>
5	ne type="office">+3375456687456<	5	ne type="office">+3375456687456<
6	ne type="mobile">+331894786914<	6	ne type="home">+337558458935<
7	ne type="home">+337558458935<	7	ne type="mobile">+331894786924<
8	ne type="mobile">+331894786924<	8	ne type="mobile">+331894786914<

DiffDog 内では、比較の条件として要素テキストを追加するチェックボックスを有効化してこのシナリオに対応することができます。要素テキスト、属性の値、およびノード名が同一で、ノードの順序のみ異なる場合、差分は報告されません。

4	tName>John</FirstName>	4	ne>Smith</Name>
5	ne type="office">+3375456687456<	5	ne type="office">+3375456687456<
6	ne type="mobile">+331894786914<	6	ne type="home">+337558458935<
7	ne type="home">+337558458935<	7	ne type="mobile">+331894786924<
8	ne type="mobile">+331894786924<	8	ne type="mobile">+331894786914<

順序を無視 オプションが指定されていると、マージ機能も順序を無視します。「子ノードの順序を無視する」の選択が解除されると、順序付けられた差分は、差分として表示されます。

属性の順序を無視するオプションも使用することができます。単一の要素の属性の順序に適用することができます。上のサンプルでは、「属性の順序を無視する」オプションがチェックされており、DiffDog は、このため、<Person> ノードの属性の順序を無視しています。「順序または子ノードを無視する」チェックボックスが有効化されていると、属性の順序は常に無視されます。下のスクリーンショットでは、「子ノードの順序を無視する」および「属性の順序を無視する」チェックボックスは、無効化されます。

2	<Person Manager="true" Developer="false">	2	<Person Developer="false" Manager="true">
3	<Name>Smith</Name>	3	<FirstName>John</FirstName>
4	<FirstName>John</FirstName>	4	<Name>Smith</Name>

ノードの型を無視する

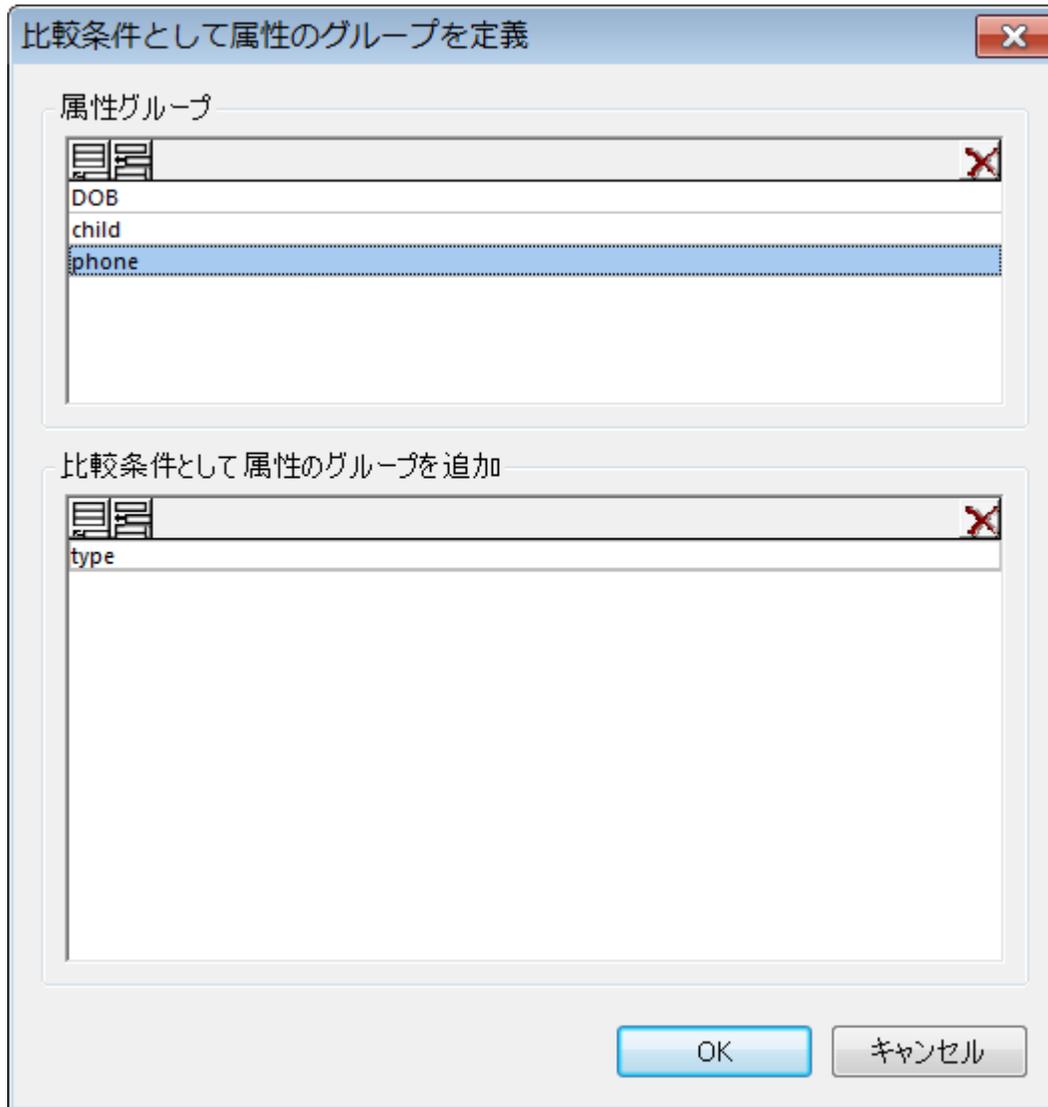
比較セッション内で比較されないノードの型をチェックします。無視される可能性のあるノード型は、属性、CDATA、コメント、処理命令、DOCTYPE ステートメントとXML 宣言です。

特定の要素/属性のフィルターアウト

比較の都度、可能な場合は、どの要素 および/または属性が比較の対象にならないかを設定する [フィルターを定義](#) することができます。1つ以上のフィルターを定義することができます。全ての比較のために、特定の要素/属性 グループボックスのフィルター内のドロップダウンリストから使用するフィルターを選択することができます。

2.2.2.1 属性グループの定義

順序グループボックス内の特定の属性 ラジオボタンを選択すると比較の条件として使用することのできる異なる属性のリストを作成することのできる、「属性のグループを比較の条件として定義する」ダイアログボックスが開かれます。



比較の条件として考慮される属性は、属性グループ内で整理されています。すなわち、最初に属性グループを定義し、グループに対応する属性を追加します。「比較オプション」ダイアログボックス内の「特定の属性」ドロップダウンリストから使用される属性グループを選択します。

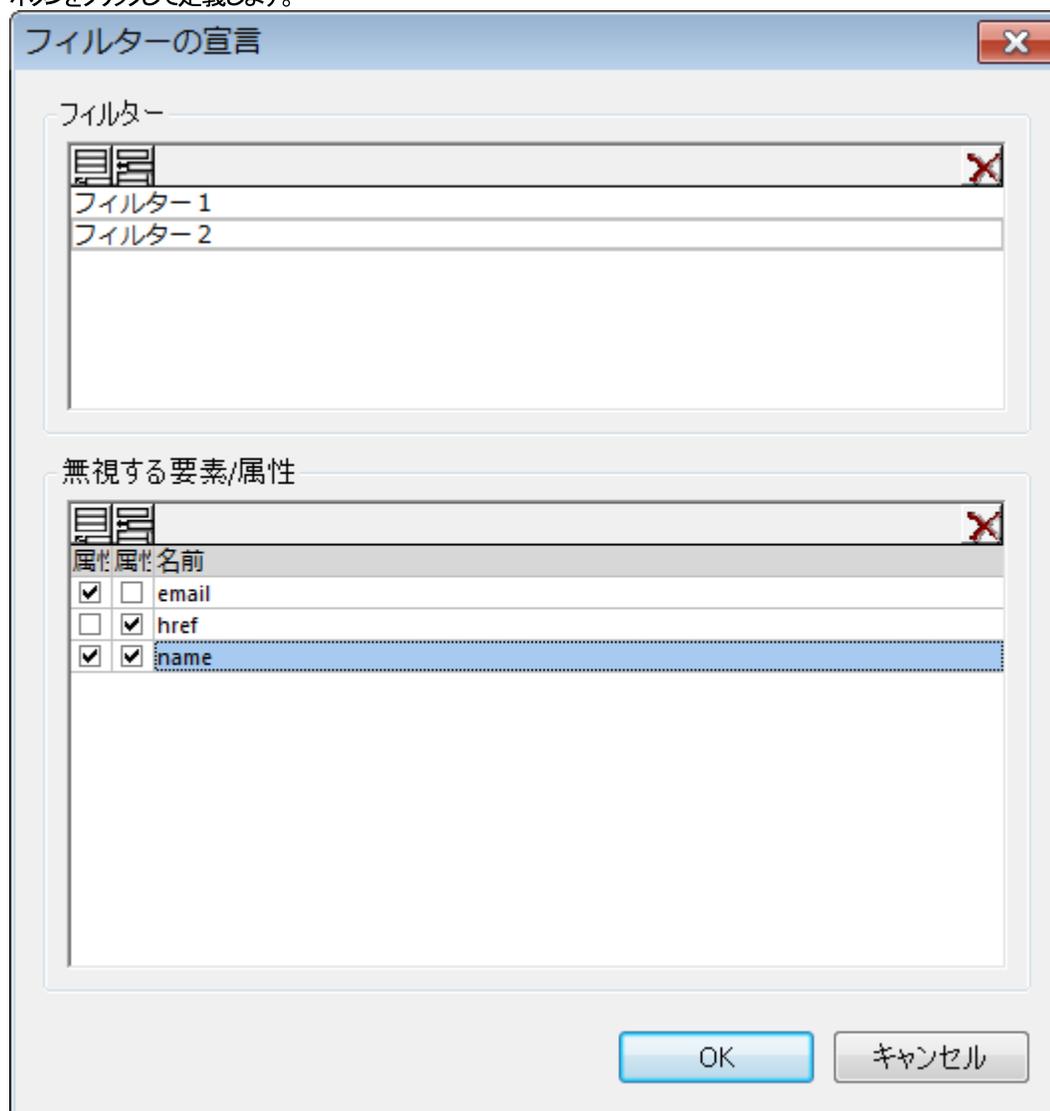
比較の条件として考えられる属性のグループを定義する

1. メニューオプション「ツール | 比較オプション」を選択します。または、比較とマージツールバー内の「比較オプション」 ボタンをクリックし、XML タブに変更します。
2. 「順序」グループボックス内で、ラジオボタン「特定の属性」を有効化し、ドロップダウンリストの横の参照  ボタンをクリックし、「比較の条件として属性のグループを定義する」ダイアログボックスを開きます。
3. 「属性グループ」グループボックス内で追加  または挿入  グループの対応するアイコンをクリックして、名前を与えます。属性を指定する前にグループを定義します。「属性グループ」グループボックス内に属性は入力しません。

- 属性グループが選択されていると、「比較として属性を追加する」グループボックス内で、リストに要素を追加  または挿入  するために、対応するアイコンをクリックし、考慮される属性の名前を入力します。各属性のための要素に追加のリストを追加します。
- 属性グループの定義が完了すると、「OK」をクリックします。定義された属性グループは、「比較オプション」ダイアログボックス内のコンボボックスで使用することができます。

2.2.2.2 比較のための要素と属性を無視するようにフィルターを定義する

フィルターは「フィルターの定義」ダイアログボックスをポップアップする、「比較オプション」ダイアログボックス内の「フィルターの定義」  ボタンをクリックして定義します。



上にイメージでは、2つのフィルター(Filter1 と Filter2) が定義されています。そして、Filter1 が要素 email と name、および属性 href と name、が比較のために無視されるように指定します。

比較のために要素/属性を無視するフィルター

1. メニューオプション「ツール | 比較オプション」を選択します。または、比較とマージツールバー内の「比較オプション」 ボタンをクリックし、XML タブに変更します。
2. 特定の要素/属性のフィルターアウト グループボックス内から、「フィルターの定義」 ボタンをクリックして、「フィルターの定義」ダイアログボックスを開きます。
3. フィルターグループボックス内で、フィルターをフィルターのリストに追加  または、挿入  し、名前を与えます。
4. フィルターが選択されると、要素/属性の無視 グループボックス内で、対応するアイコンをクリックして、要素またはフィルターをリストに追加  または、挿入  します。Ele チェックボックスはデフォルトでアクティブ化されています。
5. Ele チェックボックス およびまたは Att チェックボックスを無効化し、必要な場合、要素の名前/属性を入力します。
6. 任意で、追加の要素/属性のためにステップ 4 と 5 を繰り返します。
7. フィルターの定義が完了すると、「OK」をクリックします。定義されたフィルターは「比較オプション」ダイアログボックス内のエロボックスで使用することができます。

2.2.3 空白文字のための比較オプション

空白文字は以下であることができます: スペース、タブ、キャリッジリターン、および改行。空白文字のための比較オプションを「ツール | 比較オプション」メニューから変更することができます。

空白スペース

そのまま比較

標準化

全て分割

「そのまま比較」オプションが有効化されていると、テキスト A はテキスト B に対して等しいと考慮されます。(空白文字を含むテキスト A 内の文字がテキスト B 内の文字に対応する場合、空白文字は比較のために関連付けられます。

「標準化」オプションが有効化されていると、標準化の後に、テキスト A 内の文字がテキスト B に対応する場合、テキスト A はテキスト B に対して等しいです。「標準化」は、単一のスペース文字により置き換えられる空白文字の複数の連続した発生を意味します。また、先頭または末尾の空白文字は、テキストの各ラインから削除されます。

メモ XML () 比較の場合、要素と属性の値内の先頭または末尾の空白文字は削除されます。

「すべて削除」オプションが有効化されていると、空白文字を削除後、テキスト A 内の文字がテキスト B に対応する場合、テキスト A はテキスト B に対して等しいと考慮されます。すなわち、比較のために関連付けられていないと考えられるテキストから空白文字は削除されません。

メモ XML 比較の場合 ()、属性または要素値の外部の空白文字比較のために考慮されません。上記の空白文字オプションに当てはまります。

次のテーブルは、テキスト () または Word 比較を使用した各オプションのテキスト-テキストの比較の差分を表示しています。

テキスト A	テキスト B	そのまま	標準化	ストリップ
"a"	"a "	等しくない	等しい	等しい
"a"	" a"	等しくない	等しい	等しい
"a a"	"a a"	等しくない	等しい	等しい

次のテーブルは、XML () 比較を使用した各オプションのテキストテキストの比較の差分を表示しています。

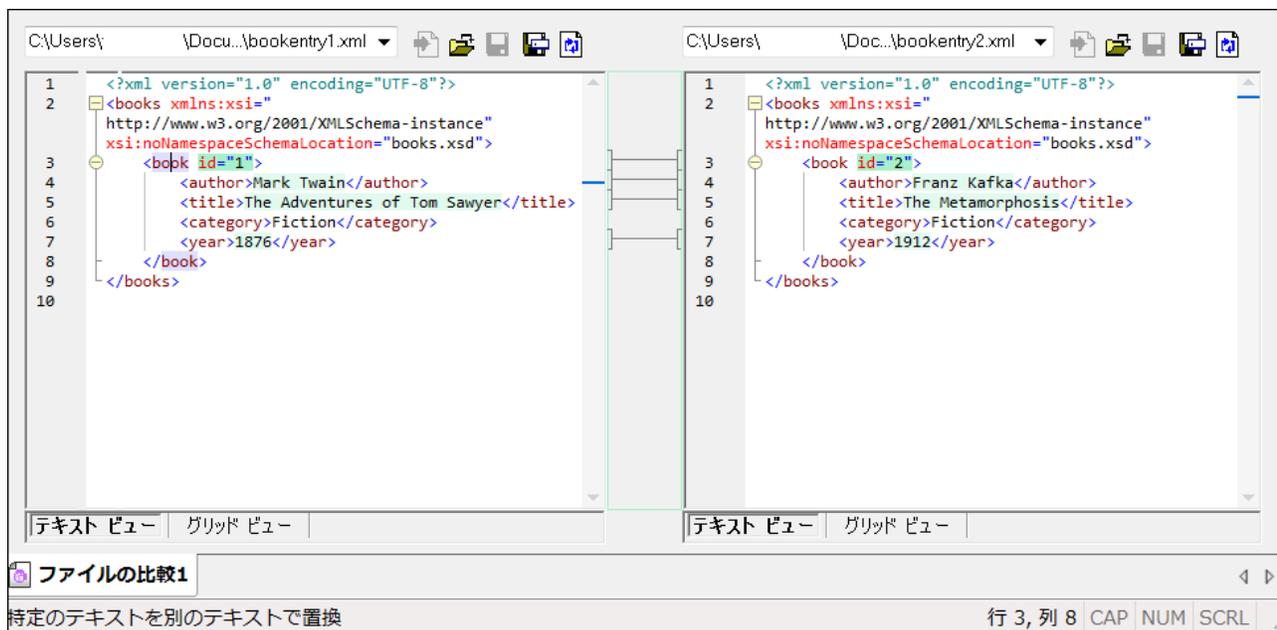
テキスト A	テキスト B	そのまま	標準化	ストリップ
<?xml version="1.0"	<?xml version="1.0"	等しい	等しい	等しい
<book id="1">	<book id=" 1 ">	等しくない	等しい	等しい
<author>Mark Twain</author>	<author>Mark Twain</author>	等しくない	等しい	等しい

2.3 ファイル内の差異の表示

次の比を開始後 2 つのファイルの差分が、ハイライトされたテキストのブロックとして表示され、比較の結果が比較ウィンドウステータスバー内で報告されます。通常、[テキストビュー](#)が差分を表示するために使用されますが、整形形式を比較すると、[グリッドビュー](#)に切り替えることもできます。

2.3.1 テキストビュー

テキストビューは、DiffDog 内で比較されているファイルのペアのための標準表示モードです。2つのドキュメント内の対応する差分は、識別と分析を簡単にできるようにリンクされています。[同時スクロールボタンに切り替えられる](#)、両方のドキュメントがスクロールされ、対応する差分が常に同時に確認することができます。



現在の差分が他の差分と異なる色でハイライトされます。上のスクリーンショットでは、現在の差分は深緑で表示されています。これらの色は、[DiffDog オプション](#)内で変更することができます。[マージ](#)は、現在の差分のためのみ実行されるため、どの差分が現在の差分であるかを認識する必要があります。常に現在の差分のためのみ実行されます。ツールバーアイコンとして「比較とマージ」メニュー内で使用することのできるナビゲーションコマンドを使用して、差分内を[ナビゲート](#)することができます。

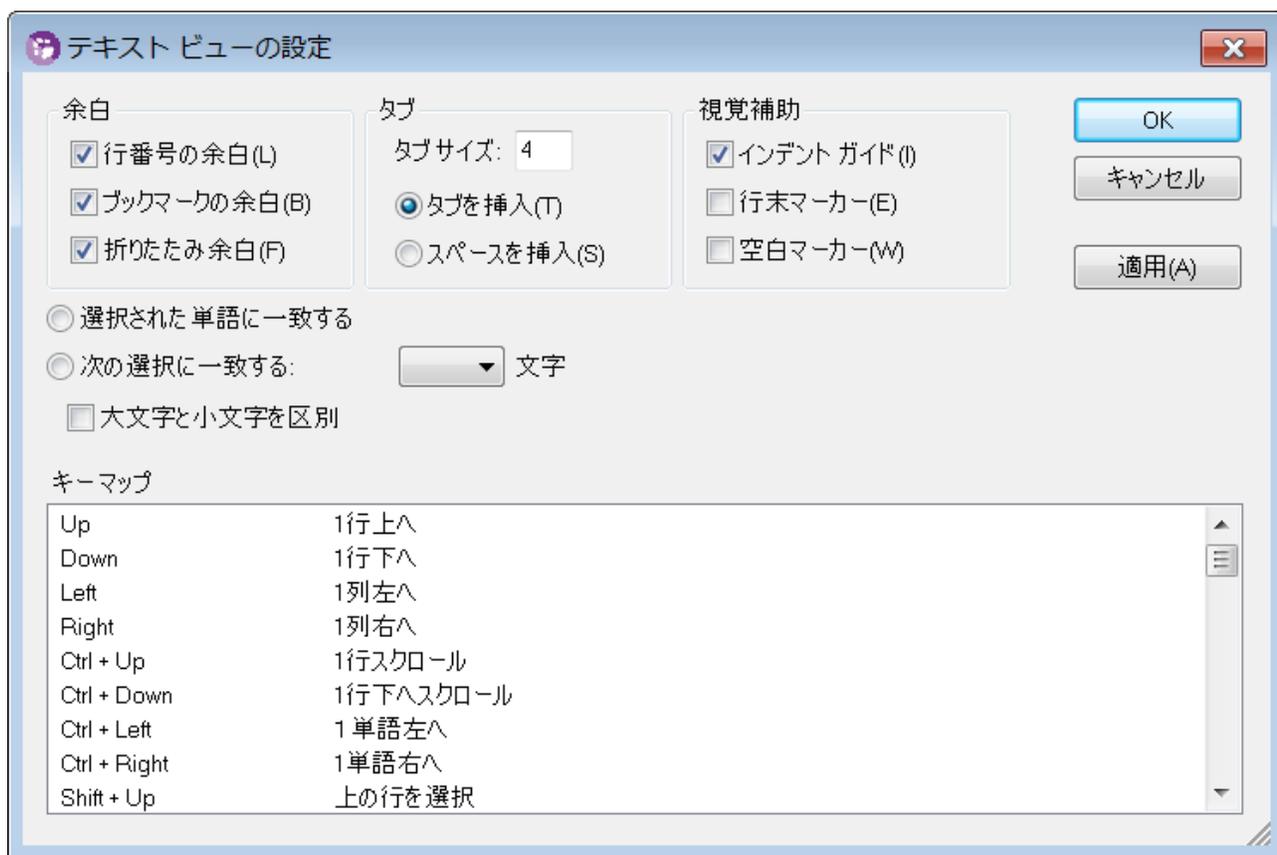
2.3.1.1 テキストビュー内で視覚補助を使用する

テキストビューには、テキストの表示と編集を簡単にする複数の視覚補助が搭載されています。以下の機能が含まれます:

- [行番号](#)
- [構文の色分け](#)
- [ブックマーク](#)
- [ソースの折りたたみ](#)
- [インデントガイド](#)

- [行末と空白文字マーカー](#)
- [ズーム](#)
- [行/文字に移動](#)
- [整形出力](#)
- [ワードラップ](#)
- [開始タグと終了タグの一致](#)
- [テキストのハイライト](#)

適用できる箇所では、「テキストビュー設定」ダイアログボックスからカスタマイズ機能をオンとオフに切り替えることができます。「テキストビュー設定」ダイアログボックス内の設定が、アクティブなドキュメントだけでなく、アプリケーション全体に適用されます。



「テキストビュー設定」ダイアログボックス

「テキストビュー設定」ダイアログボックスを開くには、以下を行います。

- テキストビューメニューから、「テキストビュー設定」を開きます。
- テキストルールバー内の「テキストビュー設定」ボタンをクリックします。

テキスト ツールバー、アプリケーションメニュー、または、キーボードショートカット からナビゲーション補助の一部をオン、または、オフに切り替えることができます。



テキスト ツールバー

ファイルの比較ウィンドウ内で適用することのできる全てのショートカットに関する情報に関しては、次を参照してください。「テキストビュー設定」ダイアログボックス内の「キーマップ」セクションは上に表示されるとお約束です。

行番号

「テキストビュー設定」ダイアログボックス内でオンとオフを切り替えることのできる行番号余白内で行番号は表示されます。テキストのセクションが折りたたまれると、折りたたまれたテキストの行番号は隠されます。関連したコマンドは、[行/文字に移動](#) コマンドです。

構文の色分け

構文の色分けは、テキストの構文の値にも適用されます。例えば、XMLドキュメント内では、XMLノードが要素、属性、コンテンツ、CDATAセクション、コメント、または、処理命令、ノード名（ノードのコンテンツの一部）であるかにより、色分けされています。「ツール | DiffDog オプション」メニューの [ファイル型](#) タブから異なるファイル拡張子（カスタム拡張子を含む）のための構文の色分けを有効化、または、無効化することができます。

ブックマーク

素早く参照し、アクセスするためにドキュメント内の行を個別にブックマークすることができます。ブックマーク余白がオンに切り替えられると、ブックマークは、ブックマーク余白内に表示されます。それ以外の場合、ブックマークされたラインは青色にハイライトされます。

「テキストビュー設定」ダイアログボックス内でブックマーク余白をオフまたはオンに切り替えることができます。

テキストビューメニューとテキスト ツールバー内のコマンドを使用してブックマークを編集し、ナビゲートすることができます。「テキストビュー | ブックマークの挿入/削除」コマンドを使用してブックマークを挿入ことができ、参照のためドキュメント内のラインをマークすることができます。ブックマークは、ブックマークされたラインを選択し、「テキストビュー | ブックマークの挿入/削除」コマンドを選択して削除します。ドキュメント内のブックマークをナビゲートするには、「テキストビュー | 次のブックマークとテキストビュー | 前のブックマーク」コマンドを使用します。これらのブックマークコマンドをテキストツールバー内のアイコンとして使用することができます。

ソースの折りたたみ

ソースの折りたたみはソースの折りたたみ余白内で展開された、または、折りたたまれたノードを表示する機能を指します。「テキストビュー設定」ダイアログボックス内で余白をオンとオフに切り替えることができます。テキストの一部を展開、または、折りたたむには、ウィンドウの左側の「+」と「-」ノードを使用します。折りたたまれたコードは、省略記号シンボルと共に表示されています。展開せずに折りたたまれたコードをプレビューするには、省略記号にマウスカーソルを移動します。これにより、下に表示されるように、プレビューされるコードを表示します。プレビューするテキストが小さすぎてヒットフィットしない場合、追加省略記号がヒットの終わりに表示されます。

```

1  | <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
2  | <!-- edited with XMLSPY v2004 U (http://www.xmlspy.com) by Mr. Nobody (Altova
   | GmbH) -->
3  | <Customers xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
   | xsi:noNamespaceSchemaLocation="Customers.xsd">
4  |   <Customer>
5  |     <Number>1</Number>
6  |     <FirstName>Fred</FirstName>
7  |     <LastName>Landis</LastName>
8  |     <Address>...</Address>
14 |   </Customer>
15 |   <Customer>
16 |     <Number>2<
17 |     <FirstName>
18 |     <LastName>

```

テキスト ツールバー内の「全ての行の展開/折りたたみ」コマンドは、全てのノードを展開された、または、折りたたまれたフォームを切り替えます。

インデントガイド

インデントガイドは、インデントの行の範囲を示す点線です（上のスクリーンショットを参照）。「テキストビュー設定」ダイアログボックス内でオンとオフが切り替えることができます。

行末のマーカ、空白文字マーカ

行末の(EOL) マーカと空白文字マーカは、「テキストビュー設定」ダイアログボックス内でオンと切り替えることができます。下のスクリーンショットはドキュメント内でのこれらのマーカを表示しており、それぞれが空白文字を示しています。

```

12 | ...<Person Manager="true" Degree="BA" Programmer="false"> ☐☐
13 | .....<First>Fred</First> ☐☐
14 | .....<Last>Smith</Last> ☐☐
15 | .....<PhoneExt>22</PhoneExt> ☐☐
16 | .....<Email>Smith@work.com</Email> ☐☐
17 | ...</Person> ☐☐

```

ズームインとズームアウト

Ctrl キーを押しながら、マウスのスクロールホイールを使用してスクロール することによりテキストビューをズームインおよびズームアウトすることができます。DiffDog オプション ダイアログボックス内フォントのサイズを大きくすることができます。

行/文字に移動

「表示」メニューとテキスト ツールバー内のこのコマンドにより、ドキュメントテキスト内の特定のラインと文字に移動することができます。

整形出力

「XML テキストを整形して出力」コマンドは、ドキュメントの構造された表示を与えるためにテキストビュー内のアクティブな XML ドキュメントを整形します。各子ノードは、親から4つのスペース文字オフセットに表示されます。

XMLドキュメントを整形出力するには「テキストビュー | XML テキストを整形して出力」メニューコマンドを選択、または、テキスト ツールバー内の  ボタンをクリックします。
 メモ「XML テキストを整形して出力」コマンドは、切り替えコマンドではありません。コマンドが実行されると、「XML テキストを整形して出力」コマンドをクリックしても整形された書式を元に戻すことができません。整形された書式を元に戻すには [元に戻す \(Ctrl+Z または Alt+Backspace\)](#) コマンドを使用してください。

ワードラップ

現在アクティブなドキュメント内でワードラップを切り替えるには「テキストビュー | ワードラップ」メニューコマンドを選択、または、テキスト ツールバー内の  ボタンをクリックします。

開始タグと終了タグの一致

マークアップ要素の開始 または 終了タグにカーソルを置くと、対応する開始、または、終了タグがハイライトされます。開始タグ内で要素の名前を編集すると、終了タグも自動的に編集されます。

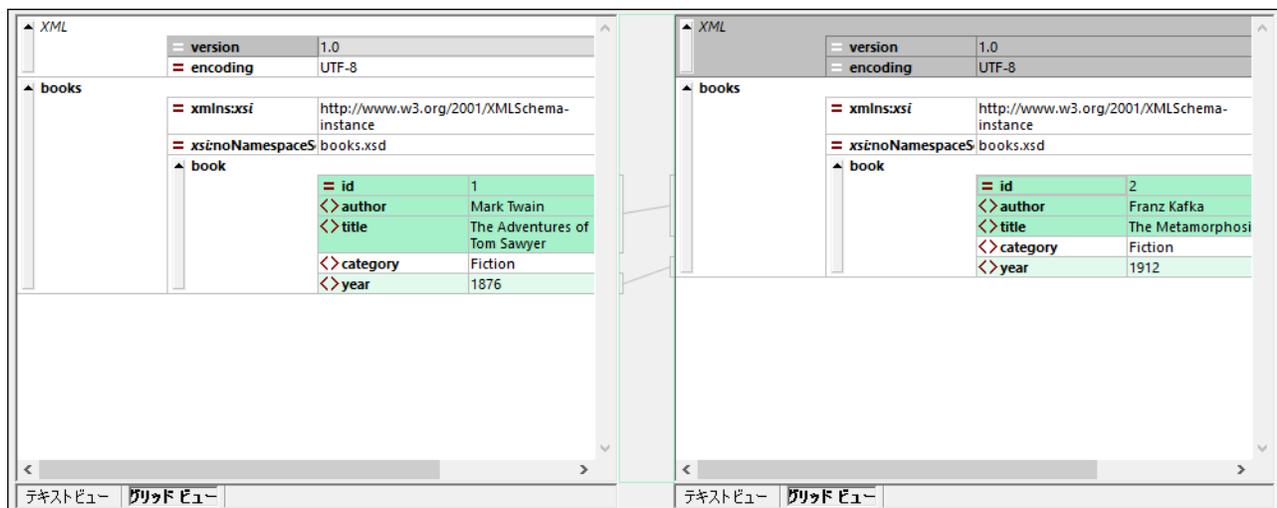
テキストのハイライト

テキストを選択すると、ドキュメント内のテキスト選択範囲のすべての一致は自動的にハイライトされます。選択範囲は薄い青でハイライトされ、一致する箇所は薄いオレンジ色でハイライトされます。選択範囲と一致する箇所は、スクロールバー上で灰色の四角のアイコンに表示されます。現在のカーソルの位置は、スクロールバー内の青いカーソルマーカーに表示されています。

2.3.2 グリッドビュー

Altova Web サイト: [xml 差分](#)

グリッドビューは、整形形式の通常 XML ファイルであるファイルを表示するために使用されます。グリッドビューでは、各ノードはグリッド内の行として表示されます。これにより、グラフィカルなビュー内で階層を確認することができ、ドキュメント全体をより簡単にナビゲートし、ドラッグアンドドロップなどのグラフィカルなメカニズムを使用してドキュメントの構造を操作することができます。



上のスクリーンショットで確認できる次の点に注意してください:

- ノード名は太字で表示され、コンテンツは通常のフォントで表示されます。

- 異なるノード型は、異なるシンボルで表示されています。例えば、属性は赤 = シンボルで表示され、要素は赤い角かっこで表示されます。
- 1つのドキュメントから他のドキュメント内で異なるノードがハイライトされ、異なる色で現在の差分がハイライトされます。
- 2つのドキュメント内の対応する差分はラインでジョインされます。

グリッド行の左端の上向き矢印をクリックしてノード（行）を展開し、折りたたむことができます。ノード名 または ノードコンテンツを編集するには、カーソルを挿入する箇所をダブルクリックします。行を選択して希望する場所ドラッグして、グリッド行を新規の場所ドラッグすることができます。隣り合うように存在する複数のノードをこの操作のために選択することができます。対応するグリッドビューメニューコマンド（またはそのツールバーアイコン）を使用して個別のノードを左に移動または右に移動することができます。これは、ドキュメント階層内のノードの場所を変更します。構造とコンテンツのグラフィカルな操作は、グリッドビューの他のモードであるテーブルビュー内で更に強化されています。

列は、枠を左または右ドラッグすることによりサイズを調整することができます。

2.3.2.1 繰り返し要素をテーブルとして表示する

通常のグリッドビューでは、下のスクリーンショット内で表示されるように、各ノードには自身のグリッド行が存在します。

▲ member	Ⓢ name	USA
	Ⓢ pop	290
▲ member	Ⓢ name	UK
	Ⓢ pop	80
▲ member	Ⓢ name	FRA
	Ⓢ pop	82
▲ member	Ⓢ name	GER
	Ⓢ pop	88
▲ member	Ⓢ name	AUT
	Ⓢ pop	9

同じ階層的なレベルで同じ要素が複数回発生する場合（上のスクリーンショット内の member 要素のように）、テーブルとして作成された各要素の発生が行として表示されるテーブルとして表示することができます（下のスクリーンショット）。テーブル要素の子ノード（属性、要素、など）はテーブルの列として表示されます。

テーブルとして複数の要素を表示する

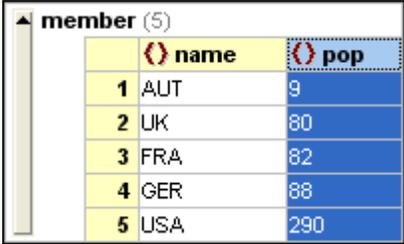
1. テーブルとして作成される要素の発生を1つ選択します。
2. メニューオプション「グリッドビュー | テーブル | テーブルとして表示する」を選択します。または、グリッドツールバー内の「テーブルとして表示する」 ボタンをクリックします。

テーブルビューから通常のグリッドビューに切り替える

- テーブルまたは列またはセルではなくその行を選択し、「テーブルとして表示する」 ツールバーアイコンをクリックします。テーブル要素は、通常のグリッドビューに切り替えます。

テーブルの編集

テーブルの構造とコンテンツをテーブルメカニズムを使用して編集することができます。例えば、行（新規のテーブル要素の発生）と列（すべてのテーブル要素の発生のための新規の子ノード）をテーブルに挿入することができ、テーブルを列別に並べ替えることができます。



	name	pop
1	AUT	9
2	UK	80
3	FRA	82
4	GER	88
5	USA	290

上のスクリーンショットでは、テーブル(member 要素)がpop 列上で並べ替えられています(これはpop 列を選択し、コマンド「グリッドビュー | テーブル | 昇順で並べ替え」をクリックして行います)。

2.4 ファイルの編集

2つのファイルの[比較を実行](#)し、[差分を確認](#)すると、DiffDog 内で直接ファイルのコンテンツを編集することができます。使用することのできる編集機能は、テキストベースとXML ベースのファイルで異なることにご注意してください。

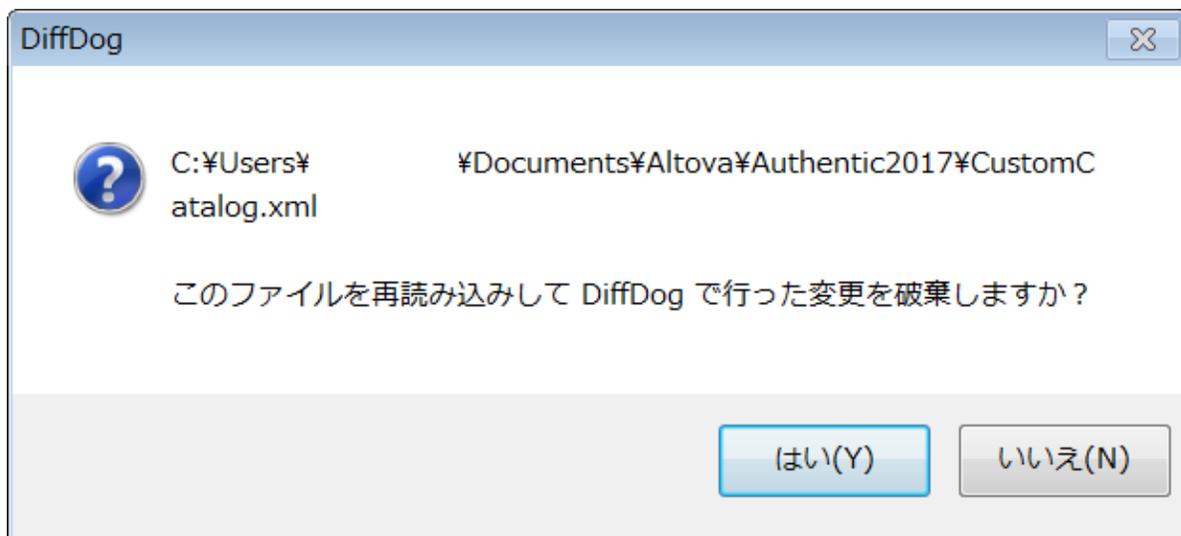
テキストベースとXML ベースのファイルの[コンテンツの変更](#)は、テキストビューにより行われます。整形形式のXML をベースとしたファイルを比較する場合、DiffDog のグリッドビューは、ファイルの[ドキュメントの構造の変更](#)を許可します。

ファイルの再ロード

最後にドキュメントが保存されてから、ドキュメントに加えられた全ての変更を元に戻すことができ、DiffDog に再ロードすることができます。変更が失われる場合は、警告メッセージが表示されます。

ファイルを DiffDog に再ロードする

1. 比較ウィンドウの対応するペイン内で、「再ロード」 ボタンをクリックします。
2. ファイルが前回保存された後変更されている場合、警告メッセージが表示されます。



3. 再ロードする場合「はい」をクリック、または、オペレーションをキャンセル場合「いいえ」をクリックします。

2.4.1 コンテンツの変更

テキストビュー内では、DiffDog には、編集を助ける構文の色分け、行番号、インデント、ブックマークを含む他の視覚補助などの豊富な検索と置換の機能が搭載されています(次を参照してください: [テキストビュー内での視覚補助の使用](#))。変更の履歴は各ファイルのために個別に保管され、無制限の「元に戻す」を行うことができます。

編集中に比較する  オプションが「比較とマージ」メニュー内で有効化されている場合、ファイルの比較は入力中に継続的に行われます。

ファイルの編集:

- ファイルの比較ウィンドウの対応するペイン内に変更を入力します。

ファイル内の変更を元に戻す:

- ファイル内にカーソルを置き、「編集 | 元に戻す」をクリック、または「Ctrl+Z」を押します。

2.4.2 構造の変更

グリッドビューは、ドキュメントの構造の明確な概要を得るために、展開または折りたたむことのできるネスとされたコンテナーを使用したXMLをベースにしたドキュメントである整形形式の階層的な構造を表示します。グリッドビューのコンテンツと構造は簡単に操作することができます。例えば、新規の要素または属性を追加、または、挿入し、ファイルのコンテンツを編集することができます。また、ドキュメント内の異なる場所に個別の要素をドラッグすることができます。

グリッドビュー内でファイルと構造を変更する

1. 変更を加える要素、または、属性を選択するためにクリックします。
2. グリッドビューメニュー内で使用することのできるコマンド（例えば、「グリッドビュー | 挿入 | 新しい要素」）を使用します。または、要素を右クリックして、適切なコンテキストメニューコマンドを選択します。

2.5 テキストの検索と置換

DiffDog には、編集を助けるパワフルな検索と置換の機能が搭載されています。「検索」、「次を検索」と置換 コマンドの範囲はアクティブなドキュメントであり、ファイルの比較の両方のドキュメントではありません。

テキストビューとグリッドビューの検索と置換オプションは異なります。次を参照してください：[テキストビュー内での検索と置換](#)と[グリッドビュー内での検索と置換](#)。

2.5.1 テキストビュー内での検索と置換

テキストビュー内で検索を開始するには、「Ctrl+F」を押します(または、メニューコマンド「編集 | 検索」を選択します)。ダイアログ内に入力された検索用語を、ドキュメント全体で、または、選択された範囲で検索することができます。

- 検索する文字列を入力、または、コンボボックスを使用して最近使用した10件の文字列を選択します。
- 検索する文字列を入力、または、選択すると、全ての一致がハイライトされ、スクロールバー内で一致がページ色で表示されます。
- 現在選択されている一致は、他の一致と異なる色で表示されます。一致の位置はスクロールバー上で濃い青のカーソルマーカーで表示されます。
- 検索用語フィールド内に一致の総数が、現在選択されている一致のインデックス位置と共に表示されます。例えば、2 の 4 は、4つ中の2番目の一致が選択されていることを示しています。
- 右下の前へ (Shift+F3) と次へ (F3) ボタンを選択することにより、1つの一致から次の一致へ両方向に移動することができます。

```

1  <?xml vers
2  <!-- edit
3  Nobody (Al
4  <Articles
5  xsi:noName
6  <Article>
7  <Number>1</Number>
8  <Name>T-Shirt</Name>
9  <SinglePrice>25</SinglePrice>
10 </Article>
11 <Article>
12 <Number>2</Number>
13 <Name>Socks</Name>
14 <SinglePrice>2.30</SinglePrice>
15 </Article>
16 <Article>
17 <Number>3</Number>
18 <Name>Pants</Name>
19 <SinglePrice>34</SinglePrice>
20 </Article>
21 <Article>
22 <Number>4</Number>
23 <Name>Jacket</Name>
24 <SinglePrice>57.50</SinglePrice>
25 </Article>
26 </Articles>

```

- 検索と置換えの間を切り替えるには、左上にある下向きボタン  をクリックします。
- 検索ダイアログを閉じるには、右上の閉じる  ボタンをクリック、または **Esc** を押します。

以下の点に注意してください

- 検索ダイアログにモードは存在しません。これは、検索ダイアログは、テキストビューを使用する場合でも、開き続けることができます。
- ダイアログボックスを開く前にテキストが選択されている場合、選択されたテキストは、自動的に検索用語フィールドに挿入されます。
- 選択範囲内で検索を行うには、以下を行います: (i) 選択範囲をマークします (ii) 選択範囲内で検索  オプションをオンにして、検索範囲をロックします。(iii) 検索用語を入力します。他の選択範囲内を検索するには、現在の選択範囲を、選択範囲内を検索  オプションをオフにしてアンロックします。そして、新規の選択範囲を 選択範囲内を検索  オプションをオンして切り替えます。
- 検索ダイアログが閉じられると、現在の検索は **F3** を押すことにより順方向検索し、**Shift+F3** を押すことにより逆方向検索します。検索ダイアログが表示されます。

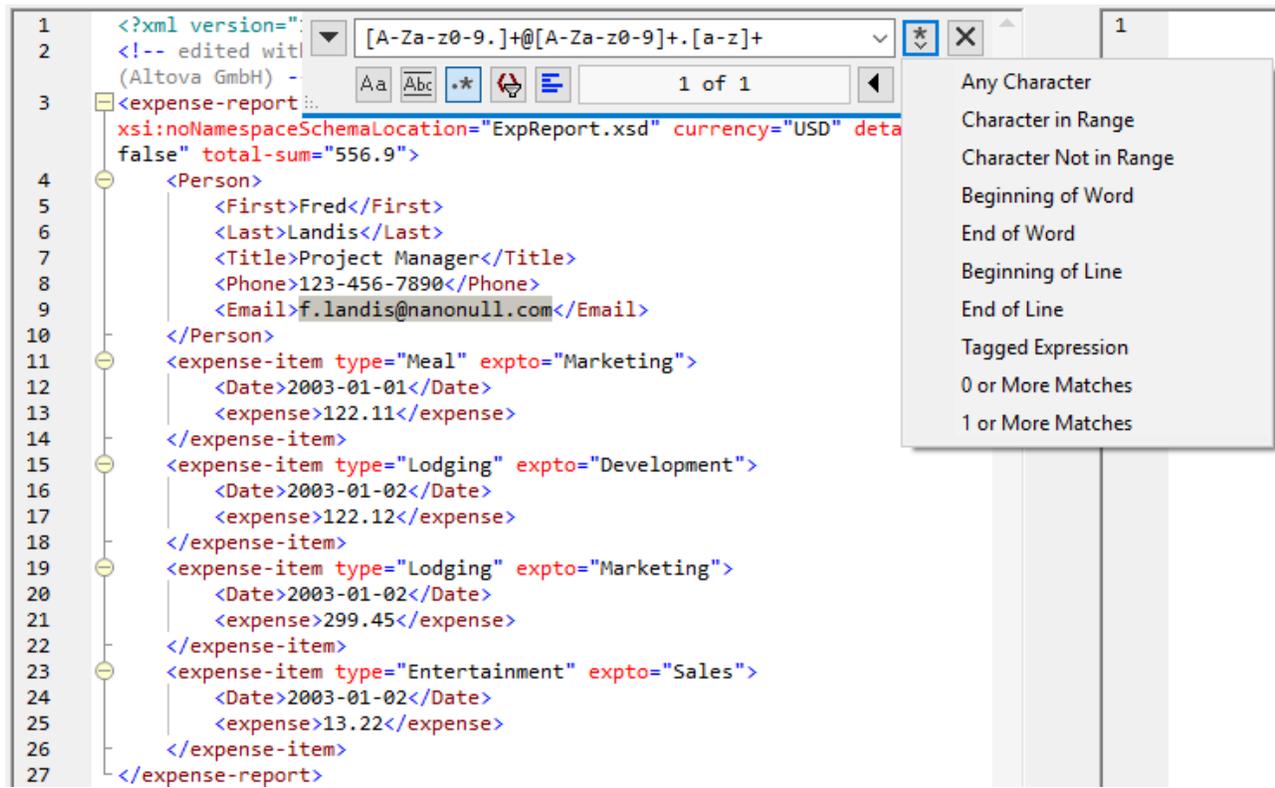
検索オプション

検索の条件は、検索フィールドの下にあるボタンにより指定することができます。オプションがオンになっている場合、ボタンの色は青に変更されます。以下のオプションから選択することができます:

オプション	アイコン	説明
大文字と小文字を区別する		切り替えられると、大文字と小文字を区別する検索が行われます(「Address」は「address」とは異なります)。
単語単位で検索		テキスト内の文字のみが一致されます。例えば、入力文字列 <i>fit</i> に対して、単語単位を一致させるがオンになっていると、単語 <i>fit</i> のみが検索文字列に一致します。 <i>fitness</i> 内の <i>fit</i> は一致しません。
正規表現		オンに切り替えられると、検索用語は、正規表現として読み取られます。「正規表現の使用」を参照してください。
アンカーの検索		検索用語が入力されると、ドキュメント内の一致がハイライトされ、一致の内の1つが現在の選択としてマークされます。アンカーの検索の切り替えは、最初の選択がカーソルの位置に対して相対的かを決定します。アンカーの検索がオンに切り替えられると、現在選択されている一致が選択され、現在のカーソルの場所の次の一致に一致します。アンカーの検索がオフに切り替えられると、現在選択されている一致がドキュメントの最初から数えて最初の一致に一致します。
選択範囲内の検索		オンに切り替えられると、現在のテキストの選択範囲をロックし検索を選択されている範囲に制限します。それ以外の場合、ドキュメント全体が検索されます。テキストの新しい範囲を選択する前に、選択範囲内の検索 オプションをオフに切り替えて現在の選択範囲のロックを解除します。

正規表現の使用

正規表現 (regex) を使用して、テキスト文字列を検索することができます。これを行うには、最初に 正規表現  オプションをオンに切り替えます。これは検索用語フィールド内のテキストが正規表現として評価されるように指定します。次に正規表現と検索フィールドに入力します。正規表現の作成をヘルプするために、検索用語フィールドの右にある 正規表現ビルダー  ボタンをクリックします。これにより、検索用語フィールド内のテキストが正規表現として評価されます。下のスクリーンショットは、電子メールアドレスを検索するための簡単な正規表現を表示しています。



正規表現メタ文字のカスタムセットは、テキストを検索し置き換える際にサポートされます。

.	任意の文字を一致する。これは単一の文字のプレースホルダーです。
(abc)	(and) メタ文字は、タグ付けされた式の開始と終了をマークします。一致する箇所を、後で参照する(バック参照)目的のためにタグ「記録」する場合、役に立つ可能性があります。9個までのサブ式をタグ付け(そして後から参照)することができます 例えば (the) \1 は、文字列 the the に一致します。この式は、以下のように説明することができます: 以前に一致したタグ付けされた箇所が後に続き、スペース文字が後に続く、文字列「the」を一致、(および、タグ付け箇所として記録)します。
\n	n が 1 から 9 の箇所では、n は、最初から9番目のタグ付けされた箇所を指します(上を参照してください)。例えば Fred\([1-9])\ XXX が検索文字列で、置換文字列が Sam\1YYY の場合、Fred2XXX に適用された場合、Sam2YYY を生成します。
\<	単語の先頭に一致。
\>	単語の末尾に一致。
\	バックslashが後に置かれている文字をエスケープします。すなわち、式 * は、文字 x を文字通り使用することができます。例えば \[は、文字のセットの開始としてではなく、[として解釈されます。
[...]	このセット内の文字に一致します。例えば [abc] は、a, b または c の文字に一致します。範囲を使用することができます: 例えば、小文字のために [a-z] を使用します。

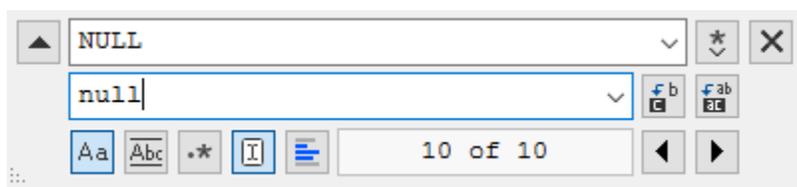
[^...]	このセット内では内文字に一致します。例えば <code>[^A-Za-z]</code> は、アルファベット文字以外の文字に一致します。
^	(上記のとおりセット内で使用されていない限り)行頭に一致します。
\$	行末に一致します。例えば <code>A+\$</code> は、行末のAに一致します。
*	前の式のゼロ、または複数の発生に一致します。例えば <code>Sm*</code> Sm、Sam、Saam、Saaamなどに一致します。
+	前の式の1つ、または複数の発生に一致します。例えば <code>Sm+</code> はSam、Saam、Saaamなどに一致します。

例: [正規表現を使用してテキストを置き換える](#)を参照してください。

テキストの置換

テキストを置き換えるには以下を行います:

1. **Ctrl+H**を押して(またはメニューコマンド **編集 | 置換え** を選択して) 置換えダイアログを開きます。(または、置換えモードを検索/置換えダイアログの左上の下向きの矢印ボタン  をクリックして、切り替えます)。



2. 検索フィールドに置き換えられる文字列を入力して、置換えフィールド内に新しい文字列を入力します。置換えに一致する数量と、現在選択されている一致のインデックスが置換えフィールドの下に表示されます。また、一致の場所がスクロールバー内にページのマーカで表示されています。
3. 次に置き換えると全て置き換える ボタンは、置換えフィールドの右にあります。次に置き換える をクリックすると、次の結果の1つが発生します: (i) カーソルが一致の近く、または一致内をポイントしている場合、一致が置き換えられます。(ii) カーソルが一致の外をポイントしている場合、次一致が置き換えられます。全て置き換える をクリックして、全ての一致を置き換えます。

以下の点に注意してください:

- ドキュメント全体ではなく、選択範囲内でテキストを置き換えるには、以下を行います: (i) 選択をマークします。(ii) **選択範囲内の検索**  オプション上の選択をロックするを切り替えます。(iii) 検索と置換テキスト文字列を入力します。(iv) 次に置き換える または 全て置き換える を必要に応じてクリックします。他のセクション内のテキストを置き換える場合 **選択範囲内の検索**  オプションの現在の選択範囲の選択を解除します。新規の範囲を選択し **選択範囲内の検索**  オプションを切り替えてロックします。
- 置換えのアクションを元に戻す場合は、「Ctrl+Z」または「編集 | 元に戻す」を押します。

特別文字の検索と置き換え

正規表現 オプション  が有効化されていると想定して、テキスト内の特殊文字を検索することができます

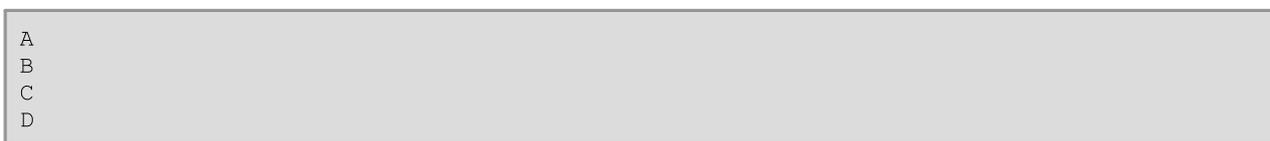
- `\t` (タブ)
- `\r` (キャリッジリターン)
- `\n` (新しいライン)
- `\s` (バックスラッシュ)

例えば、タブ文字を検索する場合は、**Ctrl + F** を押して、 オプションを選択し、検索ダイアログボックス内に `\t` を入力します

上記の特殊文字は、テキストの置換えとして使用することができます。例えば、検索と置換えオプションを使用して、テキスト "A;B;C;D" 内のセミコロン (;) の発生をすべてキャリッジターンで置き換えることができます。



出力は以下のとおりになります。



2.5.2 グリッドビュー内での検索と置換

グリッドビュー内でテキストを検索する

1. テキストを検索するペイン内にカーソルをポイントします。
2. メニューオプション「編集 | 置換」を選択、または「Ctrl+F」を押します。



3. 「検索対象」フィールドに検索するテキストを挿入します。
4. 検索を絞り込むために、[型](#) グループボックス内で検索するために、必要とされるXML ノード型 または DTD 宣言を選択します。
5. 「次を検索」をクリックします。
6. 次の発生に移動するには、「F3」を押します。

グリッドビュー内でテキストを置き換える：

1. テキストを検索するペイン内にカーソルをポイントします。
2. メニューオプション「編集 | 検索」を選択、または「Ctrl+H」を押します。



型

型グループボックスで、検索する異なるXMLノード型 **または** DTD 宣言を選択、**または**、選択解除することができます。「全て選択」と「全てクリア」ボタンにより単一のクリックで全てのオプションをチェック、**または**、チェックの解除を行うことができます。

検索

ノードの名前 **および** **または** コンテンツを、グループボックス内の検索に対応するチェックボックスを有効化することができます。

設定

「大文字と小文字を区別する」により、ドキュメント内の大文字と小文字が **エントリ** と同じ場合のみテキスト文字列が検索されます。「テキストの完全一致」は、スペースで区切られた、ドキュメント内でのみ、一致するテキスト文字列を検索します。

範囲

検索の範囲を、現在の選択範囲、**または**、ファイル全体に制限することができます。

検索方向

「上へ」と「下へ」オプションにより、現在の選択範囲、**または**、カーソルの位置から、検索が上向きに、**または**、下向きに継続されるかを定義します。

2.5.3 例: 正規表現を使用してテキストを置き換える

このサンプルは、正規表現を使用してテキストを検索し置き換える方法について説明しています。多くの場合、テキストの検索と置換えは複雑ではなく、正規表現を必要としません。しかしながら、通常の検索と置換え操作ではテキストを操作できないインスタンスが存在する場合があります。例えば、数千行からなるXMLファイル内の1つのオペレーション内の特定の要素を、囲まなければならないコンテンツに影響を与えずに、名前を書き換える必要がある場合が挙げられます。もう1つの例は、要素の複数の属性の順序を変更するケースです。この場合は、手動で行う際に必要とされる手間を省くため、正規表現の使用が役に立ちます。

サンプル1: 要素の名前変更

サンプルXMLコードリストには、ブックのリストが含まれています。このサンプルの目的を、各ブックの<Category>要素を<Genre>と置き換えることとします。この目的を達成するために正規表現を使用します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<books xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:noNamespaceSchemaLocation="books.xsd">
  <book id="1">
    <author>Mark Twain</author>
    <title>The Adventures of Tom Sawyer</title>
    <category>Fiction</category>
    <year>1876</year>
  </book>
  <book id="2">
    <author>Franz Kafka</author>
    <title>The Metamorphosis</title>
    <category>Fiction</category>
    <year>1912</year>
  </book>
  <book id="3">
    <author>Herman Melville</author>
    <title>Moby Dick</title>
    <category>Fiction</category>
    <year>1851</year>
  </book>
</books>
```

必要条件を満たすには、以下のステップを踏んでください。

1. 検索と置換ダイアログボックスを開くには、**Ctrl+H** を押します。
2. 正規表現の使用 をクリックします。
3. 検索フィールドに次のテキストを入力します: `<category>(.)</category>`。この正規表現は、すべてのcategory要素に一致し、ハイライトされます。

```

1 <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
2 <books xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  books.xsd">
3   <book id="1">
4     <author>Mark Twain</author>
5     <title>The Adventures of Tom Sawyer</title>
6     <category>Fiction</category>
7     <year>1876</year>
8   </book>
9   <book id="2">
10    <author>Franz Kafka</author>
11    <title>The Metamorphosis</title>
12    <category>Fiction</category>
13    <year>1912</year>
14  </book>
15  <book id="3">
16    <author>Herman Melville</author>
17    <title>Moby Dick</title>
18    <category>Fiction</category>
19    <year>1851</year>
20  </book>
21 </books>

```

(既知ではない)各要素の内部のテキストに一致するものは、タグ付けされた条件式 `(.+)` が使用されています。タグ付けされた条件式 `(.+)` は「1つまたは複数の文字 `.` の発生をマッシュ、このマッシュを記録します。」を意味します。次のステップで表示されているように、後でタグ付けされた条件式を参照する必要があります。

- 置換フィールド内に、次のテキストを入力します: `<genre>\1</genre>`。この正規表現置換のテキストを定義します。検索フィールドから既にタグ付けされた条件式にコンパイルするために `\1` が使用されていることにご注意してください。すなわち、このエントリでは、`\1` 「現在一致する `<category>` 要素の内部のテキスト」を意味します。
- 全てを置き換える  をクリックして、結果を確認します。すべての `category` 要素が、このサンプルの目的である `genre` に名前を変更されました。

サンプル2: 属性の順序を変更する

下のサンプルXMLコードリストには製品のリストが含まれています。各製品には以下の2つの属性が存在します: `id` と `size`。各 `product` 要素内の `id` と `size` 属性の順序の変更をこのサンプルの目的とします。(すなわち、`size` 属性が `id` の前に来るように変更します)。この条件を満たすために正規表現を使用することができます。

```

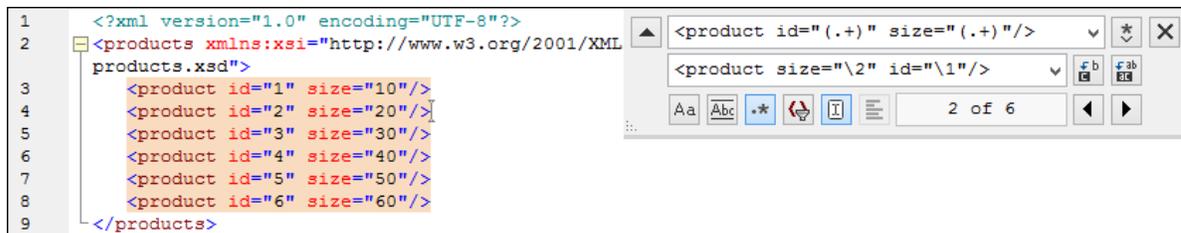
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<products xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:noNamespaceSchemaLocation="products.xsd">
  <product id="1" size="10"/>
  <product id="2" size="20"/>
  <product id="3" size="30"/>
  <product id="4" size="40"/>
  <product id="5" size="50"/>
  <product id="6" size="60"/>
</products>

```

必要条件を満たすには、以下のステップを踏んでください!

- 検索と置換ダイアログボックスを開くには、**Ctrl+H** を押します。
- 正規表現の使用  をクリックします。
- 検索フィールドに次のテキストを入力します: `<product id="(.)" size="(.)"/>`。この正規表現は、XMLドキュメント内の製品要素に一致します。(既知ではない)各属性の値に一致するためには、タグ付けされた条件式 `(.+)` が一度使用されていることにご注意してください。タグ付けされた条件式 `(.+)` は、各属性の `.` である文字の `.`、または複数の発生である値に一致します。

- 検索フィールドに次のテキストを入力します: `<product size="\2" id="\1"/>`。この正規表現では、一致した製品の要素のテキストの代替テキストが含まれています。`\1` と `\2` の2つの参照が使用されていることにご注意ください。これは、検証フィールドからタグ付けされた条件式に対応しています。すなわち、`\1` は「属性 `id` の値」を意味し、`\2` は「属性 `size` の値」を意味します。



- 全てを置き換える  をクリックして、結果を確認します。すべての `product` 要素は属性 `size` が属性の `id` 前に置かれるように更新されました。

2.6 ファイルの保存

DiffDog 内で編集されたドキュメントを保存する場合、比較ウィンドウの対応するペイン内の「保存」 または、「名前を付けて保存」 ボタンを使用してください。「ファイル」メニュー内の [閉じる](#)、[全て閉じる](#)、および [保存](#) コマンドを使用してファイルを保存することもできます。

DiffDog オプション ダイアログボックスの[ファイルの比較](#) タブ内で、バックアップファイルの保存方法を指定することができます。

ファイルを閉じる

以下を行います:

- 個々のファイルを保存するために、比較ウィンドウのペイン内の「保存」 ボタンをクリックします。
- 個々のファイルを新しい名前、または、パス名で保存するために、比較ウィンドウのペイン内の「名前を付けて保存」 ボタンをクリックします。ファイルのための新しい名前、または、パスを指定することのできる Windows 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。
- 両方の比較のファイルを保存するために、メニューオプション「ファイル」保存」を選択します。保存するファイルを選択することのできる、または、変更を実行する「ファイルの保存」ダイアログボックスを選択します。

比較のファイルを保存し閉じる

1. 保存し、閉じるファイルを含む比較ウィンドウをクリックします。
2. メニューオプション「ファイル」閉じる」を選択します。
3. ファイルが保存されていない変更が含まれる場合、「ファイルの保存」ダイアログボックスが表示されます。ファイルのチェックボックスが選択されていることを確認し、「選択を保存」をクリックします。ファイルは保存され、比較ウィンドウは閉じられます。

全ての比較のファイルを保存し閉じる

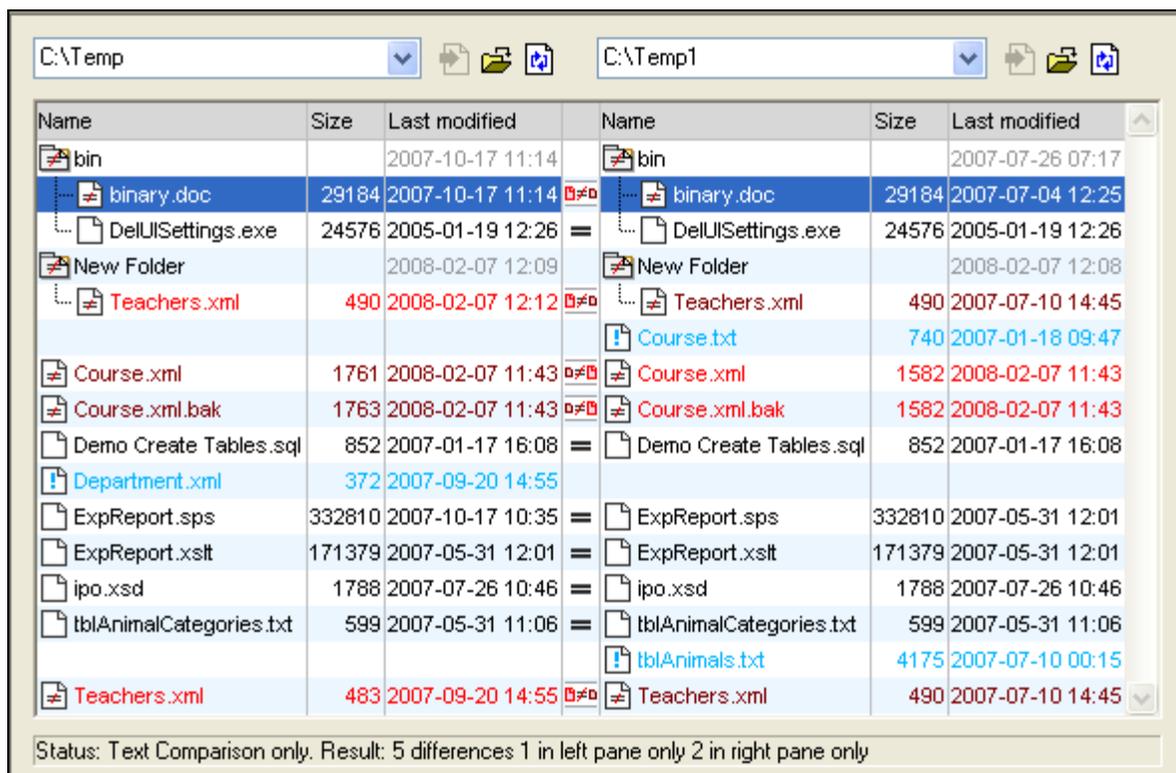
1. メニューオプション「ファイル」全て閉じる」を選択します。
2. 保存されていない変更が存在するファイルを含む比較ウィンドウのために、「ファイルの保存」ダイアログボックスが表示されます。ファイルのチェックボックスが選択されていることを確認し、「選択を保存」をクリックします。ファイルは保存され、比較ウィンドウは閉じられます。

3 ディレクトリの比較

Altova Web サイト: [フォルダに比較ツール](#)

DiffDog では、ディレクトリの比較ウィンドウ内で、ディレクトリと、任意で、サブディレクトリが比較されます。ディレクトリを[比較 マージ](#)、または [同期](#) することができます。DiffDog は2つの方法でディレクトリを比較します:

- ディレクトリ内のファイルのサイズとタイムスタンプを比較する比較モードは、クイック比較モードと呼ばれます。
- ディレクトリ内のファイルのエクステンションを比較する比較モードは、テキストの比較モード、または XML 比較モード、または バイナリ比較モード、または 拡張子 比較モードです。



DiffDog 内でディレクトリ比較を開始するには、[2つのディレクトリを直接選択](#)、または、空のディレクトリの比較ウィンドウを開き、[比較するディレクトリ](#)を開きます。または、[Windows Explorer 内から2つのディレクトリ](#)を選択し、右クリック、コンテキストメニューから、「Altova DiffDog を使用して比較する」を選択します。これにより、DiffDog の新しいインスタンスがディレクトリの比較ウィンドウ内の要素フォルダ一内で開かれます。

「比較とマージ」メニュー内で比較を自動的に開始するオプションが無効化されていない限り、比較は自動的に開始されます。比較モードを必要に応じて変更し、比較を再開することができます。更に、差分を取り除くため、DiffDog は [1つのペインから他のペインファイルを選択](#)することを許可しています。

ディレクトリ比較ウィンドウを開く:

以下を行います:

- メニューオプション「ファイル | 開く」を選択し、または「Ctrl+O」を押し、以下を行います:

1. 「比較を開く」ダイアログボックス内の「ディレクトリの比較」を選択します。
2. コンテンツグループボックス内で比較するディレクトリを選択します。
3. 任意で、ファイル/ディレクトリ フィルター ドロップダウンリストからフィルターを選択します。
4. 任意で、「サブディレクトリを含む」チェックボックスを有効化します。
5. 「OK」をクリックします。

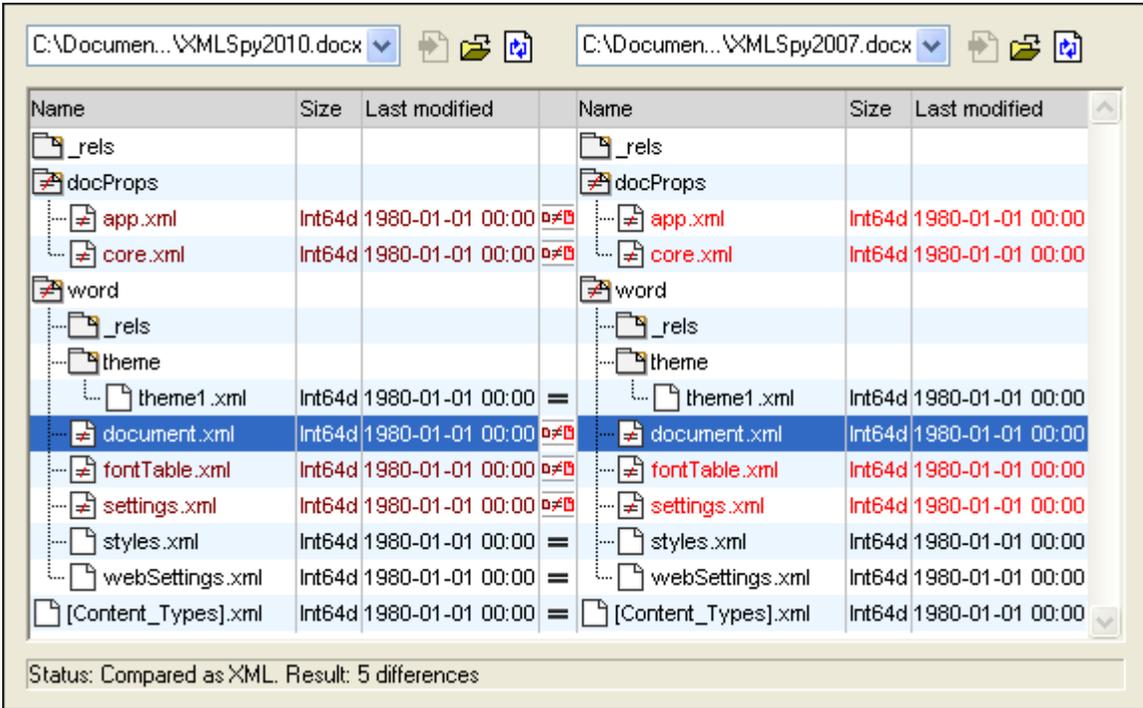
選択されたディレクトリを含む新しいディレクトリの比較ウィンドウが開かれます。

- メニューオプションファイル「ディレクトリの比較」選択、または標準ツールバー内の「ディレクトリの比較」 アイコンをクリックします。空のディレクトリの比較ウィンドウが開かれます。

ZIP と OOXML ファイル

「ZIP に準拠するファイル」オプションが、DiffDog オプションダイアログの[ファイルタイプ](#)上の*.zip ファイルのためのデフォルトのファイルの比較モードとして選択されている場合ZIP に準拠するファイルは、ディレクトリとして考慮されます(これはデフォルトの設定です)。ディレクトリ比較内では、ディレクトリ比較内でファイルとして表示される場合、ZIP ファイルのコンテンツが表示され、ZIP ファイル内に含まれているファイルをコピーします。

ZIP アーカイブから特別化されたと考えることのできる Office Open XML (OOXML) ファイルディレクトリは、比較ウィンドウ内の比較のために開かれます。OOXML ファイルのコンテンツがディレクトリ比較ウィンドウで表示されると、document.xml ファイルを参照し、[ファイルの比較](#) ウィンドウが開きます。

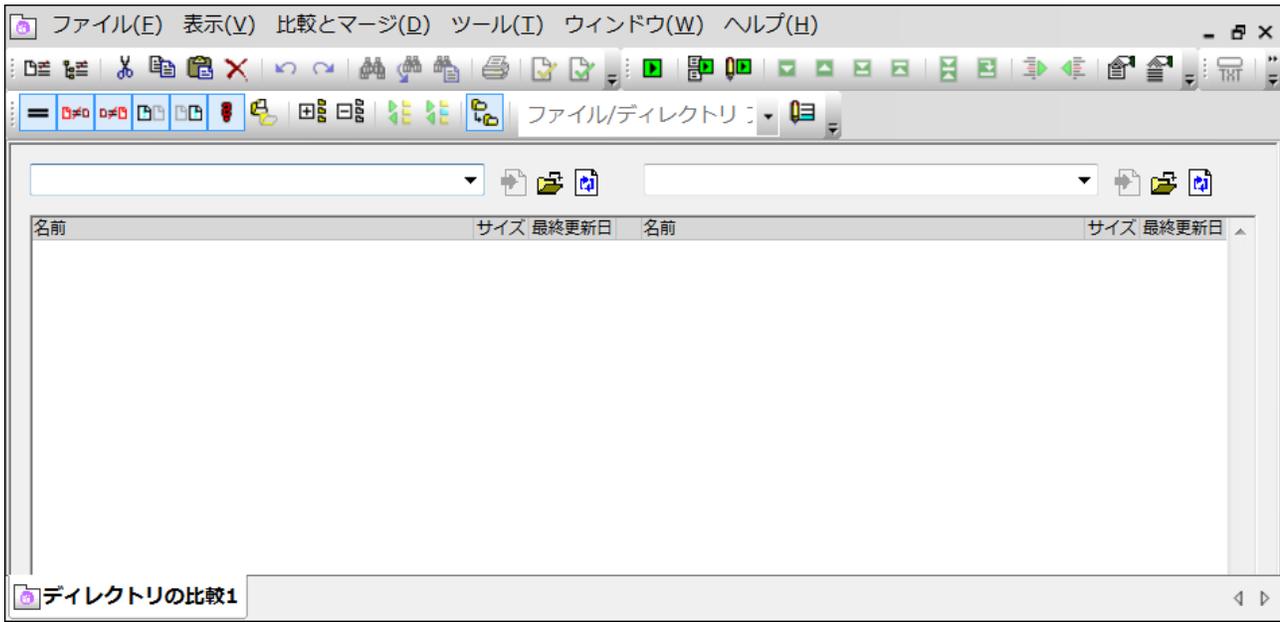


Name	Size	Last modified		Name	Size	Last modified
_rels				_rels		
docProps				docProps		
app.xml	Int64d	1980-01-01 00:00	≠	app.xml	Int64d	1980-01-01 00:00
core.xml	Int64d	1980-01-01 00:00	≠	core.xml	Int64d	1980-01-01 00:00
word				word		
_rels				_rels		
theme				theme		
theme1.xml	Int64d	1980-01-01 00:00	=	theme1.xml	Int64d	1980-01-01 00:00
document.xml	Int64d	1980-01-01 00:00	≠	document.xml	Int64d	1980-01-01 00:00
fontTable.xml	Int64d	1980-01-01 00:00	≠	fontTable.xml	Int64d	1980-01-01 00:00
settings.xml	Int64d	1980-01-01 00:00	≠	settings.xml	Int64d	1980-01-01 00:00
styles.xml	Int64d	1980-01-01 00:00	=	styles.xml	Int64d	1980-01-01 00:00
webSettings.xml	Int64d	1980-01-01 00:00	=	webSettings.xml	Int64d	1980-01-01 00:00
[Content_Types].xml	Int64d	1980-01-01 00:00	=	[Content_Types].xml	Int64d	1980-01-01 00:00

Status: Compared as XML. Result: 5 differences

3.1 ディレクトリの比較ウィンドウを開く

新しいディレクトリの比較ウィンドウを開く際に、ディレクトリ比較コマンドは、ディレクトリの比較 X という名前が与えられます。X は、現在の DiffDog セッション内で開かれているディレクトリ比較のシーケンス内のディレクトリの比較の位置を示している引数を表しています。



「ディレクトリの比較」コマンドがディレクトリ比較ウィンドウを開きます。ウィンドウ内でディレクトリを開きません。比較される2つのディレクトリは、内で開かれる必要があります。

空のディレクトリの比較ウィンドウを開く:

- メニューオプション「ファイル | ディレクトリの比較」を選択、または標準ツールバー内の「ディレクトリの比較」 ボタンをクリックします。

3.2 比較のためのディレクトリを選択する

ディレクトリを比較のために色々な方法で選択することができます。ディレクトリを、新しいディレクトリの比較ウィンドウ内で開く、[前の比較を再度開く](#)、または、現在開かれているディレクトリの比較ウィンドウのディレクトリを変更するなどして開くことができます。

新しいディレクトリの比較ウィンドウ内のディレクトリを開く:

1. メニューオプション「ファイル|開く」選択、または「Ctrl+O」を押します。
2. 「ディレクトリの比較」を選択します。
3. 最初と番目のディレクトリのパスを入力し、「参照」をクリックし、システムからフォルダーを選択します。
4. 任意で、特定のファイル型へのディレクトリのエントリのみを表示する場合、「ファイルディレクトリフィルター」ドロップダウンリストからフィルターを選択します。
5. 必要な場合、「サブディレクトリを含む」チェックボックスを有効化します。
6. 「OK」をクリックします。新しいディレクトリの比較ウィンドウ内で選択されたディレクトリが開かれます。

アクティブなディレクトリの比較ウィンドウ内のディレクトリを選択する

1. 既存のディレクトリの比較ウィンドウの左側のペインで、以下を行います:
 - 「開く」 アイコンをクリックし、「開く」ダイアログボックスからディレクトリを選択します。
 - ディレクトリのフルパスを入力し、「適用」 ボタンをクリックします。
 - ドロップダウンリストから、前に比較されたディレクトリを選択します。

Windows Explorer からディレクトリ比較を開始する

1. Windows Explorer 内で2つのディレクトリを選択します。
2. 右クリックし、コンテキストメニューから、「Altova DiffDog を使用して比較する」を選択します。

DiffDog の新しいインスタンスが開かれると、要素フォルダーはディレクトリの比較ウィンドウ内に表示され、比較は自動的に開始されます。

3.3 ディレクトリの比較オプションを変更する

ディレクトリを比較する場合、選択される比較モードにより、ディレクトリの内容が決定されます。ディレクトリ比較ウィンドウ内の左側と右側のペイン内で、コンテンツが比較されます。基本の比較モードはクイック比較切り替えです。テキストの比較モード、または XML 比較モード、または バイナリ比較モード、または 拡張子 比較モードにアクセスする場合、クイック比較が最初にオフに切り替えられる必要があります。

[フィルターの適用](#) を使用してディレクトリ比較ウィンドウ内に表示されるファイルの型を定義することができます。更に「比較とマージ」メニューは、メニューを使用してオン/オフを切り替えることのできる複数のコマンドが搭載されています。

- [比較の前オプション設定を表示する](#)
- [比較を自動的に開始する](#)
- [編集中に比較する](#)
- [「最近比較された組み合わせ」をサポートする](#)

ディレクトリの比較のための全般のオプションは、DiffDog オプション ダイアログボックスの [ディレクトリ比較](#) タブ内で使用することができます。

メモ 新しいディレクトリの比較ウィンドウが開かれると、最後の比較ウィンドウ(ファイル、または ディレクトリ)の比較オプションが変更されたものとして考えられます。

ディレクトリ比較のためにモードを変更する:

以下を行います:

- クイック比較モードを使用するには、メニューオプション「比較とマージ | サイズと更新日時を比較」を選択してクイック比較をオンに切り替えます。または、比較モード ツールバー内の「クイック比較」 アイコンを有効化します。
- クイック比較がオフに切り替えられていることを確認し、「比較とマージ」メニューから次の比較モードを選択、または、比較モード ツールバー内の対応するアイコンを有効化します:
 - テキストの比較だけを行う 
 - XML として比較 
 - バイナリとして比較 
 - ファイルの拡張子設定によって比較 

3.4 ディレクトリ比較の実行

比較される2つのディレクトリがディレクトリ比較ウィンドウロードされると、「比較を自動的に開始する」コマンドがオンに切り替えられていると、比較は [自動的に実行されます](#) (デフォルトの設定)。またはWindows Explorer でディレクトリを選択し、「Altova DiffDog を使用して比較する」コンテキストメニューコマンドを使用することができます。更に、[比較の明確な開始](#) と比較の回数は、「比較の開始」コマンドで決定することができます。

ディレクトリ比較ウィンドウの[ファイルをダブルクリックすると](#) 比較されたディレクトリ内のこのファイルと対応するファイルは、新しいファイルの比較ウィンドウで開かれ、すぐに比較されます。

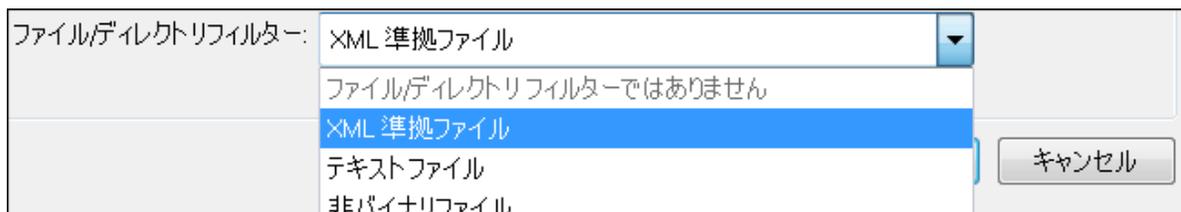
比較されたディレクトリのコンテンツのフィルター

ディレクトリコンテンツツールバーには、ディレクトリ比較ウィンドウに追加することのできるフィルターをドロップダウンリストから選択することができます。比較の前後にこのフィルターを変更することができます、フィルターの定義を変更することができます、新しいフィルターを追加することもできます。

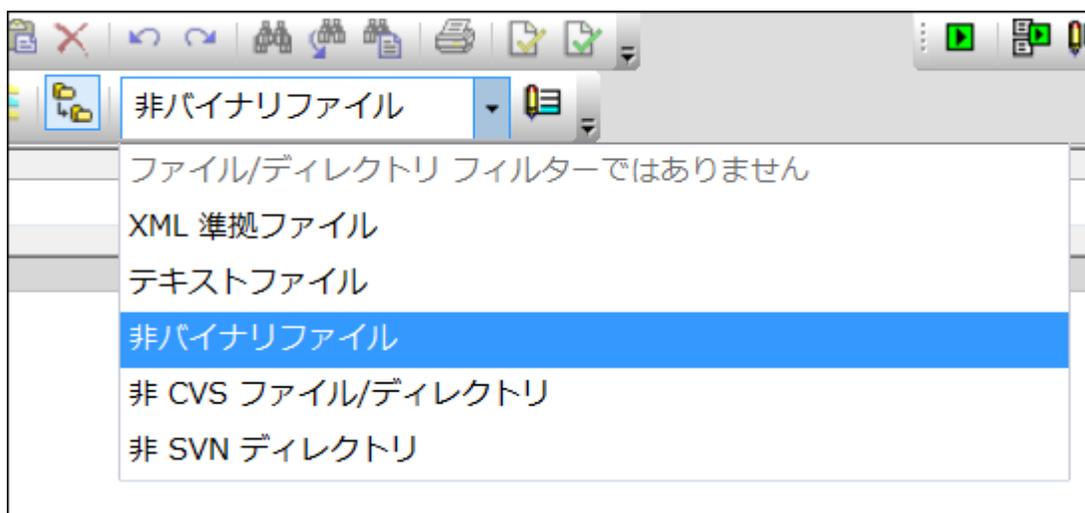
フィルターされたディレクトリ比較の実行:

以下を行います:

- 比較のためのディレクトリを選択すると、「ファイル | 開く」メニューオプションを使用して、「比較を開く」ダイアログボックス内のファイル/ディレクトリ フィルター ドロップダウンリストからフィルターを選択します。



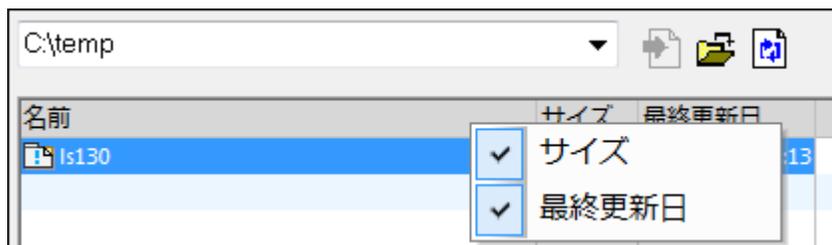
- ディレクトリの比較ウィンドウが既に開かれている場合、ディレクトリコンテンツツールバー内で使用することのできる、ドロップダウンリストから、フィルターを選択します。



ディレクトリ比較ウィンドウ内のコンテンツは更新され、比較がすぐに開始されます。

3.5 ビューの構成

ディレクトリの比較ウィンドウ内でペインのヘッダーを右クリックし、「サイズ」および/または「最終更新日」をクリックすることにより、最後に変更された列のサイズの表示のオンとオフを切り替えることができます。



列の幅は、希望する場所に列のボーダーをドラッグすることにより変更することができます。

ファイルが表示する内容の管理

個別のディレクトリの比較ウィンドウのビューを構成し、比較された状態をベースファイルを表示することができます。例えば、等しいファイル、および、比較不可能ファイルを表示しないことを選択することができます。また、等しくない、新しいファイルを左側では非表示にし、右側のみで表示するように選択することもできます。これを行うには、ツールバーアイコン内で使用することのできる簡単な切り替えコマンドを使用して設定します。アイコンの外枠が表示されている場合、(下に説明されるとおり)切り替えはオンに設定されていることにご注意ください。

-  等しいファイルの表示/非表示: 左側と右側のペイン内で等しいファイルとサブディレクトリを表示または非表示します。
-  左側が新しいファイルの表示/非表示: 等しくないファイル、および左側のペイン内で新しいファイルを表示または非表示します。
-  右側が新しいファイルの表示/非表示: 等しくないファイル、および左側のペイン内で新しいファイルを表示または非表示します。
-  左側のみにあるファイルの表示/非表示: 左側内のみが存在するサブディレクトリとファイルの表示をオフとオンに切り替えます。
-  右側のみにあるファイルの表示/非表示: 右側内のみが存在するサブディレクトリとファイルの表示をオフとオンに切り替えます。
-  比較不可能なファイルの表示/非表示: 比較が不可能なファイルの表示のオンとオフに切り替えます。選択された比較モード内で比較することができない場合、ファイルは比較不可能とみなされます。例えば、XML 比較モード内では、ファイル型が [XML に準拠しないように指定されている場合](#)、比較不可能と考えられます。
-  からのディレクトリの表示/非表示: 空のディレクトリの表示をオンとオフに切り替えます。

サブディレクトリの表示

ディレクトリを開く間に、「ファイル|開く」メニューオプションを使用し、ディレクトリ比較ウィンドウ内にサブディレクトリを表示しないことを選択した場合でも、ディレクトリツールバー内のサブディレクトリを含む  ボタンをクリックして、比較の全てのステージでのオプションを有効化することができます。ボタンをもう一度クリックすると、サブディレクトリの表示がオフに切り替えられます。ボタンがオンに切り替えられると、次のボタンを使用してサブディレクトリの表示をカスタマイズすることができます。

-  折りたたみ: サブディレクトリを持つ全てのディレクトリを折りたたみます。このコマンドは、両方のペイン内のすべてのサブディレクトリを折りたたみます。単一のサブディレクトリを折りたたむには、ダブルクリックします。
-  展開: サブディレクトリを持つ全てのディレクトリを展開します。

3.6 ディレクトリ内の差分を表示

ディレクトリ比較の結果は、ツリーとして両方のペイン内に表示されます。サブディレクトリが表示されている場合、アイコンをダブルクリックすることにより、展開、または、折りたたまれます。比較の結果は、下に説明されるとおり、色分けされたアイコンと共に表示されます。

Name	Size	Last modified		Name	Size	Last modified
bin		2007-10-17 11:14		bin		2007-07-26 07:17
binary.doc	29184	2007-10-17 11:14		binary.doc	29184	2007-07-04 12:25
DelUISettings.exe	24576	2005-01-19 12:26		DelUISettings.exe	24576	2005-01-19 12:26
Expenses		2008-02-20 12:44		Expenses		2008-02-20 12:44
New Folder		2008-02-20 12:15		New Folder		2008-02-07 12:08
Classes.csv	26	2008-02-20 12:17		Teachers.xml	490	2007-07-10 14:45
Teachers.xml	490	2008-02-07 12:12	≠	Text		2008-02-20 14:55
				Introduction.txt	0	2008-02-20 12:18
				Course.txt	740	2007-01-18 09:47
Course.xml	1582	2008-02-07 11:43	=	Course.xml	1582	2008-02-07 11:43

ファイル名を表示する色は重要です。DiffDog は、ディレクトリの比較ウィンドウ内で個々のファイルを次の色を使用して表示しています:

- 黒: 選択された比較モード内でファイルは等価です。

ExpReport.xslt	171379	2007-05-31 12:01	=	ExpReport.xslt	171379	2007-05-31 12:01
----------------	--------	------------------	---	----------------	--------	------------------

比較することのできない選択された比較モード内のファイル名は黒で表示されます。

Create Tables.sql	852	2007-01-17 16:08	≠	Create Tables.sql	852	2007-01-17 16:08
-------------------	-----	------------------	---	-------------------	-----	------------------

- 青: ファイルは表示されているディレクトリ内に存在しますが、他のディレクトリには存在しません。

				Course.txt	740	2007-01-18 09:47
--	--	--	--	------------	-----	------------------

- 赤: 選択された比較モード内でファイルは両方のディレクトリに存在しますが、ファイルは等しくありません。新しいファイルは赤で表示されていることにご注意してください。

Course.xml.bak	1763	2008-02-07 11:43	≠	Course.xml.bak	1582	2008-02-07 11:43
----------------	------	------------------	---	----------------	------	------------------

サブディレクトリ名は常に黒で表示されます。

フォルダーアイコン

次のアイコンは、ディレクトリの比較ウィンドウ内のディレクトリで使用されます。展開されたディレクトリは右上の角が折られた状態で表示されます(左側のアイコン):

-   選択された比較モード内で、等しいファイルを含むディレクトリは、空のサインで表示されます。
-   選択された比較モード内で、異なるファイルを含むディレクトリは、不等号のサインで表示されます。
-   存在しないファイルを含むディレクトリは、他のペインの対応するディレクトリで青い感嘆符で表示されます。

-   その他のファイルと異なるファイルを含むディレクトリは感嘆符と不等号のサインで表示されます。

ZIP と OOXML アイコン

ZIP と OOXML ファイルのための次のアイコンは、ディレクトリ比較ウィンドウ内のディレクトリで使用されます:

-  両方のペイン内で、ZIP アーカイブ/OOXML ファイルが等しいファイルを含む場合、ZIP シンボルは、2つの空のファイル アイコンを表示します。
-  異なるファイルを含む ZIP アーカイブ/OOXML ファイルは、不等号のサインで示されます。
-  他のペイン内の対応する ZIP に存在しないファイルを含む ZIP アーカイブ/OOXML ファイルは青い感嘆符で表示されます。
-  その他のファイルと異なるファイルを含む ZIP アーカイブ/OOXML ファイルは、感嘆符と不等号のサインで表示されます。

ファイルアイコン

ディレクトリ比較ウィンドウ内で、次のファイルアイコンが表示されます:

-  選択された比較モード内の等しいのファイルは内容を表示せずに表示されます。
-  選択された比較モード内の等しくないファイルは、不等号のサインと共に表示されます。
-  他のペイン内で存在しないファイルは、青い感嘆符と共に表示されます。

比較 シンボル

2つのペインの間で次のシンボルは表示され、ディレクトリ比較の結果を示します。具体的には、シンボルの横のファイル間の関係についての比較の結果を示します。これらのシンボルはサブディレクトリのためではなくファイルのために表示されることにご注意してください。

-  選択された比較モード内の等しいのファイル
-  選択された比較モード内の等しくないファイル
-  選択された比較モード内の比較することのできないファイル

3.7 ディレクトリ比較内からファイルを比較する

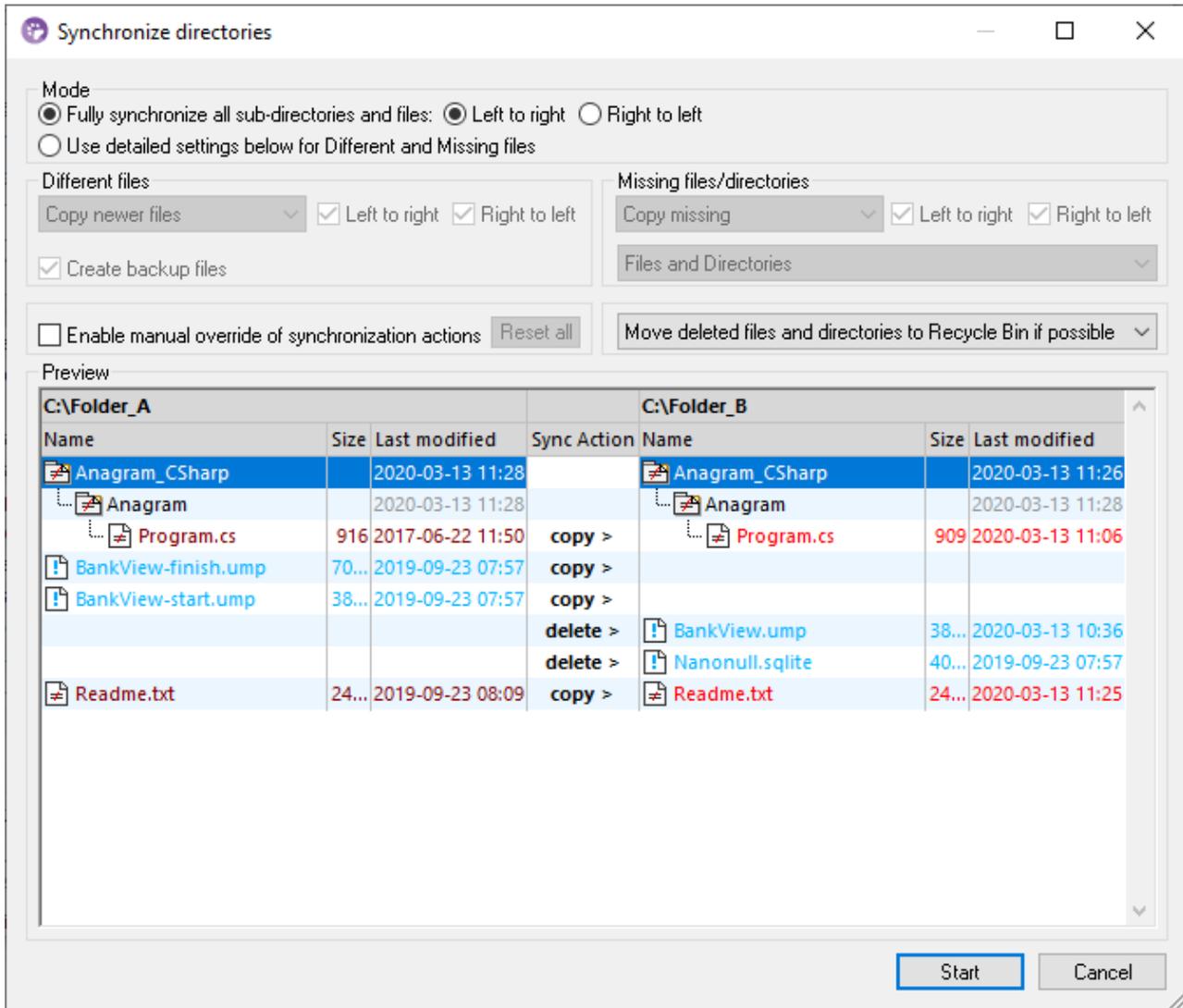
ディレクトリの比較 ウィンドウの左側または右側内のファイルをダブルクリックすると、そのファイルが開かれ対応する兄弟は新規のファイル比較 ウィンドウで開かれます。これは左側または右側で兄弟を持つファイルのみ適用することができます。それ以外の場合ファイル比較 ウィンドウの左側または右側のペインが作成されます。

新規のファイルの比較は、ディレクトリ比較の[現在の比較モード](#)で開かれます。または、ディレクトリの比較が開かれると、ディレクトリ比較の比較モードがウィック比較である場合、現在のファイルの比較モードである比較モード（テキスト、XML、バイナリ、または拡張子）で開かれます。

[標準のファイルの比較セッション](#) 内と同様にファイルの比較ウィンドウ内で作業することができます。

3.8 ディレクトリの同期

1つのペインから個々のファイルのコピーを許可するマージ機能に加え、「比較とマージ」メニュー内で、DiffDogは、「ディレクトリの同期」オプションも提供します。このオプションにより2つのディレクトリのコンテンツを単一のステップで同期することができます。



ディレクトリの同期 ダイアログボックスをディレクトリの比較ウィンドウから開くことができます。すなわち、[ディレクトリの比較ウィンドウを最初](#)に開く場合、個別のメニューオプションが存在しません。ディレクトリの比較ウィンドウ内で、2つのディレクトリが比較された後、次のオプションを選択することができます:

- 表示されているサブディレクトリを含むディレクトリを同期する。
- ディレクトリ比較ウィンドウ内の単一のサブディレクトリを選択し、その特定のサブディレクトリを同期する。

ディレクトリの同期 ダイアログボックスモードグループボックス内で次の2つのオプションから選択することができます: (i) すべてのサブディレクトリとファイル(左側から右側へまたは右側から左側へ)の**完全な同期**、または、(ii) **同期の設定**の適用。個別のファイルまたはサブディレクトリのために(コピー、削除、または無視などの)同期アクションを手動でオーバーライドすることができます。

ディレクトリの同期 ダイアログボックスを開く:

1. ディレクトリの比較ウィンドウ内で同期する2つのディレクトリが表示されていることを確認してください。
2. 以下を行います:
 - サブディレクトリを含む現在表示されているディレクトリを同期するには、メニューオプション「比較とマージ | ディレクトリの同期」を選択、またはディレクトリコンテンツツールバー内の「同期」 ボタンをクリックします。
 - ディレクトリ比較ウィンドウ内で選択されているサブディレクトリのみを同期する場合、メニューオプション「比較とマージ | 選択されたディレクトリの同期」を選択、またはディレクトリコンテンツツールバー内の「選択された項目を同期」 ボタンをクリックします。

3.8.1 完全な同期

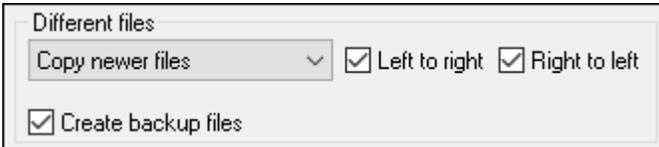
全てのサブディレクトリとファイル全ての同期 チェックボックスを選択すると、同期の方向に対応するラジオボタンを選択することにより左側から右側へ、または、右側から左側へ選択することができます。このため、ソースとターゲットディレクトリは選択により左側または右側になります。

完全な同期機は次のアクションを行います:

- ソースとターゲットディレクトリ異なるファイルは同じ目的のために上書きされます。例えば、左側から右側に同期する場合、左側のファイルは右側のファイルにより上書きされます。
- ソースディレクトリ内のみ存在するファイルはターゲットディレクトリにコピーされます。
- ターゲットディレクトリ内に存在するがソースディレクトリに存在しないファイルは目的で削除されます(可能な場合、ごみ箱からも削除されます)。例えば、比較の左側でファイルが不足している場合、そして同期が左側から右側の場合、右側のファイルは削除されます。
- バックアップファイルは作成されません。

3.8.2 同期設定の適用

DiffDog の作動中のセッション内で、ディレクトリの同期のために前に保存された設定を使用してディレクトリの同期 ダイアログボックスが開かれ、ダイアログの上の部分に表示されます。新しいDiffDog インスタンス(またはセッション)が開かれると、ディレクトリの同期 ダイアログボックスがデフォルトの設定と共に初回開かれます。ドロップダウンリストとチェックボックスを使用して、現在表示されているディレクトリを同期するために必要条件を満たすためにこれらの設定を受け入れることができます。異なるファイルグループボックス内では、コピーするファイルを定義します。すなわち、古い、または新しいファイルが保管されるか、または、右、左、または、両方のディレクトリこれらのファイルがコピーされるかを定義します。デフォルトのオプションは、新しいファイルが反対側コピーされ、新しいファイルのバージョンのみが保管されます。



以下のオプションから選択することができます:

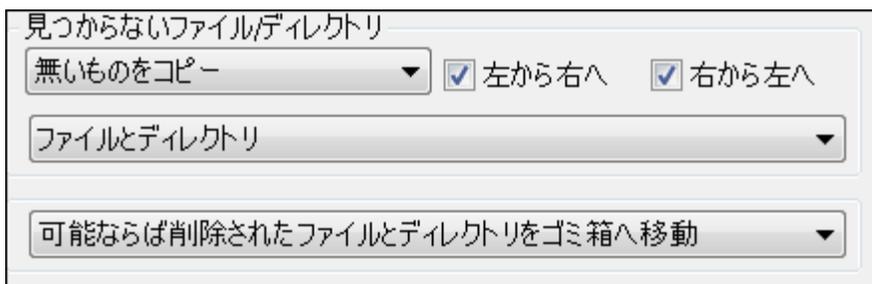
- アクション無し: このオプションは差分ファイルを無視します。

- **新しいファイルをコピーする** このオプションは、反対のディレクトリに新しいファイルのバージョンをコピーします。左側から右側へと右側から左側へ チェックボックスを使用して、1つの特定のディレクトリのみを更新するよう制限することができます。新しいファイルを反対のディレクトリにコピーし、両方のディレクトリが更新されます。
- **古いファイルをコピーする** このオプションは、反対のディレクトリに古いファイルのバージョンをコピーします。左側から右側へと右側から左側へ チェックボックスを使用して、特定のディレクトリでの更新を制限します。両方のボックスをチェックして、古いファイルを反対のディレクトリにコピーし、両方のディレクトリが更新されます。

バックアップファイルの作成 チェックボックスにより、ディレクトリ内にファイルの前のバージョンのバックアップを保管することができます。有効化されると、前のバージョンは、ディレクトリに更新されたバージョンがコピーされる前に BAK 拡張子と共に保存されます。



手動で同期のオーバーライドの有効化 アクション チェックボックスにより、1つ、または複数の特定のファイル、またはサブディレクトリの同期アクションを微調整することができます。このチェックボックスが有効化されている場合、列の同期アクションは、個別のファイルまたはサブディレクトリのために同期アクションを選択することのできるドロップダウンリストを提供し、ディレクトリレベルで定義されている設定をオーバーライドすることができます。



不足しているファイルディレクトリグループボックスは、ディレクトリが同期される時に、不足しているファイルおよびまたはディレクトリかのように扱われるかを決定します。これらのオプションがファイルとディレクトリ、またはディレクトリ（コピー時）またはファイル（削除時）のみに適用されるかを選択することができます。更に、削除されたアイテムが可能であればゴミ箱に移動されるか、または完全に削除されるかを定義することができます。

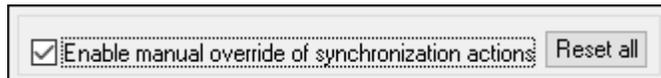
次のオプションを不足しているファイルとディレクトリのために使用することができます:

- **アクション無し**: ディレクトリの1つのみが存在するファイルのために同期アクションを実行しません。
- **不足しているファイルをコピーする**: 不足しているファイルは反対のディレクトリにコピーされます。左側から右側へ および右側から左側へ チェックボックスを使用して、特定のディレクトリでの更新を制限します。両方のボックスをチェックして、反対のディレクトリに不足しているファイルをコピーし、両方のディレクトリが更新されます。
- **不足しているファイルを削除する**: 不足しているファイルは、反対側から削除されます。左側のみ と右側のみ チェックボックスを使用して、特定のディレクトリでの削除の範囲を制限します。両方のボックスをチェックして、反対のディレクトリから不足しているファイルを削除し、両方のディレクトリから不足しているファイルを削除します。

3.8.3 同期のアクションの変更

フル同期を実行する場合、（無視、コピーまたは削除）などのアクションは同期の向きにより決定されます。例えば、比較の左側でファイルが不足している場合、そして同期が左側から右側の場合、そのファイルのためのデフォルトの同期アクションは「削除」です。一方、ディレクトリレベルで同期設定を変更すると、ディレクトリの同期を実行するとこれが適用されます。

更なるコントロールが必要な場合、1つまたは複数の個別のファイルまたはサブディレクトリのために手動でオーバーライドすることができます。これを行うには同期アクションの手動オーバーライドの有効化 チェックボックスを選択します。



このチェックボックスが選択されていると、[同期アクション]列は個別のファイルまたはサブディレクトリのために同期アクションを選択することのできるドロップダウンリストを提供します。このためにディレクトリレベルで定義された設定をオーバーライドします。

C:\Folder_A				C:\Folder_B		
Name	Size	Last modified	Sync Action	Name	Size	Last modified
Anagram_CSharp		2020-03-13 11:04		Anagram_CSharp		2020-03-13 12:20
Anagram		2020-03-13 12:20		Anagram		2020-03-13 12:20
Program.cs	916	2017-06-22 11:50	copy >	Program.cs	909	2020-03-13 11:06
BankView-finish.ump	70...	2019-09-23 07:57	< delete			
BankView-start.ump	38...	2019-09-23 07:57	< delete			
			delete >	BankView.ump	38...	2020-03-13 10:36
			delete >	Nanonull.sqlite	40...	2019-09-23 07:57
Readme.txt	24...	2019-09-23 08:09	copy >	Readme.txt	24...	2020-03-13 11:25

警告:

手動でオーバーライド同期アクションは手動で他の同期オプションより優先するためオーバーライドします。

個々のファイルまたはサブディレクトリのために手動で同期アクションを定義する

1. 「同期アクションのオーバーライドを手動で有効化する」チェックボックスが有効化されていることを確認してください。
2. 任意で、デフォルトの同期オプションをディレクトリのために変更します。同期オプションの変更を参照してください。
3. 「同期アクション」列から次のオプションの一つを選択します:

- <blank>: このファイルまたはサブディレクトリは同期されません。
- copy >: どちらのファイルが新しいかに関わらず、ファイルまたはサブディレクトリは左側から右側にコピーされます。
- < copy: どちらのファイルが新しいかに関わらず、ファイルまたはサブディレクトリは右側から左側にコピーされます。
- delete >: ファイルまたはサブディレクトリは右側で削除されます。
- < delete: ファイルまたはサブディレクトリは左側で削除されます。
- < delete >: ファイルまたはサブディレクトリは両側で削除されます。

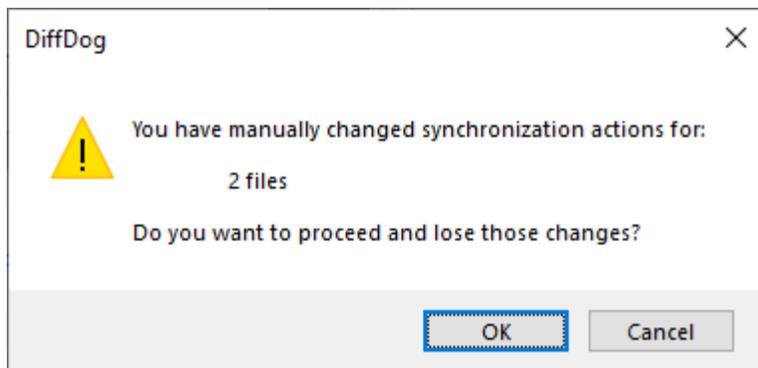
警告:

サブディレクトリ削除アクションに適用する場合、このディレクトリに含まれる全てのファイルも選択されたサイドで削除します。同期ディレクトリダイアログ内で等価のファイルは表示されない。DiffDog はこの事実を通知するために警告を表示します。

4. 「OK」をクリックします。同期のアクション箱となる背景色で示されています。ディレクトリのために全体の設定を後に変更することができます。設定は手動で変更されたアクションに一致し、背景色は削除されます。

同期 アクションを手動でリセットします:

1. 以下の一つを行います:
 - 「全てをリセット」ボタンをクリックします。
 - 「同期アクションのオーバーライドを手動で有効化する」チェックボックスを無効化します。
2. 表示されるメッセージボックス内の「OK」をクリックします。

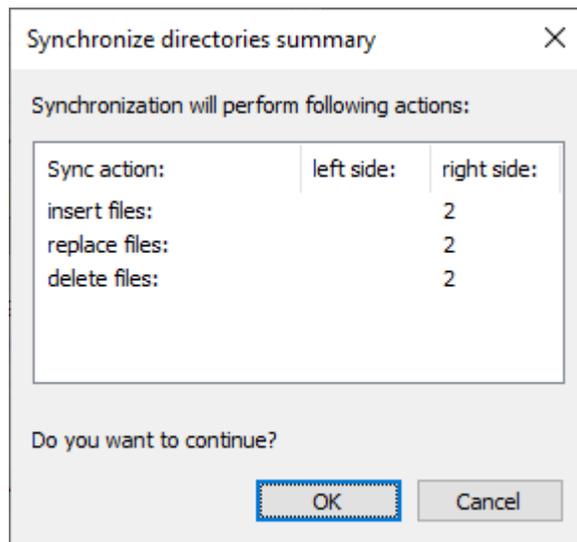


3.8.4 ディレクトリの同期の開始

適用できる場合、[個々のファイル](#)のために、[ディレクトリレベル](#)で同期のアクションを構成した後、ディレクトリの同期を手動で開始します。

ディレクトリの同期の実行:

1. ディレクトリの比較ウィンドウを [開き](#)、比較を [実行](#) します。
2. 差分とマージメニューから [ディレクトリの同期](#) をクリックします。
3. 異なる、および不足しているファイルのために [フル同期](#) または [詳細設定](#) を選択します。
4. 任意で、デフォルトの同期の設定の適用 または [個々のファイルのための同期のアクションを変更](#) します。
5. 「開始」をクリックします。DiffDog は同期中に実行されるアクションの概要を表示します。



6. 変更をコミットするために「OK」をクリックします。同期の設定を実行せずに、同期の設定を破棄する場合、「キャンセル」をクリックして、ディレクトリ比較ウィンドウに戻ります。

4 差分のナビゲーション

比較の結果が表示されると、最初の差分が常に現在の差分として表示されます。他の差分を現在の差分に設定、または「比較とマージ」メニューとツールバー内の次のナビゲーションコマンドを使用して現在の差分の選択を移動させて差分内を移動することができます:



次の差分 (Alt+Down): 次の差分を現在の差分として選択します。



前の差分 (Alt+Up): 前の差分を現在の差分として選択します。



最後の差分 (Alt+End): ドキュメント内の最後の差分を現在の差分として選択します。



最初の差分 (Alt+Home): ドキュメント内の最初の差分を現在の差分として選択します。



現在の差分の表示 (Ctrl+Enter): 現在の差分の表示する領域でドキュメント全体をスクロールします。このコマンドは、スクロール時に現在の差分が表示エリア(ドキュメントペイン)の外部に表示される場合役に立ちます。



現在の差分にする (Alt+Enter): 選択された差分を現在の差分にし、ナビゲートするために差分として設定します。特定の差分に直接移動し、そこからナビゲートする場合、現在の差分にするコマンドは役に立ちます。

上記のアイコンがツールバーに表示されていない場合、「カスタマイズ」ダイアログボックスの「[ツールバータブ](#)」内の「差分とマージ」オプション内でチェックすることによりこれらを含めることができます。

メモ 両方のドキュメント内の現在の差分の選択を動かします。ハイライトされたテキストを編集するには、ハイライトされたテキストにカーソルをポイントする必要があります(対応するドキュメント内の)。

現在の差分と編集

ファイルの比較ウィンドウ内で、ドキュメントに入力を開始し、「比較とマージ」メニュー内の [編集中に比較する](#)  がオフに切り替えられると、両方のドキュメント内からハイライトされている全ての差分が消去されます。「編集中に比較する」オンに切り替えられていると、入力により発生する差分が現在の差分としてハイライトされます。差分を削除する変更をする場合、カーソルの位置の直ぐ後の差分が現在の差分としてハイライトされます。差分を現在の差分にする:

1. カーソルを必要とされる差分にポイントします(ドキュメント内の全ての箇所をポイントすることができます) または、上記の「次の差分」  または「前の差分」  ナビゲーションコマンドを使用してナビゲートします。

メニューオプション「比較とマージ | 現在の差分にする」を選択します。「Alt+Enter」を押します、または、比較とマージツールバーから対応するツールバーアイコン  を選択します。

5 差分のマージ

ファイル または **ディレクトリ** 比較を比較ウィンドウ内で実行すると、2つのペイン（ディレクトリ/ファイル間）に存在する差分をマージすることができます。

「ファイルの比較」ウィンドウで、差分（比較されたファイル内に同一の、または、対応するテキスト・フラグメントが存在しないテキスト・フラグメント）は、他のファイル内の対応する場所にファイルからコピーすることができます。

「データベーススキーマ比較」ウィンドウ内で、選択された等しくないファイル（比較されたディレクトリ内に同一の、または、対応するファイルが存在しないファイル）をディレクトリから他のディレクトリにコピーすることができます。

差分をマージするため次のコマンドを使用することができます：



左から右にコピーする (Alt+Right)

ファイルの比較内の選択された差分のために左側のペイン内のドキュメントから右側のペイン内のドキュメントにテキストをコピーします。

ディレクトリ比較内の選択された等しくないファイルのために、左側のペイン内のディレクトリから右側のペイン内のディレクトリにファイルをコピーします。



右から左にコピーする (Alt+Left)

ファイルの比較内の選択された差分のために、右側のペイン内のドキュメントから左側のペイン内のドキュメントにテキストをコピーします。

ディレクトリ比較内の選択された等しくないファイルのために、右側のペイン内のディレクトリから左側のペイン内のディレクトリにファイルがコピーされます。

ファイル比較内では、ソースの差分の全体がコピーされます（すなわち、現在の差分の背景色内でハイライトされたユニット全体が、ターゲットドキュメント内の差分全体を上書きします）。ファイル内のマージされた差分（比較箱となる背景色）で表示することができます。DiffDog オプション ダイアログボックスの**ファイルの比較** タブ内でこの設定を行うことができます。

差分をマージする：

1. カーソルを必要とされる差分にポイントします（ドキュメント内の全ての箇所をポイントすることができます）または、上記の「次の差分」 または「前の差分」 ナビゲーションコマンドを使用してナビゲートします。メニューオプション「比較とマージ | 現在の差分にする」を選択します。「Alt+Enter」を押します、または、比較とマージツールバーから対応するツールバーアイコン を選択します。

3. 以下を行います：

- 左側のペインから右側のペインにコピーする場合、メニューオプション「比較とマージ | 左から右にコピーする」を選択、または、対応するツールバーアイコン をクリック、または「Alt+Right」を押します。
- 右側のペインから左側のペインにコピーする場合、メニューオプション「比較とマージ | 右から左にコピーする」を選択、または、対応するツールバーアイコン をクリック、または「Alt+Left」を押します。

6 差分のエクスポート

ファイルとディレクトリ両方の比較のために差分をファイルにエクスポートすることができます。XML  または  テキスト 書式に差分をエクスポートすることができます。使用することのできる書式の比較モードは次のテーブルにリストされています。

					
ファイルの比較	 		n.a.		n.a.
ディレクトリの比較	 	 	 	 	 

ファイルに差分をエクスポートする方法:

1. ファイル または ディレクトリの比較を実行します。
2. 「ファイル」メニューから「マッピング設定」をクリックします。
3. エクスポート先のファイル名を入力し、希望する書式 (XML、または テキスト) を選択し、「保存」をクリックします。

XML 比較  の場合、「差分のエクスポート」コマンドは XML 比較オプションが「ツール | 比較オプション | XML」タブから次のように設定されていると使用することができます。コマンドを有効化するご以下を行います:

1. 「ツール」メニューから「比較オプション」をクリックします。
2. XML タブをクリックします。
3. 詳細差分 チェックボックスを選択します。
4. 「ノード階層を無視」チェックボックスを選択してはなりません。

7 比較の保存とロード

ファイルまたはディレクトリ比較のために選択された設定は、それぞれ、filedif または dirdif ファイル内に保存することができます。filedif 拡張子は、ファイルと MS Word 比較のために使用されます。dirdif には Enterprise Edition から保存された場合のみ Word オプションが含まれます。filedif または dirdif ファイルが DiffDog で開かれると、GUI は比較される 2 つのオブジェクトを、filedif または dirdif ファイル内で保存された設定を使用して、ロードします。この機能は、2 つのファイル、または 2 つのフォルダーを後に現在の設定と同じ設定で比較する際に役に立ちます。

.filedif と dirdif ファイルを保存する

比較の設定を保存するには、コマンド「ファイル | 名前を付けて保存」を選択します。適切なファイル型 (.filedif または .dirdif) を選択し、ファイル名を入力し、「保存」をクリックします。ファイルは指定された場所に保存されます。DiffDog はこれらのファイル拡張子のデフォルトのエディターになります。これは、インストーラーによりインストール時に設定されます。

.filedif と dirdif ファイルを開く

比較ファイル (.filedif または .dirdif) を開くには、コマンド「ファイル | 比較ファイルを開く」を選択し、比較ファイルを参照し、「開く」をクリックします。Windows Explorer からファイルをドラッグして DiffDog にドロップすることができます。フル URL サポート (すなわち、local、http、および ftp) を使用することができます。

エディションファイルに関わらず、dirdif ファイルは全てのエディションで開くことができます (MS Word オプションは、Enterprise Edition 内でのみ保存することができます)。Professional Edition および (Professional Edition ではサポートされない) Word オプションを含む dirdif ファイルを使用してファイルが開かれるとエラーメッセージが表示されます。

コマンドラインへのサポート

[コマンドライン](#) を使用して、比較ファイルを開くことができます:

```
DiffDog.exe C:\test1.filedif
DiffDog.exe C:\test*.filedif
DiffDog.exe C:\test.*dif
```

.filedif または dirdif ファイルを開く際にアスタリスク (*) ワイルドカードの使用が許可されています。

DiffDog Server を使用して比較を実行する方法

ライセンス供与済みの DiffDog Server を使用する場合は、DiffDog Server を使用して、filedif または dirdif 比較をコマンドラインから実行することができます。これを行うには、filedif または dirdif ファイルパスを import コマンドへの引数として与えます。

*.filedif と *.dirdif ファイルを DiffDog Server を使用して実行することは Windows 上のみでサポートされています。比較に成功するためには、デスクトップ上で有効な全てのファイルまたはディレクトリパスがサーバーマシン上で有効である必要があります。(*.filedif または *.dirdif ファイルの使用とは異なり) DiffDog Server 内で直接比較ジョブをセットアップした場合、プラットフォームに関わらず実行することができます。

比較の出力を XML またはテキストフォーマット内の内のファイルにダイレクトするには、以下の手順に従ってください!

1. 既存の dirdif または filedif ファイルを (または、新規の比較を作成し) DiffDog で開きます。
2. 「ツール」メニューから「ドキュメントの比較オプション」を開きます。
3. 以下の内の 1 つを行います:
 - a. ファイルへのダイレクションを使用せず、「エクスポート無し」をクリックします (これはデフォルトのオプションです)。
 - b. テキストファイルレポートをダイレクトするには、「テキストファイル」をクリックし、テキストボックスの横の矢印を入力します。
 - c. XML ファイルレポートをダイレクトするには、「XML ファイル」をクリックし、テキストボックスの横の矢印を入力します。
4. 「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」をクリックし、比較を .filedif (適用することができる場合は、dirdif として) として保

存します。

詳細については、DiffDog Server ドキュメントを参照してください(<https://www.altova.com/ja/documentation>)

8 比較の管理オプション

「比較とマージ」メニューには、ファイルとディレクトリをカスタマイズするために使用される一連のコマンドを含み、比較管理オプションとしてまとめられています。オプション 比較を明示的に開始する以外に、[特定の比較機能の自動化](#) と [最近比較された組み合わせの選択](#) のためのオプションを使用することができます（[下を参照](#)）。

比較の開始

「比較とマージ」メニュー内の「比較の開始」コマンドは、ファイルの比較とディレクトリ比較 ウィンドウに適用され、比較を明示的に開始するために使用されます。比較は自動的に開始され、このコマンドは [比較を自動的に開始する](#) または [編集集中に比較する](#) 比較管理オプションがオンに切り替えられている場合、必要無い点に注意してください。

比較を明示的に開始する:

- メニューオプション「比較とマージ | 比較の開始」を選択、または「F5」を押します。または、比較とマージツールバー内の対応するツールバーボタン  をクリックし、または比較ウィンドウのタブを右クリックし、表示されるコンテキストメニューから「比較の開始」コマンドを選択します。

8.1 自動比較機能

DiffDog は、ファイルがロードされた時、または、編集された時に自動的に比較を開始するオプションを提供します。更に、比較が実際に開始される前に、比較オプションを表示することができます。これら全てのオプションは切り替えコマンドであることに注意してください。

比較を自動的に開始する

「比較を自動的に開始する」オプションがオンに切り替えられると、比較は、ファイルとディレクトリが比較ウィンドウにロードされると自動的に開始されます。このオプションがオフに切り替えられている場合、(ファイル、または、ディレクトリ)比較は、[明示的に開始される必要があります](#)。

比較を自動的に開始する:

- メニューオプション「比較とマージ | 比較を自動的に開始する」を有効化、または、比較とマージツールバー内の対応するツールバーアイコン  を有効化します。

編集集中に比較する

ファイルの比較ウィンドウ内のドキュメントを比較がオンに切り替えられていると、編集集中に差分が編集集中にマイトされます。オフに切り替えられると、どちらかのドキュメント内に入力を始めると、両方のドキュメント内の差分のマイトがオフに切り替えられます。編集後に差分をマイトするには、[比較を実行](#)する必要があります。

編集集中にファイルを比較する:

- メニューオプション「比較とマージ | 編集集中に比較する」を有効化、または、比較とマージツールバー内の対応するツールバーアイコン  を有効化します。

比較の前にオプション設定を表示する

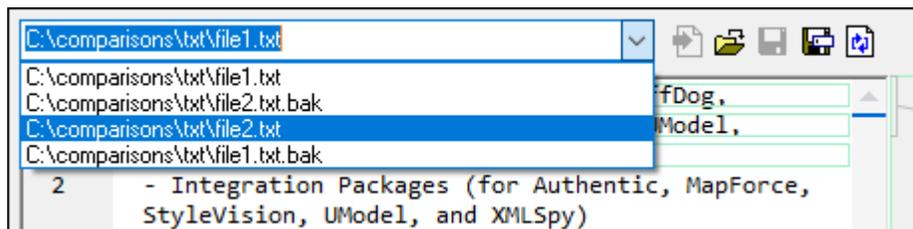
このコマンドは、個別の比較ウィンドウのオン/オフに切り替えることができます。比較ウィンドウのオン/オフに切り替えられている場合、「比較オプション」ダイアログボックスがそのウィンドウ内で比較が行われる都度表示されます。ドキュメントの編集集中、DiffDog により比較が自動的に設定される前は、「比較オプション」ダイアログボックスは表示されません。

比較前にオプションを表示:

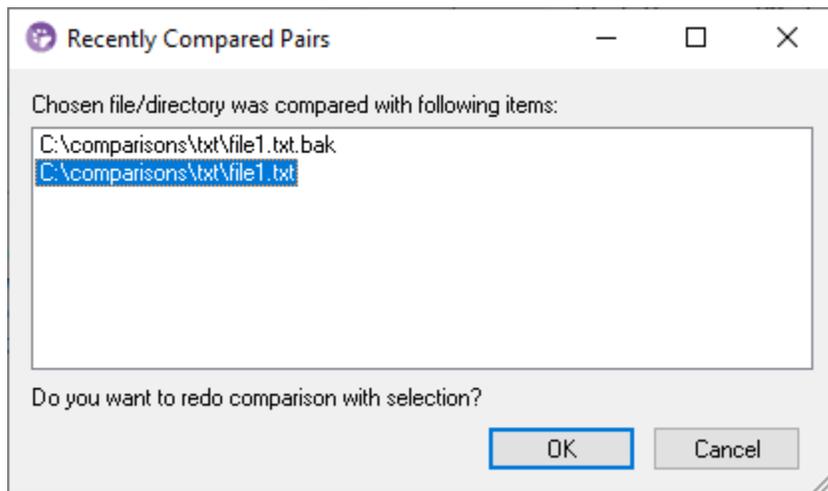
- メニューオプション「比較とマージ | 比較の前にオプション設定を表示する」を有効化、または、比較とマージツールバー内の対応するツールバーアイコン  を有効化します。

8.2 最近比較した組み合わせ

メニューアイテム「比較とマージ」最近比較された組み合わせのサポート」により「最近比較されたペア」の機能を無効化することができます。このダイアログボックスは、ファイルまたはディレクトリが最近比較された5つのファイルとディレクトリを含むリストが含まれています。最近比較されたファイルまたはディレクトリを比較ウィンドウの上にあるドロップダウンリストから選択することができます。例:



上記のリストからアイテムを選択すると「最近比較された組み合わせ」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは選択されたエントリが最近比較された全てのファイル(または適用できる場合はディレクトリ)をリストします。例:



最近比較されたアイテムとファイルまたはディレクトリを比較するには、対応するアイテムを選択して「OK」をクリックします。

メモ 「キャンセル」をクリックすることにより、他のペイン内で前に比較されたファイルまたはディレクトリを開くことなく、選択されたファイルまたはディレクトリが開かれます。「キャンセル」をクリックしても、選択されたファイルまたはディレクトリが開かれることを止めることはできません。「最近比較された組み合わせ」ダイアログボックスをドキュメントを開く都度表示しない場合、「最近比較された組み合わせ」をサポートするオプションをオプトアウトに替えます。

9 DiffDog オプション

「ツール | DiffDog オプション コマンド」によりグローバルアプリケーション設定を定義することができます。これらの設定は、ダイアログボックス内で指定され、レジストリ内に保存されます。これらは現在と未来のドキュメントウィンドウに適用することができます。DiffDog オプションダイアログボックス内の「適用」ボタンは、現在開かれているドキュメント内の変更を表示し、現在の設定をフックスします。背景ウィンドウ内で変更をすく確認することができます。

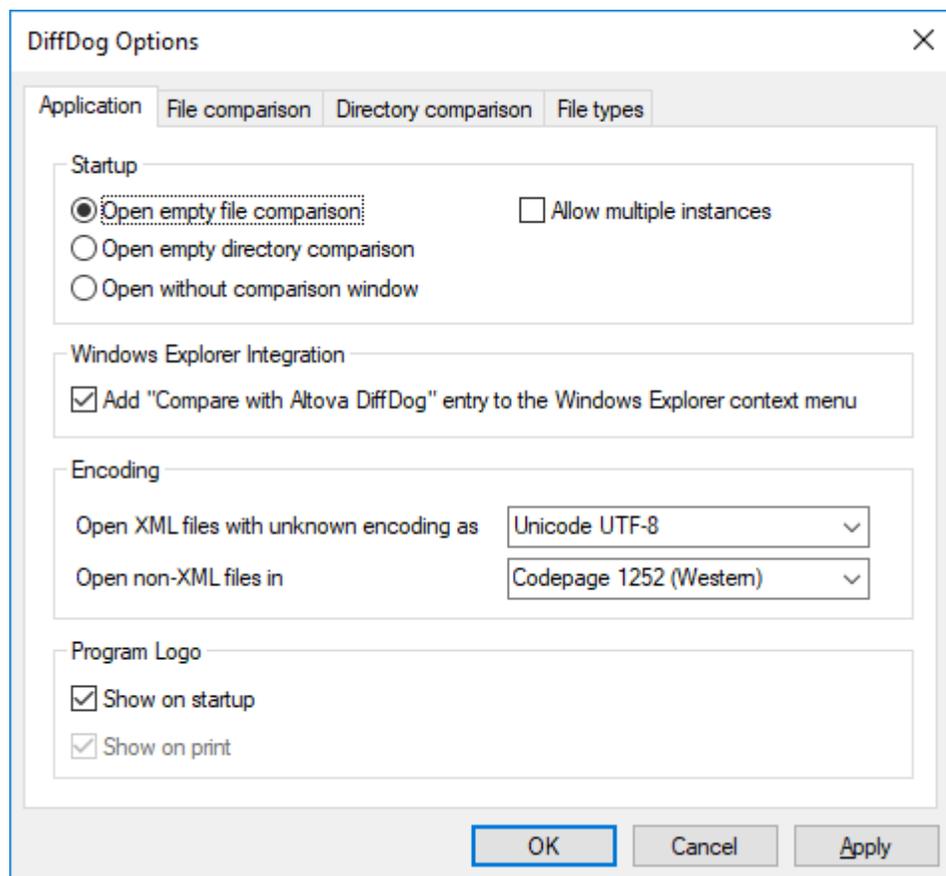
DiffDog オプションダイアログボックスの各ページは、このセクションで詳しく説明されています。

DiffDog 設定を変更する

1. 「ツール | DiffDog オプション...」を選択、または、比較とマージツールバー内のDiffDog オプション  ボタンを選択します。
DiffDog オプションダイアログボックスが表示されます。
2. 次のオプションのためのタブを選択します:
 - [アプリケーション](#)
 - [ファイルの比較](#)
 - [ディレクトリ比較](#)
 - [ファイル型](#)
 - [ネットワークプロキシの設定](#)
3. 希望する変更を加え、「OK」をクリックします。

9.1 アプリケーション

DiffDog オプション ダイアログボックスのアプリケーションタブで、アプリケーションの開始オプションを定義します。



スタートアップ

3つのラジオボタンは、DiffDog が空のファイルの比較ウィンドウ、空のディレクトリの比較ウィンドウ、または、比較ウィンドウ無しで開始されるかを定義します。

複数のインスタンスを許可 チェックボックスが無効化されていると、DiffDog のインスタンスが既に作動している時に、DiffDog を開始すると、新しい比較ウィンドウ(ファイル、ディレクトリ、または空) により既に実行されているDiffDog のインスタンスが開かれます。

Windows Explorer 統合

Windows Explorer コンテキストメニューチェックボックスに対する「Altova DiffDog を使用して比較する」が無効化されていると、相対するファイルを選択し、「Altova DiffDog を使用して比較する」をコンテキストメニューから選択することにより、ファイルまたはディレクトリの比較をWindows Explorer から直接開始することができます。

エンコード

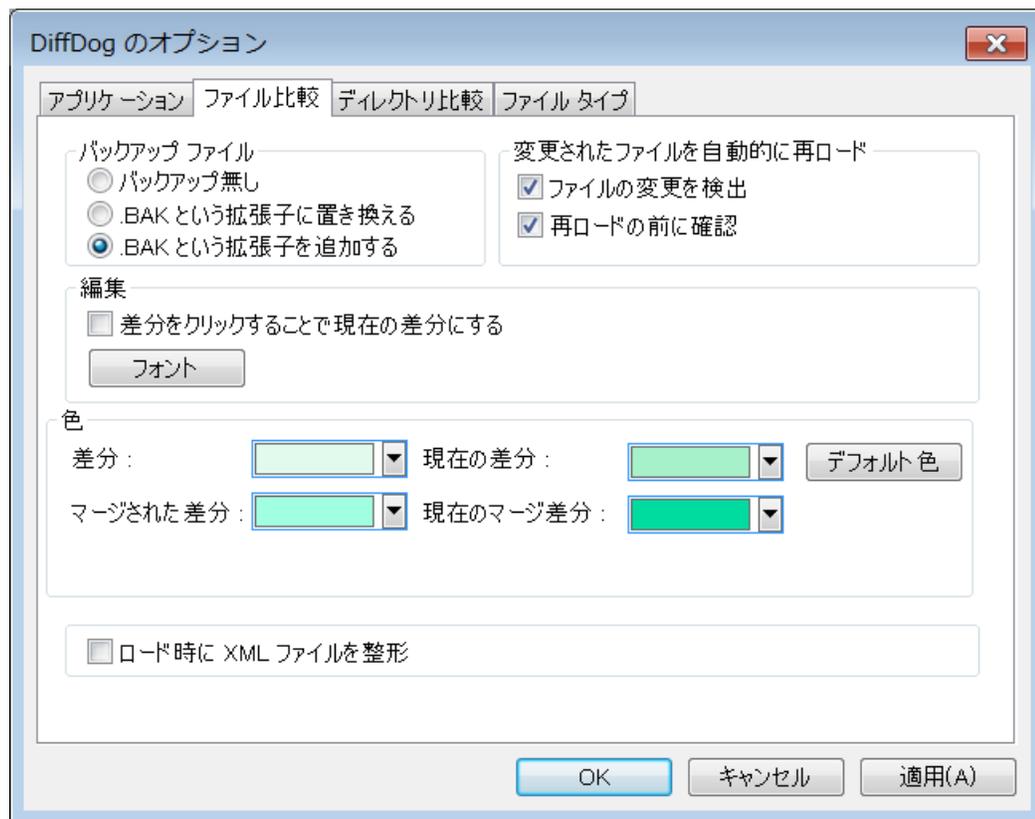
エンコードを検出できない場合 XML ファイル、または、非-XML ファイルをそれぞれ開くエンコードを選択できます。

プログラムロゴ

スタートアップで表示オプションはDiffDog が開始されると、プログラムロゴの表示オプションがチェックされていると、スプラッシュスクリーン (ロゴ) を表示します。「印刷時に表示する」は読み取り専用です。比較結果が印刷されるとプログラムロゴを印刷します。

9.2 ファイルの比較

ファイルの比較 タブより、ファイルの比較のための詳細を設定することができます。これらのオプションは、属性の表示からファイルアクションなどを含む、すべての開かれた、および、以前に開かれたファイルの比較に適用されます。



バックアップファイル

このオプションにより、DiffDog 内で編集されたバージョンを保存する場合、元のファイルが保存されるかを構成できます。このような場合、元のファイルと編集済みのファイルに名前を与える必要があります。編集済みファイルを保存すると、新しく名前の付けられたファイルが作成されます。次のオプションを使用することができます。

- バックアップ無し: 編集されたファイルにより元のファイルが上書きされます。元のファイルの名前が保持されます。
- .BAK と拡張子を置き換える: 元のファイルが abc.xml と呼ばれる場合、変更はこのファイルに書き込まれ、元のコピーは abc.bak として保存されます。
- .BAK を拡張子に追加する: 元のファイルが abc.xml と呼ばれる場合、変更はこのファイルに書き込まれ、元のコピーは abc.xml.bak として保存されます。

ヒント: .BAK ファイルは [XML に準拠するように設定](#)でき、他の XML ファイルとの比較で使用することができます。

ZIP に準拠するファイルが変更されると、DiffDog は、ZIP 自身のバックアップではなく、ZIP 内で変更された個々のファイルのためにバックアップを作成します。

変更されたファイルの自動的な再ロード

DiffDog 内で開かれたファイルが他のアプリケーションまたは他の個人により変更されると、再ロードのプロンプトが表示、または、非表示され、DiffDog 変更されたファイルを再ロードすることができます。

編集

「現在の差分にするために差分をクリックする」チェックボックスが有効化されており、クリックすることにより、比較されたドキュメント内の差分を現在の差分にすることができます。

表示のフォントのプロパティを自由に選択することができます。「フォント」ボタンをクリックすると、このための「フォント」ダイアログボックスが開かれます。

色

比較されたドキュメント内の差分をハイライトする異なる背景色を選択することができます。以下のオプションが含まれます:

- 現在の差分 (現在注目されている、または、選択されている差分)
- マージされた差分 (まだ保存されていないマージされた差分)
- 現在マージされた差分 (現在選択されているマージされた差分)

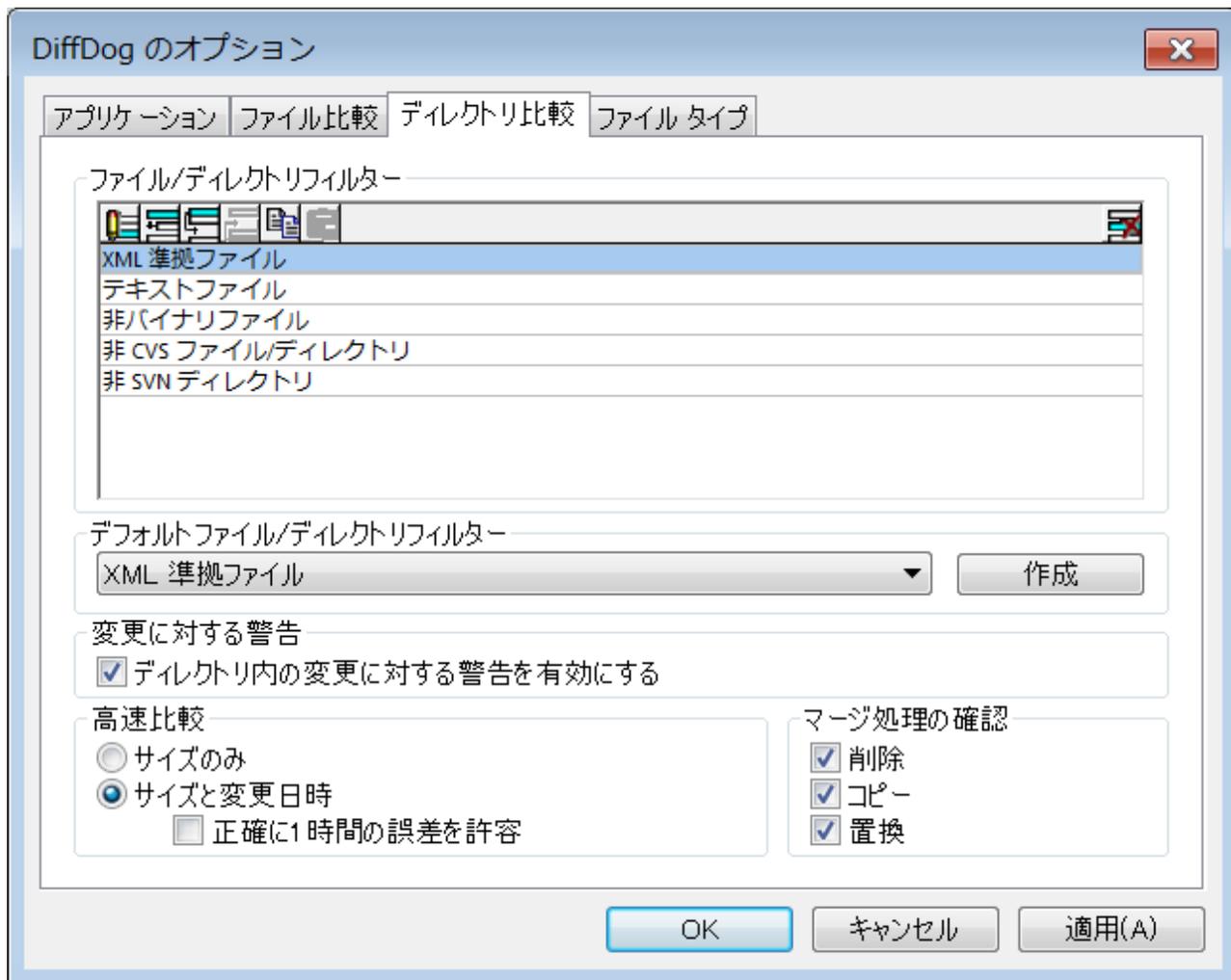
「デフォルトの色」ボタンをクリックするとデフォルトの色に戻ることができます。

整形出力

ロード時の XML ファイルの整形出力 オプションにより、元々は改行などが無い連続的なストリームの形式のファイルが自動的にユーザーの使用しやすい XML ファイルがファイルの比較ウィンドウに自動的に作成されます。

9.3 ディレクトリ比較

ディレクトリ比較 タブによりディレクトリ比較内で考慮されるファイルを決める [フィルターを作成](#) することができます。



メモ「OK」をクリックして、このダイアログボックスの終了後、ディレクトリ比較ウィンドウ内で必要とされるフィルターを選択します。「OK」をクリックしても、使用するフィルターは選択されません。変更はダイアログボックスを閉じた後に保存されます。

ファイル/ディレクトリフィルター

「ディレクトリの比較」オプションが選択されている場合、ディレクトリ比較ウィンドウのツールバーと「比較を開く」ダイアログボックス内での選択のためにフィルターを使用することができます。

ファイル/ディレクトリフィルターグループボックスには、フィルターを定義、整理、削除するための複数のボタンが含まれます:



フィルターの定義を変更する選択されたフィルターのために、「フィルターの編集」ダイアログを開きます。

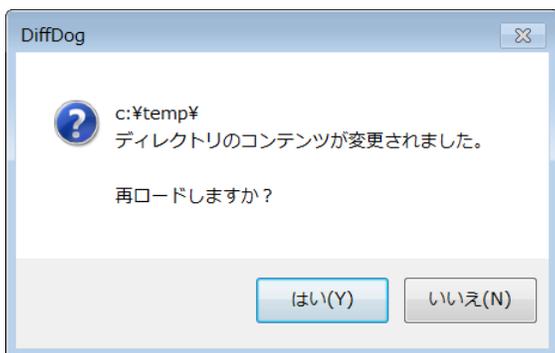
-  新しいフィルターを作成する「フィルターの編集」ダイアログを開きます。定義が完了すると、フィルターは、ボタンがクリックされると選択されるフィルターの下で使用することのできるフィルターのリストに追加されます。
-  選択されたフィルターをフィルターのリスト内で1つ下の位置に移動させます。
-  選択されたフィルターをフィルターのリスト内で1つ上の位置に移動させます。
-  選択されたフィルターのコピーを作成します。
-  選択されたフィルターの下にフィルターのコピーを貼り付けます。
-  選択されたフィルターを削除します。

デフォルトのファイルディレクトリフィルター

このグループボックスには、使用することのできるデフォルトのフィルターを持つドロップダウンリストが含まれています。フィルターを選択して、選択されたデフォルトの定義をベースとして新しいフィルターを作成することのできる「フィルターの編集」ダイアログボックスを開くために「作成」をクリックします。必要に応じて、名前とフィルターの定義を編集し、ファイルディレクトリフィルターグループボックス内の使用することのできるフィルターのリストに新しいフィルターを追加するために「OK」をクリックします。

変更の通知

「ディレクトリ内の変更に対する警告を有効にする」ディレクトリ チェックボックスが有効化されている場合、DiffDog は、DiffDog の外部で、表示されたフォルダーのコンテンツが変更されると、警告メッセージが表示され、表示を更新するかどうかを決定することができます。



クイック比較

グループボックス内では、クイック比較中「サイズと変更日」が選択されると、サイズのみ、または、更新日とサイズを考慮するように定義することができます。「正確に1時間の誤差を許容」チェックボックスを有効化することもできます。自動的にシステムが更新され、夏時間の調整後に1時間の時刻の差分が発生する可能性があります。「正確に1時間の誤差を許容」チェックボックスを有効化すると、このようなファイルの差分として表示されることを回避できます。

マージのオペレーションの確認

ファイルの削除前及びコピー前、またはマージのオペレーション中の置換時に警告メッセージが表示されるかを定義することができます。



このダイアログボックス内で「このダイアログを表示しない!」を有効化すると、対応するオプションがDiffDog オプション ダイアログボックス内で無効化されます。

9.3.1 フィルターの定義

「フィルターの編集」ダイアログはディレクトリ比較を制限するオプションを提供します:

- 特定の型のファイルのみを考慮する
- 特定の型のディレクトリのみを考慮する
- 特定のファイルとディレクトリを無視する
- 特定の属性を持つファイル、または、ディレクトリの比較
- 比較されるファイルディレクトリの日付の範囲を定義します
- 特定のファイルサイズにファイルを制限する

フィルターの編集

フィルター名
XML 準拠ファイル

ファイル/ディレクトリ名
ファイルだけを含む:
.biz;.cml;*.dcd;*.dtd;*.ent;*.fo;*.math;*.mml;*.mtx;*.rdf;*.smil;*.svg;*.tld;*.tsd;*.vml;*.vxml;*.wml;*

ファイルを無視:
[空欄]

ディレクトリだけを含む:
[空欄]

ディレクトリを無視:
[空欄]

ファイル/ディレクトリ属性
ファイル: システム 非表示 読み取り専用 アーカイブ
ディレクトリ: システム 非表示

更新日
 開始 14/Sep/2017 13:12 終了 14/Sep/2017 13:12

ファイルサイズ
 下限 [空欄] Bytes 上限 [空欄] Bytes

OK キャンセル

「ファイルだけを含む」と「ファイルを無視」フィールド内の両方にファイル型が含まれる場合、そのファイル型は、ディレクトリの比較内で無視されます。

新しいフィルターが選択される前に開かれたディレクトリの比較ウィンドウのために、新規のフィルターがこれらの比較ウィンドウに適用されるように、両方のディレクトリを再ロードする必要があります。

更新日

更新日 グループボックス内で、開始日、およびまたは 終了日を入力して、ディレクトリ比較のための日付の範囲を定義することができます。ディレクトリが比較されると、日付の範囲内のファイルのみが考慮されます。開始日から終了日までの全てのファイルを含む場合は、対応するチェックボックス(開始日 または 終了日)のみを有効化し、2番目のチェックボックスをチェックしないでそのままします。「開始日 または 終了日」チェックボックスが選択された後、変更するデータの部分を選択することができます。

ディレクトリ比較のためにフィルターを定義する

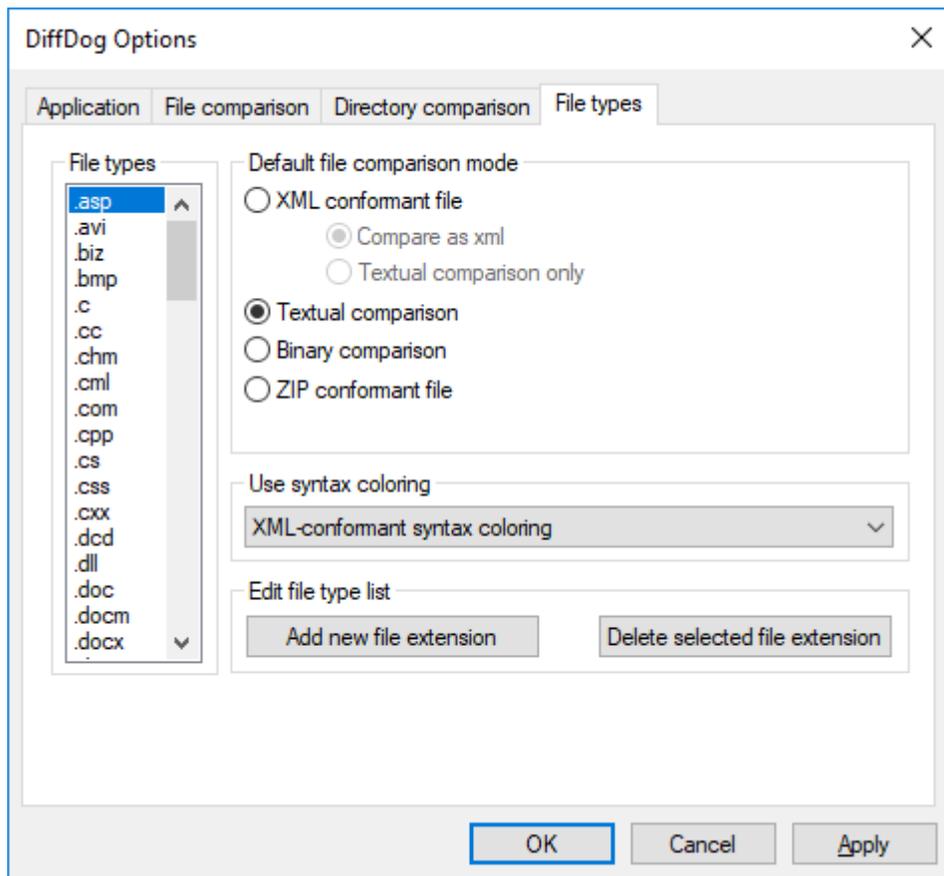
1. 以下の内の1つを行います:
 - a. メニューオプション「ツール | DiffDog オプション」を選択し、ディレクトリ比較 タブに変更します。
 - b. または、ファイルの比較ウィンドウのツールバー内の **フィルターの編集**  ボタンをクリックします。ドロップダウンリストからフィルターが既に選択されている場合、新規のフィルターを作成する代わりにそのフィルターを編集します。



2.  ボタンをクリックして「フィルターの編集」ダイアログを開きます。
3. フィルターの編集 ダイアログ内で、フィルター名 フィールドに詳細な名前を入力します。
4. 比較を特定のファイル型に制限する場合はファイルのみ含む フィールド内にファイルの拡張子を入力します。比較からファイル型を除外するためにファイルを無視 フィールド内にファイル拡張子を入力します。ファイル型はフォーム *.ext でリストされており、フィルター内のファイル型間の区切りはセミコロン (;) であることにご注意してください。
5. 比較中に、ディレクトリの特定のサブフォルダーを含む、または、無視する場合は「ファイルだけを含む」ディレクトリフィールド または「ディレクトリを無視」フィールドにそれぞれフォルダー名を入力します。フォルダー名の部分を入力するためにワイルドカード 文字 * を使用することもできます。フィルター内の個別のフォルダー名の区切りはセミコロン (;) であることにご注意してください。
6. 特定の属性が適用されているファイルとディレクトリを含む場合は、ファイルディレクトリ属性 グループボックス内の対応するチェックボックスを有効化してください。チェックされていない属性を持つファイルとディレクトリはディレクトリ比較ウィンドウ内に表示されます。ディレクトリのためではなくファイルのため「非表示」チェックボックスが有効化されていると、隠しディレクトリ内の隠しファイルは表示されないことにご注意してください。
7. 特定の日付の範囲に比較を制限する場合、更新日 グループボックス内の「開始およびまたは終了」チェックボックスを有効化します。
8. 特定のサイズのファイルに比較を制限する場合、ファイルサイズ グループボックス内の「開始およびまたは終了」チェックボックスを有効化します。数字を入力し、ドロップダウンリストから、適切なユニットを選択します。
9. 変更を保存するために「OK」をクリックします。

9.4 ファイル型

ファイル型 タブ内で異なるファイル型のデフォルトの比較モードを設定します。ファイルタイプ拡張子 (.asp、.biz、など) により識別され、[比較モード](#)は XML、テキスト、バイナリ、または ZIP に準拠します。



ファイル型

グループボックス「デフォルトの比較モード」と「構文色分けの使用」内で定義されているオプションのためのファイル拡張子を選択するためこのペインが使用されます。これら2つのグループボックス内に追加された変更はファイル型ペイン内で現在選択されているファイルの型のみ適用されることにご注意ください。

デフォルトのファイルの比較モード

特定のファイル型のためにデフォルトの比較モードを割り当てるには、デフォルトのファイルの比較モード グループボックスから、次のラジオボタンを選択してください。

- XML に準拠するファイル
そのファイル型のインスタンスは、XML 適合性のためにチェックされており、適合性がある場合、XML ファイルとして扱われます。XML に準拠するファイルは、XML またはテキストとして比較される可能性があります。
- テキストの比較
- バイナリの比較

そのファイル型のインスタンスは、バイナリファイルとして考慮されます。バイト単位の比較がデフォルト比較内で使用されます。この型のファイルは、テキストビューでは表示されません。

- ZIP に準拠するファイル
そのファイル型のインスタンスは、デフォルト比較内のサブデフォルトとして考慮されます。ファイルの比較では、この型のファイルはバイナリとして比較されます。

「比較とマージ」メニュー内で希望する比較モードを選択することにより個別ファイルの比較のための比較モードをオーバーライドすることができます。DiffDog は、バイナリファイルを自動的に検出します。

構文の色分けの使用

構文の色分け機能は以下のオプションから選択することができます：

- 構文の色分け無し
- XML に準拠する 構文の色分け
- ソースコードに準拠する構文の色分け

ファイルタイプのリストの編集

ファイルタイプ ペイン内のリストに新しいファイル型を追加するには、「新規のファイル拡張子の追加」ボタンをクリックします。リストからファイル型を削除するには、リスト内のファイル拡張子を選択し、「選択されたファイル拡張子を削除」ボタンをクリックします。

9.5 ネットワークプロキシの設定

ネットワークプロキシ セクションでは、カスタムのプロキシの設定を構成することができます。(XML 検証の目的のため) DiffDog のインターネットへの接続方法に影響します。デフォルトでは、DiffDog はシステムのプロキシの設定を使用します、ですから、多くの場合プロキシの設定を変更する必要はありません。必要な場合、代替のネットワークプロキシを下のオプションを使用して設定することができます。

メモ ネットワークプロキシ設定は、Altova MissionKit アプリケーション間で共有されています。結果、1つのアプリケーション内で設定が変更されると、自動的に他の全てのアプリケーションに影響を与えます。

ネットワーク プロキシ

システムのプロキシ設定を使用(U)

自動プロキシ構成(A)

自動検知の設定(D)

スクリプト URL(L)

手動のプロキシ構成(M)

HTTP プロキシ(H) ポート

このプロキシサーバーをすべてのプロトコルのために使用する(P)

SSL プロキシ(S) ポート

プロキシ無し(N)

プロキシのサーバーをローカルのアドレスのために使用しない(X)

現在のプロキシの設定(C)

URL のテスト(T)

IE 自動プロキシ構成が見つかりました。
 メソッド WPAD (テスト URL http://www.example.com を使用)
 PAC に対して解決された DIRECT (NO PROXY).
 プロキシを使用していません

システムプロキシの設定の使用

システムプロキシ設定を介して構成可能な インターネット エクスプローラー (IE) 設定を使用します。netsh.exe winhttp を介して構成される設定が必要とされます。

自動プロキシの構成

以下のオプションを使用することができます:

- **自動検知の設定:** DHCP または DNS を使用して WPAD スクリプト (`http://wpad.LOCALDOMAIN/wpad.dat`) を検索し、プロキシセットアップのためにこのスクリプトを使用します。
- **スクリプト URL:** プロキシセットアップのために使用されるプロキシ自動構成 (.pac) スクリプトに対する HTTP URL を指定します。
- **再ロード:** 現在の自動プロキシ構成をリセットして再ロードします。このアクションには Windows 8 または以降が必要とされ、30 秒程の時間が必要です。

手動のプロキシの構成

ホスト名とポートを対応する製品のプロキシのために手動で指定します。サポートされるスキームはホスト名に含まれている場合があります (例: `http://hostname`)。プロキシスキームをサポートする場合、対応するプロトコルと同じである必要はありません。

以下のオプションを使用することができます:

- このプロキシサーバーをすべてのプロトコールのために使用する 全てのプロトコールのためにHTTP プロキシのホスト名とポートを使用します。
- プロキシ無し: セミコロン(;) により区別されているプロキシを使用しないホスト名、ドメイン名、または ホストのためのIP アドレスのリスト。IP アドレスは切り捨てられず、IPv6 アドレスは角かっこで囲まれる必要があります(例: [2606:2800:220:1:248:1893:25c8:1946])。ドメイン名は、ドットと共に開始される必要があります(例: .example.com)。
- プロキシのサーバーをローカルのアドレスのために使用しない! チェックされている場合、プロキシ無しリストのために<local>を追加します。このオプションが選択されている場合、次の場合、プロキシは使用されません (i) 127.0.0.1、(ii) [::1]、(iii) (.) ドット文字を含んでいないホスト名すべて。。

現在のプロキシの設定

プロキシの検知の詳細なログを提供します。URL のテストフィールドの右の「更新」ボタンを使用して更新することができます(例、URL のテスト を変更する場合、または、プロキシの設定が変更された場合)。

- URL のテスト: A test URL のテストを使用して、どのプロキシが特定のURL ために使用されているかを確認することができます。URL を使用して、I/O はされません。プロキシの自動構成が選択されている場合、このフィールドは空にしておく必要があります(システムプロキシの設定の使用、または、自動プロキシの構成 を使用して)。

10 ユーザーレファレンス

ユーザーレファレンス セクションには、すべてのDiffDog メニューコマンドの詳細な説明が含まれます。このユーザーマニュアルは可能な限り包括的に作成されています。ユーザーレファレンスにより説明されていない質問がある場合は、Altova Web サイトのよくある質問、またはディスカッションフォーラムを参照してください。質問に対する十分な答えが得られない場合は、Altova Web サイト上のサポートセンターにお問い合わせください。

[ファイル](#)と[編集](#)メニュー、Windows コマンドのすべての標準、およびDiffDog-関連したコマンドは全てサポートされます。

10.1 ツールバーアイコン

ツールバー内のアイコンは、異なるコマドのためのショートカットです。ショートカットの多数は、メニューコマドとして使用することができます。「カスタマイズ」ダイアログ(「ツール|カスタマイズ」)のツールバータブを使用してツールバー内のアイコンのグループの表示をオフ/オンに切り替えることができます。GUIの中では、ツールバーのペダルをドラッグして希望する場所に移動することができます。

使用することのできるツールバーは下で説明されています。コマドの説明のためのレファレンスセクション内の対応するチャプターを参照してください。

標準アイコンのグループは、[ファイル](#)、[編集](#)と[XML](#)メニューに発生するファイルコマドと共通の編集コマドのためのショートカットです。



比較モードアイコンのグループにより、ファイルとディレクトリのための比較モードを選択することができます。コマドのこのグループは、[「比較とマージ」](#)メニュー内で使用することができます。



「比較とマージ」アイコンのグループにより比較を開始、ファイル間の差分を移動、差分をマージ、アプリケーションと比較オプションを設定することができます。これらのコマドの全ては、[「比較とマージ」](#)メニューと[「ツール」](#)メニュー内で使用することができます。



ディレクトリコンテンツアイコンのグループによりディレクトリの比較ウィンドウの表示を構成することができます。[「比較とマージ」](#)メニューに含まれているディレクトリの同期コマドを除き、これらのコマドをメニューコマドとして使用することはできません。(次を参照してください! セクション「ディレクトリの比較」内のビューの構成と「ディレクトリ比較の実行」チャプター)。これらのコマドはアクティブなディレクトリの比較のみに適用することができます。



アイコンのグリッドグループはファイルの比較ウィンドウ内の[グリッドビュー](#)で有効化することができます。これらのコマドの大部分は、グリッドビューメニュー内で使用することができます。グリッドグループコマドを使用して、XMLドキュメントのグリッドビューを変更し、構成の編集を変更することができます。非-XMLまたは非-整形形式のドキュメントのためにグリッドビューを使用することはできません。表示するドキュメントのグリッドビューのためにドキュメントは、XMLドキュメントで、整形形式である必要があります。



次のアイコンは、グリッドビューメニューには含まれていません。

 選択された全ての項目を展開する: グリッドビューでこのコマンドは、グリッドビューで1つまたは複数の選択されたノードを展開します。

 選択された全ての項目を折りたたむ: グリッドビューでこのコマンドは、選択されたノードを折りたたみます。

 選択された全ての項目を完全に展開する: グリッドビューでこのコマンドは、全ての選択されたノードと子孫ノードを展開します。

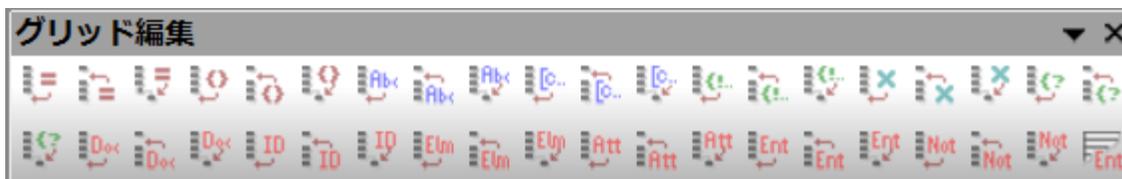
 選択されていない項目を折りたたむ: グリッドビューでこのコマンドは、全ての選択されたノードと子孫ノードを折りたたみます。

 最適な幅: グリッドビューでこのコマンドは、列を最適な幅に設定します。

テキスト アイコンのグループにより[テキストビュー](#)、の表示とナビゲーション機能を構成することができます。これらのコマンドの一部は、選択されたファイルすなわち、カーソルが置かれているファイルのみに対して使用することができます。他のコマンドは全ての開かれているファイル および、以前に開かれたファイルに適用されます。これらのコマンドの全ては、[テキストビュー](#)メニューコマンドとして使用することができます。



「グリッド編集」グループ内のアイコンは[グリッドビュー](#)内での編集のために使用されます。これらのコマンドは、[グリッドビューメニュー](#)セクションで詳しく説明されています。ツールバーは、デフォルトで無効化されている点に注意してください。表示の確認のために「ツール | カスタマイズ」ダイアログボックスのツールバータブ内の対応するチェックボックスを有効化する必要があります。



10.2 ファイルメニュー

ファイルメニューには、Windows ソフトウェア製品の大多数で共有することのできる、ファイルを操作するために関連したコマンドが含まれています。



標準の [開く](#)、[保存](#)、[印刷](#)、[印刷セトアップ](#)、と [終了](#) コマンドに加え、DiffDog には多種のアプリケーションに特定のコマンドが搭載されています。2つのペインのそれぞれには (ファイルの比較するための) ペイン内のファイルディレクトリを開き更新し、そのペイン内に保存するための特定のアイコンが各ペインの上に配置されています。

10.2.1 ファイルの比較

「ファイルの比較」 コマンドにより、ファイルの比較のために、2つの空のペインを持つ新しい空のウィンドウが開かれます。2つの比較するファイルは、比較ウィンドウのペイン内で開かれる必要があります。次を参照してください: [ファイルの比較の実行](#)。

10.2.2 ディレクトリの比較

「ディレクトリの比較」 コマンドはディレクトリ比較のために [新しい空のウィンドウを開きます](#)。比較される2つのディレクトリは、各ペイン内で個別に [開かれる](#) 必要があります。

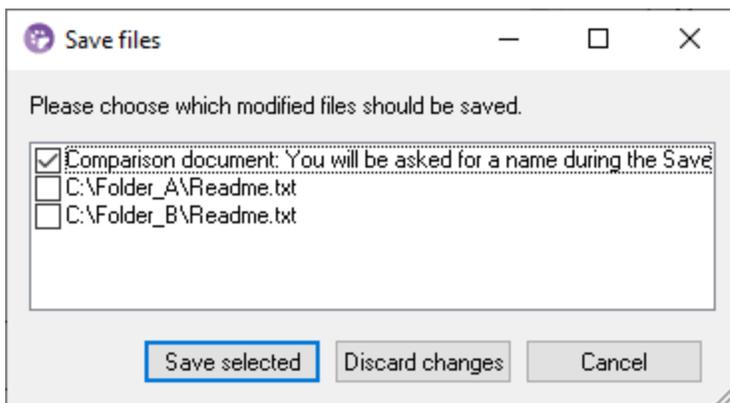
10.2.3 開く...

「開く」 (Ctrl+O) コマンドにより選択済みのファイルまたはディレクトリを持つファイル比較ウィンドウまたはディレクトリ比較ウィンドウを開くことができます。ダイアログボックスのレイアウトは、モードグループボックス内の [ファイルの比較](#) または [ディレクトリの比較](#) の選択により異なることにご注意ください。

ダイアログボックスのレイアウトは、モードグループボックス内の「ファイルの比較」または「ディレクトリの比較」の選択により異なることにご注意してください。

10.2.4 閉じる

閉じる コマンドはアクティブな ウィンドウを閉じます。ファイルの比較のどちらかのドキュメントに保存されていない変更が含まれており、ドキュメントを閉じると、「ファイルの保存」ダイアログボックスが表示されます。ファイルに保存されていない変更が含まれる場合、ファイルの比較内の両方のファイルが表示されます。ファイルに保存されていない変更が含まれている場合、チェックされます。



10.2.5 全て閉じる

「全て閉じる」コマンドは、開かれているすべての比較ウィンドウを閉じます。ファイルの比較内のドキュメントは、保存されていない変更を含んでおり、「ファイルの保存」ダイアログボックスは、ファイルの比較のために表示されます。ディレクトリ比較はプロンプト無しに閉じられます。[\(スクリーンショットを参照 上を参照\)](#)

1つ以上のファイルの比較が保存されていない変更を含むドキュメントを持つ場合、「ファイルの保存」ダイアログボックスは、ウィンドウが閉じられる前に、各ファイルの比較ウィンドウのために表示されます。

10.2.6 保存

ファイルの比較のために使用することができる「保存」 (Ctrl+S) コマンドです。「ファイルの保存」ダイアログボックスがポップアップされます。(スクリーンショットを参照 上を参照)。両方のファイルはダイアログ内で表示されます。ファイルが保存されていない変更が含まれる場合、ファイルはチェックマークと共にリストされます。

メモ ファイルの比較ウィンドウ内の個別のペインの「保存」 アイコンをクリックすると、プロンプト無しにそのペイン内のドキュメントが保存されます。「名前を付けて保存」 アイコンにより、そのペイン内でドキュメントを異なるファイル名で保存することができます。

10.2.7 名前を付けて保存

「名前を付けて保存」コマンドは、アクティブなファイルとして保存するファイルの名前と場所を入力することのできる、Windows「名前を付けて保存」ダイアログボックスをポップアップします。

10.2.8 差分のエクスポート...

「差分のエクスポート...」コマンドにより[ファイルに差分をエクスポート](#) することができます。このメニューオプションは、ファイルとディレクトリ両方の比較のために使用することができます。

10.2.9 印刷...

「印刷...」 (Ctrl+P) コマンドは、印刷ジョブの詳細を入力する、Windows「印刷」ダイアログボックスをポップアップします。このコマンドは、アクティブなドキュメントを印刷します。すなわち、コマンドが呼び出された時、カーソルが置かれているドキュメントが印刷されます。

メモ [テキストビュー](#) と [グリッドビュー](#) からアクティブなドキュメントを印刷することができます。出力は、選択されたビューの印刷です。

10.2.10 印刷プレビュー

「印刷プレビュー」 コマンドは、アクティブなドキュメントがどのように印刷されるかを表示します。

10.2.11 印刷設定...

「印刷設定」コマンドは、印刷ジョブと他のプリンタープロパティのための印刷設定を変更することのできる Windows 印刷セットアップダイアログをポップアップします。設定には、ページの向き、用紙のサイズ、用紙のノーズなどが含まれます。印刷セットアップダイアログを終了した後、「印刷」コマンドを使用して、ドキュメントを印刷する必要があります。

10.2.12 終了

このコマンドは、DiffDog アプリケーションを終了します。1つまたは複数のファイルの比較ウィンドウのドキュメント内に保存されていない変更が含まれる場合、DiffDog は、各ファイルの比較のために保存されていない変更を含む、「ファイルの保存」ダイアログボックスをポップアップします。プロンプトに対応すると、DiffDog は、閉じられます。

10.3 編集メニュー

DiffDog 内では、ファイルの比較ウィンドウ内で表示されるドキュメントを編集します。ドキュメントは、ドキュメントを直接入力、およびまたは「編集」メニュー内のキーボードショートカット またはコマンドを使用してドキュメントを編集します。

	元に戻す(U)	Ctrl+Z
	やり直し(R)	Ctrl+Y
	切り取り(T)	Ctrl+X
	コピー(C)	Ctrl+C
	貼り付け(P)	Ctrl+V
	削除(D)	Delete
	すべて選択(A)	Ctrl+A
	検索(F)...	Ctrl+F
	次を検索(N)	F3
	置換(E)...	Ctrl+H

「編集」メニュー内のコマンドは、[元に戻す](#)、[切り取り](#)、[コピー](#)、[貼り付け](#)などの一般的な編集機能および、パワフルな [検索](#) と [置換](#) 機能を含みます。これらのコマンドは、このセクションのサブセクションで詳しく説明されています。

編集コマンドはドキュメント固有であり、デレトリ比較 がアクティブな場合、「編集」メニューコマンドを使用することはできません。

10.3.1 元に戻す

「元に戻す」 (**Alt+Backspace, Ctrl+Z**) コマンドにより、各ドキュメントのために個別に以前に行われたアクションを制限無く元に戻すことができます。ドキュメント内の前のアクションを元に戻すには、ドキュメント内にカーソルを置き「元に戻す」コマンドを選択します。複数の開かれているファイルの比較内のドキュメント間を切り替えることができます。各ドキュメント内では、元に戻すは、最後に行われたアクションの箇所から継続されます。

元に戻すと [やり直し](#) コマンドを使用する場合、以下の点に注意してください！

- 「元に戻す」と「やり直し」コマンドは、制限無くマージされた差分を元に戻し、やり直すことができます。
- 変更されたドキュメント内にカーソルを置くことが重要です。例えば、差分を左側のペインから右側のペインにマージすると、このアクションのための「元に戻す」は、右側のペイン内にカーソルが置かれている場合のみ使用することができます（これは、このペインに変更されたドキュメントが含まれているためです）。
- テキストビューからグリッドビュー、または、グリッドビューからテキストビューに切り替えられると、元に戻すとやり直し履歴は失われます。
- 「編集」メニューおよび「元に戻す」と「やり直し」コマンドは、デレトリ比較 ウィンドウ内で使用することができます。

10.3.2 やり直し

「やり直し」  (**Ctrl+Y**) コマンドは、前の [元に戻す](#) コマンドを元に戻します。元に戻すコマンドが実行された数、やり直しを行うことができます。「元に戻す」コマンド、「やり直し」コマンドなどはドキュメント固有であり、ドキュメント間を切り替えることができます。

「編集」メニューとこのコマンドは、ですから、デレトリ比較 ウィンドウを使用できないことにご注意してください。

10.3.3 切り取り

「切り取り」  (**Shift+Delete, Ctrl+X**) コマンドは、選択されたテキストをコピーしてクリップボードに貼り付け、現在の場所から削除します。

「編集」メニューとこのコマンドは、ですから、デレトリ比較 ウィンドウを使用できないことにご注意してください。

10.3.4 コピー

コピー  (**Ctrl+C**) コマンドは、選択されたテキストをクリップボードにコピーします。DiffDog 内でデータを重複し、他のアプリケーションにデータを移動します。

「編集」メニューとこのコマンドは、ですから、デレトリ比較 ウィンドウを使用できないことにご注意してください。

10.3.5 貼り付け

「貼り付け」  (**Ctrl+V**) コマンドは、DiffDog 内でアクティブなドキュメントの現在のカーソルの位置にクリップのコンテンツを挿入します。クリップボードからの貼り付けをサポートするアプリケーション内のドキュメントにクリップボードからのテキストを貼り付けることもできます。

「編集」メニューとこのコマンドは、ですから、デレトリ比較 ウィンドウを使用できないことにご注意してください。

10.3.6 削除

「削除」  (**Del**) コマンドにより、ドキュメント内のセグメントを削除することができます。

「編集」メニューとこのコマンドは、ですから、デレクトリ比較 ウィンドウを使用できないことにご注意してください。

10.3.7 検索

「検索」  (**Ctrl+F**) コマンドは、検索する文字列を指定し、検索のための他の設定を指定する、[検索](#) ダイアログボックスをポップアップします。

「編集」メニューとこのコマンドは、ですから、デレクトリ比較 ウィンドウを使用できないことにご注意してください。

10.3.8 次を検索

「次を検索」  (**F3**) コマンドは、リクエストされたテキストの次の発生を検索する [検索...](#) コマンドを繰り返します。このコマンドをクリックすると、「検索」ダイアログボックスが開かれていると、検索文字列の次の発生に移動する前に、検索ダイアログボックスを閉じます。

「編集」メニューとこのコマンドは、ですから、デレクトリ比較 ウィンドウを使用できないことにご注意してください。

10.3.9 置換

「置換」  (**Ctrl+H**) コマンドにより、テキスト文字列を他のテキスト文字列と検索し置き換えることができます。[検索...](#) コマンドと同じオプションを搭載しています。各アイテム個別に置き換える、または、「全て置換」ボタンを使用して、グローバルな検索と置換えを行います。

「編集」メニューとこのコマンドは、ですから、デレクトリ比較 ウィンドウを使用できないことにご注意してください。

10.4 表示メニュー

「表示」メニューには、次のコマンドが含まれています:

- [テキストビュー](#)
- [グリッドビュー](#)
- [ツールバー](#)
- [ステータスバー](#)
- [同時スクロール](#)
- [行/文字に移動](#)

10.4.1 テキストビュー

「テキストビュー」コマンドはウィンドウではなくファイルの比較ウィンドウで使用することができます。グリッドビューのアクティブなファイル比較ウィンドウの両方のファイルを切り替えます。Note that 両方のファイルは常に同じビューで表示されていることにご注意してください。ビューを切り替えるには、ペインのテキストビュータブを使用することができます。タブは各ペインの下に配置されています。

10.4.2 グリッドビュー

「グリッドビュー」コマンドはウィンドウではなくファイルの比較ウィンドウで使用することができます。グリッドビューのアクティブなファイル比較ウィンドウの両方のファイルを切り替えます。両方のファイルは常に同じビューで表示されていることにご注意してください。ビューを切り替えるには、ペインのグリッドビュータブを使用することができます。タブは各ペインの下に配置されています。

10.4.3 ツールバー

「ツールバー」メニューアイテムは対応するアプリケーションツールバーを表示または非表示するサブメニューを含むメニューアイテムを含んでいます。

ツールバーの設定は、現在の比較モードにより効果が異なります。例えば、ツールバー設定がファイル比較ウィンドウが開かれた状態で設定されると、設定は現在開かれているウィンドウと今後開かれるウィンドウに適用されます。メニューコマンド「ツール | ツールバーとウィンドウを元の状態に戻す」を実行して、全てのツールバーを元の状態に戻すことができます。

「カスタマイズ」サブメニューアイテムは、「ツール | [カスタマイズ...](#)」コマンドのためのショートカットです。

10.4.4 ステータスバー

DiffDog アプリケーションウィンドウの下にあるステータスバーは、次のアプリケーションレベルの情報を表示します:

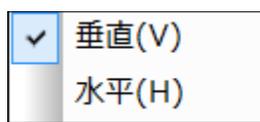
- コマンドまたはアイコンにマウスカーソルがポイントされると、メニューコマンドとツールバーアイコンアクションの説明は表示されます。この情報は、ステータスバーの左側に表示されます。
- ドキュメント内のカーソルの位置は、行番号は、文字数で表示されます。(ステータスバーの右側)
- Caps Lock、Num Lock と Scroll Lock キーのステータス(ステータスバーの右側)
- DiffDog の 64 ビットバージョンを使用している場合、アプリケーション名の後にサフィックス(x64) と共に表示されます。ステータスバー内に 32 ビットバージョンのためのサフィックスは存在しません。

両方のファイルの比較とデレトリ比較 ウィンドウ内のステータスバー コマンドを使用してステータスバーをオン/オフに切り替えることができます。

メモ ここで説明されているアプリケーションステータスバーを、比較の情報を含む比較ウィンドウの下にあるファイルの比較とデレトリ比較 ステータスバー 特別してください。比較ウィンドウステータスバーについては、[DiffDog インターフェイス](#) セクション内で説明されています。

10.4.5 同時スクロール

同時スクロールコマンドは、サブメニューを開きます。水平と垂直方向のスクロールのために個別にこのオプションを設定することができます。



同時スクロールは、ファイルの比較ウィンドウ内で使用することができます。ドキュメントがペインのサイズより先水平または垂直方向に大きい場合、ペインの下と右に表示される水平と垂直 スクロールバーを使用することができます。同時スクロールが有効化されると、2つのドキュメントの対応するセクションを同時にスクロールすることができます。

(スクロールバーを移動して、スクロール矢印、または マウスホイールを使用して) 1つのドキュメントをスクロールする場合、同時スクロールがオフに切り替えられると、他のペイン内のドキュメントも(左右 または 上下に) スクロールされ、ドキュメントの対応する部分が表示されます。

(2つのドキュメント内のセクションの対応する箇所は、比較が実行されてから決定されるため) ファイルの比較が実行された後のみ同時スクロールを使用できることに注意してください。

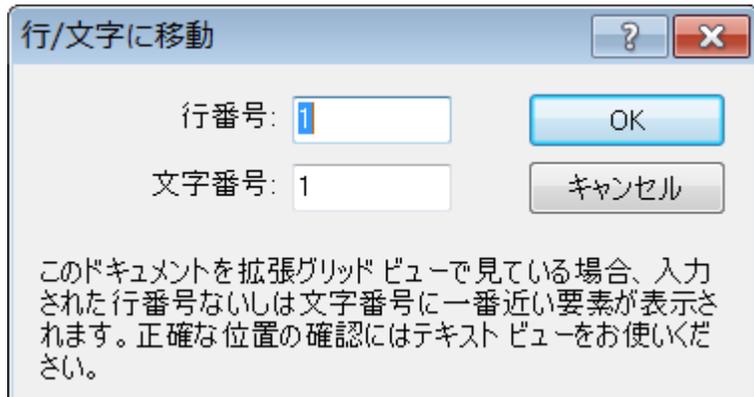
同時スクロールのための設定は、アプリケーション全体に対して適用され、全ての開かれているファイルの比較ウィンドウと以前に開かれたファイルの比較ウィンドウに対して直ぐに効果が表示されます。

10.4.6 行/文字に移動



Ctrl+G

「行/文字に移動」機能は、ファイルの比較ウィンドウ内のみで使用することができます。アクティブなドキュメント内で特定の場所にラインと文字の座標を使用して移動することができます。コマンドは、行/文字に移動 ダイアログをポップアップします (下のスクリーンショット)。

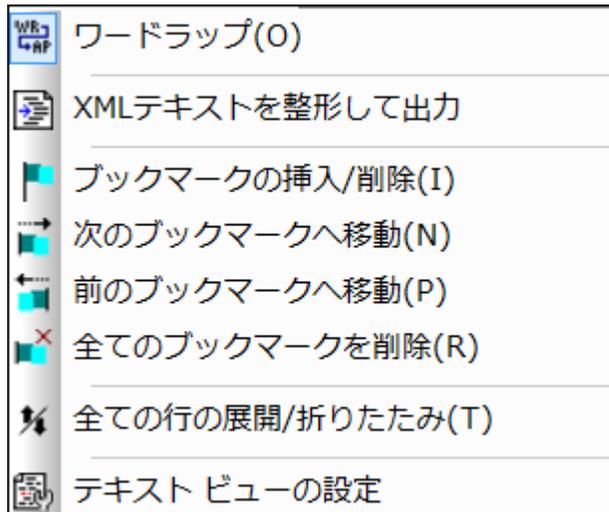


対応するテキストボックス内に必要とされるラインと文字数を入力し、「OK」をクリックします。これによりカーソルを指定された場所に移動します。

メモ グリッドビューでは「行/文字に移動」機能は、入力されたラインまたは文字数に最も近いグリッドセルをハイライトします。

10.5 テキストビューメニュー

「テキストビュー」メニューには、ファイルの比較ウィンドウ内のドキュメントのテキストビュー表示に適用することができるコマンドが含まれています。ドキュメントの表示をカスタム化することができます。



10.5.1 ワードラップ

「ワードラップ」 コマンドは、[テキストビュー](#)内のワードラップを有効化、または無効化します。

10.5.2 XML テキストを整形して出力

「XML テキストを整形して出力」 コマンドは、ドキュメントに構造された表示を与えるために、テキストビュー内のアクティブな XML ドキュメントを整形します。各子ノードは、4つのスペース文字により親からオフセットされます。

メモ 「XML テキストを整形して出力」コマンドは、オンとオフ切り替えるコマンドではありません。コマンドが実行されると、整形された書式を「XML テキストを整形して出力」コマンドをもう一度クリックしても、元に戻すことできません。整形された書式を元に戻すには、[元に戻す](#) (Ctrl+Z) または Alt+Backspace) コマンドを使用する必要があります。

10.5.3 ブックマークの挿入/削除

「ブックマークの挿入/削除」  コマンドは、[テキストビュー](#) のみで使用することができます。現在のカーソルの位置にブックマークを挿入、または、以前ブックマークされたライン内にカーソルがある場合、ブックマークを削除します。

ブックマークされたラインを2つの方法で表示されます: ブックマーク余白が有効化されている場合、水色の楕円がブックマーク余白内のテキストの左横に表示されます。ブックマーク余白が有効化されていない場合、カーソルが含まれるライン全体が灰色でハイライトされます。

ヒント: 「カスタマイズ」ダイアログボックスの[キーボードタブ](#)の内のこのコマンドのためにキーボードショートカットを割り当てることができます。

10.5.4 次のブックマークへ移動

「次のブックマークへ移動」  コマンドは、[テキストビュー](#) のみで使用することができます。次にブックマークされた行の最初にテキストカーソルを移動します。

ヒント: 「カスタマイズ」ダイアログボックスの[キーボードタブ](#)の内のこのコマンドのためにキーボードショートカットを割り当てることができます。

10.5.5 前のブックマークへ移動

「前のブックマークへ移動」  コマンドは、[テキストビュー](#) のみで使用することができます。前ブックマークされた行の最初にテキストカーソルを移動します。

ヒント: 「カスタマイズ」ダイアログボックスの[キーボードタブ](#)の内のこのコマンドのためにキーボードショートカットを割り当てることができます。

10.5.6 全てのブックマークを削除

「全てのブックマークを削除」  コマンドは、[テキストビュー](#) のみで使用することができます。アクティブなドキュメント内で現在定義されている全てのブックマークを削除します。[元に戻す](#) コマンドは、このコマンドの効果を元に戻さぬ点に注意してください。

ヒント: 「カスタマイズ」ダイアログボックスの[キーボードタブ](#)の内のこのコマンドのためにキーボードショートカットを割り当てることができます。

10.5.7 全ての行の展開/折りたたみ

「全ての行の展開/折りたたみ」 コマンドにより、アクティブなドキュメントの次の状態を切り替えることができます: (i) 全てのノードが展開された状態、(ii) 全てのノードが折りたたまれた状態。

10.5.8 テキストビュー 設定

「テキストビュー設定」コマンドは、行番号、ブックマーク、とソースの折りたたみ余白の表示のための[設定の定義](#)、タブサイズの指定、テキストビュー内で使用することができる視覚補助の定義などを行う、「テキストビュー設定」ダイアログボックスを開きます。

10.6 グリッドビューメニュー

「グリッドビュー」メニューには、ファイルの比較ウィンドウの[グリッドビュー](#)内のドキュメントと作業するためのコマンドが含まれています。



これらのコマンドはテキストビューで使用することはできません。

10.6.1 挿入

「挿入」コマンドにカーソルをポイントすると、挿入することのできるアイテムを含むサブメニューがポップアップされます。「挿入」コマンドのサブメニューアイテムは、[グリッドビュー](#)内でのみ有効化されています。現在の選択範囲に挿入できないアイテムは灰色表示されています。

	属性(A)	Ctrl+Shift+I
	要素(E)	Ctrl+Shift+E
	テキスト(T)	Ctrl+Shift+T
	CDATA(C)	Ctrl+Shift+D
	コメント(O)	Ctrl+Shift+M
	XML(X)	
	処理命令(P)	
	DOCTYPE(D)	
	ExternalID(I)	
	ELEMENT(M)	
	ATTLIST(L)	
	ENTITY(Y)	
	NOTATION(N)	

「挿入」サブメニューのコマンドは、以下を挿入するために使用することができます: (i) XMLドキュメント内のXML宣言とノード型(属性、要素、テキスト、CDATA、コメント、処理命令)、(ii)XMLドキュメント内のDOCTYPE宣言と外部DTD宣言、(iii)DTDドキュメントとXMLドキュメントの内部DTD宣言内のDTD宣言(ELEMENT、ATTLIST、ENTITYとNOTATION)

10.6.1.1 挿入 | 属性

「挿入 | 属性」 コマンドは、[グリッドビュー](#)のみで使用することができます。選択されたアイテムの前に新しい属性を挿入します。グリッドビュー内の現在のアイテムの数行前に挿入された属性が表示される場合がありますが、これは、グリッドビュー内の親要素のすぐ後に属性が続き、その親要素の全ての子要素を先行するからです。

10.6.1.2 挿入 | 要素

「挿入 | 要素」 コマンドは、[グリッドビュー](#)のみで使用することができます。選択されたアイテムの前に新しい要素を挿入します。現在の選択範囲が属性の場合、属性親要素の最初の子要素の前に新規の要素が挿入されます。

10.6.1.3 挿入 | テキスト

「挿入 | テキスト」  コマンドは、[グリッドビュー](#)のみで使用することができます。選択されたアイテムの前に新しいテキスト行を挿入します。現在の選択範囲が属性の場合、テキスト行が、属性のあと、属性親要素の最初の子要素の前に挿入されます。

10.6.1.4 挿入 | CData

「挿入 | CData」  コマンドは、[グリッドビュー](#)のみで使用することができます。選択されたアイテムの前に新しいCDATA ブロックを挿入します。現在の選択範囲が属性の場合、CDATA ブロックが、属性のあと、属性親要素の最初の子要素の前に挿入されます。

10.6.1.5 挿入 | コメント



「挿入 | コメント」  コマンドは、[グリッドビュー](#)のみで使用することができます。選択されたアイテムの前に新しいコメントを挿入します。現在の選択範囲が属性の場合、コメント行が、属性のあと、属性親要素の最初の子要素の前に挿入されます。

10.6.1.6 挿入 | XML

「挿入 | XML」  コマンドは、[グリッドビュー](#)のみで使用することができます。選択されたアイテムの前のXML 宣言のために、行を挿入します。XML 宣言の子属性とこの属性の値を挿入する必要があります。XML 宣言は、以下のようになります：

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

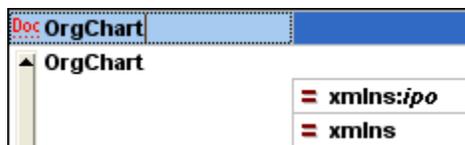
メモ XML ドキュメントは、ファイルの一番上にXML 宣言を一つのみ含むことができるため、このコマンドは、一番上の行が選択されており、XML 宣言が既存ではない場合に使用されるべきです。

10.6.1.7 挿入 | 処理命令

「挿入 | 処理命令」  コマンドは、[グリッドビュー](#)のみで使用することができます。これは、新しい処理命令 (PI) を選択されたアイテムの前に挿入します。現在の選択範囲が属性の場合、属性の後と属性親要素の最初の子要素の前にPI が挿入されます。

10.6.1.8 挿入 | DOCTYPE

トップレベルのノードが選択されると、「挿入 | DOCTYPE」  コマンドは、XML ファイルの[グリッドビュー](#)内で使用できるようになります。宣言をXMLドキュメントの一番上に挿入します。DOCTYPE の名前を入力する必要があり、この名前がドキュメント要素と同じ名前である必要があります。



DOCTYPE の名前を入力した後、内部 DTD サブセット内で使用する宣言を入力することができます。

メモ DOCTYPE 宣言はXML 宣言とXMLドキュメント要素の間このように表示されます。

10.6.1.9 挿入 | ExternalID

XML ファイル内の[DOCTYPE](#) 宣言の子アイテムが[グリッドビュー](#)内で選択されると、このコマンドは「挿入 | ExternalID」  コマンドを使用することができます。このコマンドは、外部識別子 (PUBLIC または SYSTEM) のためにグリッドビュー行を挿入します。識別子の型とその値を入力する必要があります。



グリッドビューのスクリーンショットに対応するテキストビューは以下のようになります:

```
<!DOCTYPE OrgChart SYSTEM "orgchart.dtd" [
  <!ELEMENT name (#PCDATA)>
]>
```

メモ DOCTYPE アイテムが選択されている場合、ExternalID のための行を [子として追加](#)、または DOCTYPE アイテムの子アイテムが選択されている場合、[追加](#) することができます。例えば、上のサンプル内の要素宣言 name などが挙げられます。

外部リソースの参照

XML ファイル内の DOCTYPE 宣言は、DTD 宣言を含む外部リソースへの参照を含むことができます。このリソースは、パブリックまたはシステム識別子を介して参照されることができます。例:

```
<!DOCTYPE doc_element_name PUBLIC "publicID" "systemID">
<!DOCTYPE doc_element_name SYSTEM "systemID">
```

システム識別子は、外部リソースを識別する URI です。パブリック識別子は、場所に依存せず、外部リソースの場所を逆参照するために使用されます。例えば、<%SPY-GEN%> インストール内の MainCatalog.xml と呼ばれるカタログファイル内にリストされている DTD と XML スキーマのための URI です。XML ドキュメント内のパブリック識別子は、MainCatalog.xml 内でリストされる DTD を逆参照するために使用されます。

10.6.1.10 挿入 | ELEMENT

「挿入 | ELEMENT」 コマンドは、DTD ドキュメントのための [グリッドビュー](#)、または XML ドキュメントの [DOCTYPE](#) 宣言内のアイテムが選択される場合のみ使用することができます。要素宣言が選択された宣言の前に挿入されます。

10.6.1.11 挿入 | ATTLIST

「挿入 | ATTLIST」 コマンドは、DTD ドキュメントのための [グリッドビュー](#)、または XML ドキュメントの [DOCTYPE](#) 宣言内のアイテムが選択される場合のみ使用することができます。ATTLIST 宣言が選択された宣言の前に挿入されます。

DOCTYPE OrgChart					
ID SYSTEM "orgchart.dtd"					
attribute list					
	Att Name	Att Type	Att Values	Att Presence	Att Default
1					
Elm name	#PCDATA				

10.6.1.12 挿入 | ENTITY

「挿入 | ENTITY」 コマンドは、DTD ドキュメントのための[グリッドビュー](#)、または XML ドキュメントの [DOCTYPE](#) 宣言内のアイテムが選択される場合のみ使用することができます。ENTITY 宣言が選択された宣言の前に挿入されます。

10.6.1.13 挿入 | NOTATION

「挿入 | NOTATION」 コマンドは、DTD ドキュメントのための[グリッドビュー](#)、または XML ドキュメントの [DOCTYPE](#) 宣言内のアイテムが選択される場合のみ使用することができます。NOTATION 宣言が選択された宣言の前に挿入されます。

10.6.2 追加

「追加」コマンドにカーソルをポイントすると、与えられた選択のために挿入することができるアイテムを含むサブメニューがポップアップされます。「追加」コマンドのサブメニューアイテムは、[グリッドビュー](#)内でのみ有効化されています。現在の選択範囲に挿入できないアイテムは灰色表示されています。

	属性(A)	Ctrl+I
	要素(E)	Ctrl+E
	テキスト(T)	Ctrl+T
	CDATA(C)	Ctrl+D
	コメント(O)	Ctrl+M
	XML(X)	
	処理命令(P)	
	DOCTYPE(D)	
	ExternalID(I)	
	ELEMENT(M)	
	ATTLIST(L)	
	ENTITY(Y)	
	NOTATION(N)	

「追加」サブメニューのコマンドは以下を追加するために使用することができます: (i) XMLドキュメント内のXML宣言とノード型(属性、要素、テキスト、CDATA、コメント、処理命令)、(ii)XMLドキュメント内のDOCTYPE宣言と外部DTD宣言、(iii)DTDドキュメントとXMLドキュメントの内部DTD宣言内のDTD宣言(ELEMENT、ATTLIST、ENTITYとNOTATION)

10.6.2.1 追加 | 属性

「追加 | 属性」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができ、新しい属性を追加します。

10.6.2.2 追加 | 要素

「追加 | 要素」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。選択された要素の最後の兄弟要素の後に要素ノードを追加します。属性ノードが選択されている場合、要素ノードは、選択された属性の親要素の最後の子の後に追加されます。

10.6.2.3 追加 | テキスト

「追加 | テキスト」 コマンドは、[グリッドビュー](#) 内のみで使用することができます。選択された要素の最後の兄弟要素の後に、テキストブロックを追加します。属性ノードが選択されている場合、テキストブロックは、選択された属性の親要素の最後の子の後に追加されます。

10.6.2.4 追加 | CData

「追加 | CData」 コマンドは、[グリッドビュー](#) 内のみで使用することができます。選択された属性ノードの最後の兄弟の後に、CDATA ノードを追加します。属性ノードが選択されている場合、CDATA セグメントは、選択された属性の親要素の最後の子の後に追加されます。

10.6.2.5 追加 | コメント

「追加 | コメント」 コマンドは、[グリッドビュー](#) 内のみで使用することができます。選択された属性ノードの最後の兄弟の後に、コメントノードを追加します。属性ノードが選択されている場合、コメントノードは、選択された属性の親要素の最後の子の後に追加されます。

10.6.2.6 追加 | XML

「追加 | XML」 コマンドは、[グリッドビュー](#) 内のみで使用することができます。ドキュメント内の最初のアイテムとして XML 宣言の行を挿入します。XML 宣言の子属性とこの属性の値を挿入する必要があります。XML 宣言は、以下のようになります:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

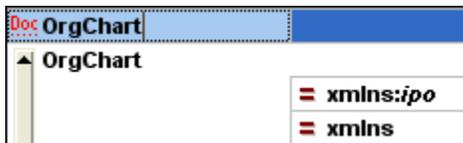
メモ XMLドキュメントは、ファイルの一番上にXML宣言を一つのみ含むことができるため、このコマンドは、一番上の行が選択されており、XML宣言が既存でない場合に使用されるべきです。

10.6.2.7 追加 | 処理命令

「追加 | 処理命令」 コマンドは、[グリッドビュー](#) 内のみで使用することができます。選択された属性ノードの最後の兄弟の後に、処理命令ノードを追加します。属性ノードが選択されている場合、処理命令ノードは、選択された属性の親要素の最後の子の後に追加されます。

10.6.2.8 追加 | DOCTYPE

トップレベルのノードが選択されると、「追加 | DOCTYPE」 コマンドは XML ファイルの[グリッドビュー](#) 内で使用することができます。DOCTYPE 宣言を XML ドキュメントの一番上に挿入します。DOCTYPE の名前を入力する必要があり、この名前がドキュメント要素と同じ名前である必要があります。



DOCTYPE の名前を入力した後、内部 DTD サブセット内で使用する宣言を入力することができます。

メモ DOCTYPE 宣言は XML 宣言と XML ドキュメント要素の間このみに表示されます。

10.6.2.9 追加 | ExternalID

XML ファイル内の DOCTYPE 宣言の子アイテムが[グリッドビュー](#) 内で選択されると、このコマンドは「追加 | ExternalID」 コマンドを使用することができます。[外部識別子](#) (PUBLIC または SYSTEM) の名前をグリッドビュー行を挿入します。識別子の型とその値を入力する必要があります。



グリッドビューのスクリーンショットに対応するテキストビューは以下のようになります:

```
<!DOCTYPE OrgChart SYSTEM "orgchart.dtd" [
  <!ELEMENT name (#PCDATA)>
]>
```

メモ DOCTYPE アイテムが選択されている場合、AExternalID のための行を [子として追加](#)、または DOCTYPE アイテムの子アイテムが選択されている場合、[挿入](#) することができます。例えば、上のサンプル内の要素宣言 name などが挙げられます。

10.6.2.10 追加 | ELEMENT

「追加 | ELEMENT」  コマンドは、DTD ドキュメントのための [グリッドビュー](#) 内、または XML ドキュメントの [DOCTYPE](#) 宣言内のアイテムが選択された場合に使用することができます。要素宣言を宣言に付加します。

10.6.2.11 追加 | ATTLIST

「追加 | ATTLIST」  コマンドは、DTD ドキュメントのための [グリッドビュー](#) 内、または XML ドキュメントの [DOCTYPE](#) 宣言内のアイテムが選択された場合に使用することができます。ATTLIST 宣言を宣言に付加します。

10.6.2.12 追加 | ENTITY

「追加 | ENTITY」  コマンドは、DTD ドキュメントのための [グリッドビュー](#) 内、または XML ドキュメントの [DOCTYPE](#) 宣言内のアイテムが選択された場合に使用することができます。ENTITY 宣言を宣言に付加します。

10.6.2.13 追加 | NOTATION

「追加 | NOTATION」  コマンドは、DTD ドキュメントのための [グリッドビュー](#) 内、または XML ドキュメントの [DOCTYPE](#) 宣言内のアイテムが選択された場合に使用することができます。NOTATION 宣言を宣言に付加します。

10.6.3 子の追加

「子の追加」コマンドにカーソルをポイントすると、与えられた選択のために挿入することができるアイテムを含むサブメニューがポップアップされます。「子の追加」コマンドのサブメニューアイテムは、[グリッドビュー](#) 内でのみ有効化されています。現在の選択範囲に挿入できないアイテムは灰色表示されています。

	属性(A)	Ctrl+Alt+I
	要素(E)	Ctrl+Alt+E
	テキスト(T)	Ctrl+Alt+T
	CDATA(C)	Ctrl+Alt+D
	コメント(O)	Ctrl+Alt+M
	XML(X)	
	処理命令(P)	
	DOCTYPE(D)	
	ExternalID(I)	
	ELEMENT(M)	
	ATTLIST(L)	
	ENTITY(Y)	
	NOTATION(N)	

「子の追加」サブメニューのコマンドは、以下のために子ノードを追加するために使用することができます: (i) XMLドキュメント内のXML宣言とノード型 ([属性](#)、[要素](#)、[テキスト](#)、[CDATA](#)、[コメント](#)、[処理命令](#))、(ii)XMLドキュメント内のDOCTYPE宣言と外部DTD宣言、(iii)DTDドキュメントとXMLドキュメントの内部DTD宣言内のDTD宣言 ([ELEMENT](#)、[ATTLIST](#)、[ENTITY](#)と[NOTATION](#))

10.6.3.1 子の追加 | 属性

「子の追加 | 属性」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内、または、要素ノードが選択された場合のみで使用することができます。新しい属性を選択された要素ノードの子として挿入します。

10.6.3.2 子の追加 | 要素

「子の追加 | 要素」 コマンドは、[グリッドビュー](#)のみで使用することができます。新しい要素を選択されたノードの子として挿入します。

10.6.3.3 子の追加 | テキスト

「子の追加 | テキスト」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。新しいテキストのエレメントを選択されたアイテムの子として挿入します。

10.6.3.4 子の追加 | CData

「子の追加 | CData」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。新しいCDATA セクションを選択されたアイテムの子として挿入します。

10.6.3.5 子の追加 | コメント

「子の追加 | コメント」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。新しいコメントノードを選択されたアイテムの子として挿入します。

10.6.3.6 子の追加 | XML

「子の追加 | XML」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内、または、ファイルが空の場合、のみで使用することができます。XML 宣言のために行を挿入します。XML 宣言の子属性とこの属性の値を挿入する必要があります。XML 宣言は、以下のようになります:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

10.6.3.7 子の追加 | 処理命令

「子の追加 | 処理命令」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。新しい処理命令 (PI) を選択されたアイテムの子として挿入します。

10.6.3.8 子の追加 | DOCTYPE

「子の追加 | DOCTYPE」 コマンドは、空のドキュメントの[グリッドビュー](#)内で使用できます。XML ドキュメント内に DOCTYPE 宣言を挿入します。DOCTYPE 宣言は、内部 DTD サブセットを宣言するために使用することができます。

10.6.3.9 子の追加 | ExternalID

「子の追加 | ExternalID」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内の XML ファイル内で [DOCTYPE](#) 宣言が選択されていると使用することができます。このコマンドは、[外部識別子](#) (PUBLIC または SYSTEM) のために [グリッドビュー](#) 行を挿入します。識別子の型とその値を入力する必要があります。

DOCTYPE OrgChart	
ID SYSTEM	"orgchart.dtd"
Elem name	#PCDATA

グリッドビューのスクリーンショットに対応するテキストビューは以下のようになります:

```
<!DOCTYPE OrgChart SYSTEM "orgchart.dtd" [
  <ELEMENT name (#PCDATA)>
]>
```

メモ DOCTYPE アイテムが選択されている場合、ExternalID のための行を子として追加することができます。または、DOCTYPE アイテムの子アイテムが選択されている場合、[挿入](#) または [追加](#) することができます。例えば、上のサンプル内の要素宣言 name などが挙げられます。

10.6.3.10 子の追加 | ELEMENT

「子の追加 | ELEMENT」 コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。または、XML ドキュメントの [DOCTYPE](#) 宣言が選択された場合に使用することができます。NOTATION 宣言を宣言に追加します。要素宣言を宣言に追加します。

10.6.3.11 子の追加 | ATTLIST

「子の追加 | ATTLIST」  コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。または、XMLドキュメントの[DOCTYPE](#)宣言が選択された場合に使用することができます。NOTATION 宣言を宣言に追加します。ATTLIST 宣言を宣言に追加します。

10.6.3.12 子の追加 | ENTITY

「子の追加 | ENTITY」  コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。または、XMLドキュメントの[DOCTYPE](#)宣言が選択された場合に使用することができます。NOTATION 宣言を宣言に追加します。ENTITY 宣言を宣言に追加します。

10.6.3.13 子の追加 | NOTATION

「子の追加 | NOTATION」  コマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。または、XMLドキュメントの[DOCTYPE](#)宣言が選択された場合に使用することができます。NOTATION 宣言を宣言に追加します。

10.6.4 変換

「変換」コマンドは、[グリッドビュー](#)内の選択されたアイテムを異なるアイテムの型に変換します。このオペレーションは、グリッドビュー内の子ノードを含まない個別のアイテムに対してのみ使用することができます。カーソルを「変換」コマンドに置くと、選択されたアイテムに変換することができるアイテムを含むサブメニューがポップアップされます。

属性(A)
要素(E)
テキスト(T)
CData(C)
コメント(O)
XML(X)
処理命令(P)
DOCTYPE(D)
ExternalID(I)
ELEMENT(M)
ATTLIST(L)
ENTITY(Y)
NOTATION(N)

この操作によりデータが失われた場合、(例えば、コメントに対する属性の変換による属性名の削除など)警告ダイアログボックスが表示されま
す。

10.6.5 テーブル

「テーブル」メニューコマンドは、[グリッドビュー](#)内のみで使用することができます。選択範囲をテーブルとして編集することを可能にするコマ
ンドのサブメニューをポップアップします。

	テーブルとして表示(T)	F12
	行を挿入(I)	Shift+F12
	行を追加(A)	Ctrl+F12
	昇順に並べ替え(S)	
	降順に並べ替え(O)	

10.6.5.1 テーブルとして表示する

「テーブルとして表示する」 コマンドによりドキュメント内の要素の標準 [グリッドビュー](#) と [テーブルビュー](#) 間を切り替えることができます。

10.6.5.2 行の挿入

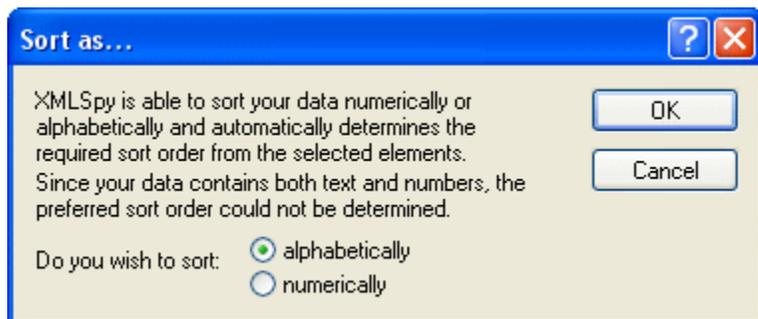
行またはセルが選択されると、「行の挿入」 コマンドが [テーブルビュー](#) 内で有効化されます。新しい行を選択された行の前に挿入します。新しい行は、テーブル要素の発生に対応します。必須の子要素が新しい要素のために作成されます。

10.6.5.3 行の追加

行またはセルが選択されると、「行の追加」 コマンドが [テーブルビュー](#) 内で有効化されます。新しい行がテーブルの最後の行の後に挿入されます。新しい行は、テーブル要素の発生に対応します。必須の子要素が新しい要素のために作成されます。

10.6.5.4 昇順で並べ替え

列またはセルが選択されると、「昇順で並べ替え」 コマンドは、[テーブルビュー](#) 内で有効化されます。選択された列のコンテンツをベースとしてテーブルを昇順に並べ替えます。DiffDog は、列内でどの種類のデータが使用されるかを自動的に決定し、必要に応じて、アルファベット、または、番号順に並べ替えます。不明な場合、使用するメソッドを並べ替えるようプロンプトされます（下のスクリーンショット）。



10.6.5.5 降順で並べ替え

列またはセルが選択されると、「降順で並べ替え」 コマンドは、[テーブルビュー](#)内で有効化されます。選択された列のコンテンツをベースとしてテーブルを降順に並べ替えます。DiffDog は、列内でどの種類のデータが使用されるかを自動的に決定し、必要に応じて、アルファベット、または、番号順に並べ替えます。不明な場合、使用するメソッドを並べ替えるようプロンプトされます（次のチャプターのスクリーンショットを参照してください！[昇順で並べ替え](#)上を参照してください）。

10.6.6 左に移動

「左に移動」 コマンドは[グリッドビュー](#)内でのみ使用することができます。このコマンドは、選択されたノードを左に1レベル移動します。子要素を親要素の兄弟に変更します。

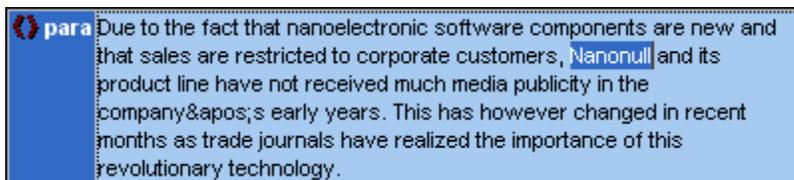
10.6.7 右に移動

「右に移動」 コマンドは[グリッドビュー](#)内でのみ使用することができます。このコマンドは、前の兄弟要素の子要素に変換し、選択されたノードを右に1レベル移動します。

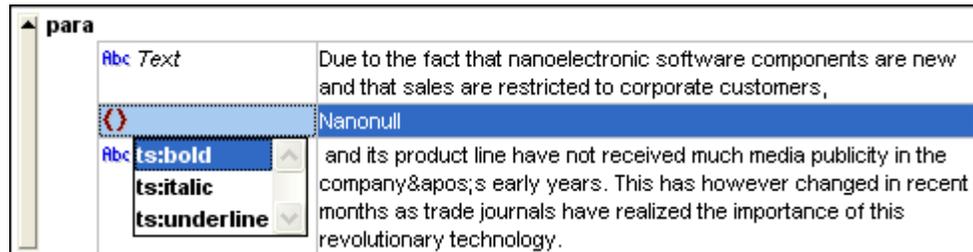
10.6.8 要素の中へ

要素の中へコマンドは[グリッドビュー](#)内でのみ使用することができます。選択されたテキストの範囲を新しい要素内に入れます。新規の要素は選択されたテキストの周りでインラインとして作成されます。スキーマまたはDTD をベースとしたドキュメントを編集する場合、テキストが囲まれる要素名のための有効な選択肢のリストが自動的に表示されます。

例えば、下のスクリーンショットでは、para 要素内のテキスト Nanonull がハイライトされています



コマンド「グリッドビュー | 要素の中へ」を選択すると、テキスト「Nanonull」は、新規に作成されたインライン要素に囲まれ、要素名のための選択肢を与えるリストが表示されます。これらの要素は、スキーマ内で para の子として定義されます。



ここでの選択は新規の要素の名前になります。または、他の要素の名前を入力することもできます。

10.7 XML メニュー

「XML」メニューには、ファイルの比較ウィンドウ内で開かれているXMLドキュメントに関連するコマンドが含まれています。

 整形形式のチェック(W)	F7
 検証(V)	F8

10.7.1 整形形式のチェック

「整形形式のチェック」 (F7) コマンドは、XML 1.0 仕様。の定義に従い、整形形式のためのアクティブドキュメントをチェックします。このコマンドは、ファイルの比較ウィンドウの[テキストビュー](#)と[グリッドビュー](#)内で使用することができます。整形形式のチェックを実行すると、メッセージボックスはチェックされた内容の結果を表示します: 結果は成功、または、失敗で示されます。

メモ このコマンドは、DiffDog オプションダイアログボックスの[ファイル型](#) タブ内のXML に準拠するとして設定されている拡張子を持つすべてのファイルのために使用することができます。

10.7.2 検証

「検証」 (F8) コマンドは、ファイルの比較ウィンドウの[テキストビュー](#)と[グリッドビュー](#)内で使用することができます。アクティブなXMLドキュメントを、DTD、XML スキーマ、または、他のスキーマに対して検証することができます。関連付けられたスキーマは、検証されるファイル内で宣言される必要がありません。ントを検証する際、メッセージボックスは検証の結果を表示します: メッセージは成功、または、失敗を示します。

メモ このコマンドは、DiffDog オプションダイアログボックスの[ファイル型](#) タブ内のXML に準拠するとして設定されている拡張子を持つすべてのファイルのために使用することができます。

10.8 比較とマージメニュー

「比較とマージ」メニューには、[ファイルとディレクトリ](#) 比較を管理するコマンドがリストされています。アクティブな比較ウィンドウにより、[比較モード](#) を設定するコマンド、比較ウィンドウ内での比較されたドキュメントの[パレット](#)、差分の[マージ](#) をこのメニュー内でも使用することができます。

比較の種類により、「比較とマージ」メニューのコンテンツは動的に変更されます。

10.8.1 ファイルの比較

[ファイルの比較](#)が実行されると、「差分とマージ」メニューには次のコマンドを使用することができます：

- [テキストの比較だけを行う](#)
- [XML として比較](#)
- [バイナリとして比較](#)
- [ファイルの拡張子設定によって比較](#)
- [比較の開始](#)
- [次の差分](#)
- [前の差分](#)
- [最後の差分](#)
- [最初の差分](#)
- [現在の差分を表示](#)
- [現在の差分にする](#)
- [左から右にコピーする](#)
- [右から左にコピーする](#)
- [比較の前にオプション設定を表示する](#)
- [比較を自動的に開始する](#)
- [編集中に比較する](#)
- [「最近比較された組み合わせ」をサポートする](#)

10.8.1.1 テキストの比較だけを行う

「[テキストの比較だけを行う](#)」 コマンドは、ファイルまたはディレクトリの比較の比較モードをテキストの比較に変換します。このコマンドは、クイック比較モードがアクティブでない限り使用することができないことご注意ください。テキストの比較モードに切り替える場合、クイック比較モードを最初に無効化する必要があります。

10.8.1.2 XML として比較

「XML として比較」  コマンドは、ファイルまたはディレクトリの比較の比較モードを XML 比較に変更します。このコマンドは、クイック比較モードがアクティブではないと使用することができないことにご注意してください。XML 比較モードに切り替える場合、クイック比較モードを最初に無効化する必要があります。

10.8.1.3 バイナリとして比較

「バイナリとして比較」  コマンドは、ファイルまたはディレクトリの比較の比較モードをバイナリの比較に変更します。このコマンドは、クイック比較モードがアクティブではないと使用することができないことにご注意してください。バイナリ比較モードに切り替える場合、クイック比較モードを最初に無効化する必要があります。

10.8.1.4 ファイルの拡張子設定によって比較

「ファイルの拡張子設定によって比較」  コマンドは、ファイルまたはディレクトリの比較の比較モードを、DiffDog オプションダイアログボックスの [ファイル型](#) タブの設定に動的に従って変更します。このコマンドは、クイック比較モードがアクティブではないと使用することができないことにご注意してください。ファイル拡張子モードモードに切り替える場合、クイック比較モードを最初に無効化する必要があります。

10.8.1.5 比較の開始

「比較の開始」  (F5) コマンドは、アクティブな比較ウィンドウのために [比較を開始](#) します。

10.8.1.6 次の差分

「次の差分」  (Alt+Down) コマンドは、[現在の差分](#) として次の差分を選択します。

10.8.1.7 前の差分

「前の差分」 (**Alt+Up**) コマンドは、[現在の差分](#)として前の差分を選択します。

10.8.1.8 最後の差分

「最後の差分」 (**Alt+End**) コマンドは、最後の差分を[現在の差分](#)として選択します。

10.8.1.9 最初の差分

「最初の差分」 (**Alt+Home**) コマンドは、最初の差分を[現在の差分](#)として選択します。

10.8.1.10 現在の差分を表示する

「現在の差分を表示する」 (**Ctrl+Enter**) コマンドは、[現在の差分](#)を表示するためにドキュメントをスクロールします。

10.8.1.11 現在の差分にする

「現在の差分にする」 (**Alt+Enter**) コマンドは、選択された差分を現在の差分にし、ナビゲートするための差分として設定します。

10.8.1.12 左から右にコピーする

「左から右にコピーする」 (**Alt+Right**) コマンドは、左側のペインから右側のペインに選択された差分のテキストをコピーします。

10.8.1.13 右から左にコピーする

「右から左にコピーする」 (Alt+Left) コマンドは、右側のペインから左側のペインに選択された差分のテキストをコピーします。

10.8.1.14 比較の前にオプション設定を表示する

「比較の前にオプションを表示する」 コマンドが比較ウィンドウのためにオンに切り替えられると、「比較オプション」ダイアログボックスがそのウィンドウ内で比較が行われる都度表示されます。[ドキュメントの編集](#) 中、DiffDog により比較が動的に設定される前は、「比較オプション」ダイアログボックスは表示されません。

10.8.1.15 比較を自動的に開始する

「比較を自動的に開始する」 コマンドがオンに切り替えられると、ファイル または ディレクトリ が選択され、比較ウィンドウが開かれると、このコマンドは自動的に比較が開始されます。このオプションがオフに切り替えられている場合、(ファイル または ディレクトリ の) 比較は、「比較とマージ | 比較の開始」をクリックして [明示的に開始](#) される必要があります。

10.8.1.16 編集集中に比較する

「編集集中に比較する」 コマンドは、ファイルの比較ウィンドウ内のドキュメントの比較をオンとオフに切り替えることができます。オンに切り替えられていると、差分が編集集中にハイライトされます。オフに切り替えられると、どちらかのドキュメント内に入力を始めると、両方のドキュメント内の差分のファイライトがオフに切り替えられます。編集後に差分をハイライトするには、「比較とマージ | 比較の開始」をクリックして [比較を実行](#) する必要があります。

10.8.1.17 「最近比較した組み合わせ」をサポートする

「最近比較された組み合わせをサポートする」 コマンドは、ファイルまたはディレクトリがペインの中で選択される都度、最近比較されたファイルとディレクトリのオンとオフオプションを切り替えます。

10.8.2 ディレクトリ比較

ディレクトリ比較のための「比較とマージ」メニューは、以下を行うためのコマンドをリストします: (i) [比較モード](#)の設定 (ii) 比較の開始 (iii) 比較されたドキュメントの[パズル](#)、ファイルの比較ウィンドウへの差分の表示、(iv) 差分の[マージ](#)、(v) [ディレクトリの同期](#)、(vi) [比較管理オプション](#)の設定。

	テキストの比較だけを行う(O)	
	XML として比較(X)	
	バイナリーとして比較(B)	
	ファイルの拡張子設定によって比較(C)	
	サイズと更新日時を比較(Z)	
	ZIP アーカイブ内のファイルを表示(F)	
	比較開始(S)	F5
	次の差分(N)	Alt+Down
	前の差分(P)	Alt+Up
	最後の差分(L)	Alt+End
	最初の差分(F)	Alt+Home
	現在の差分を表示(D)	Ctrl+Enter
	現在の差分にする(M)	Alt+Enter
	左から右へコピー(E)	Alt+Right
	右から左へコピー(I)	Alt+Left
	ディレクトリを同期化(Y)	
	選択されたディレクトリを同期化(H)	
	比較の前にオプション設定を表示(T)	
	自動的に比較開始(A)	
	編集集中に比較(W)	
	「最近比較した組み合わせ」を使う(R)	

10.8.2.1 ZIP アーカイブ形式でファイルを表示する

「ZIP アーカイブ形式でファイルを表示」 オプションは、デフォルトで無効化されています。このため、ファイル自身はディレクトリ比較内で表示されます。ファイルを展開し、コンテンツを閲覧するには、「ZIP アーカイブ形式でファイルを表示」オプションを有効化する必要があります。

10.8.2.2 サイズと更新日時を比較

「サイズと更新日時を比較」 コマンドは、ディレクトリとサブディレクトリ内のファイルをサイズと更新日時に従って比較します。このモードをオン、またはオフに切り替えることができます。オフに切り替えられると、4つの[ファイルの比較モード](#)が使用できるようになります。ファイルの比較モードの一つを選択すると、ディレクトリはテキスト、XML、または、バイナリファイルのコンテンツとして比較されます。

10.8.2.3 左から右にコピーする

「左から右にコピーする」 (**Alt+Right**) コマンドは、選択された等しくないファイルを左側のペイン(内のディレクトリ)から右側のペイン(内のディレクトリ)にコピーします。

10.8.2.4 右から左にコピーする

「右から左にコピーする」 (**Alt+Left**) コマンドは、選択された等しくないファイルを右側のペイン(内のディレクトリ)から左側のペイン(内のディレクトリ)にコピーします。

10.8.2.5 ディレクトリの同期

「ディレクトリの同期」 コマンドは、[ディレクトリの同期](#) ダイアログボックスを開き、少なくとも1つのディレクトリに存在する全ての等しくないファイルと作成します。

10.8.2.6 選択されたディレクトリの同期

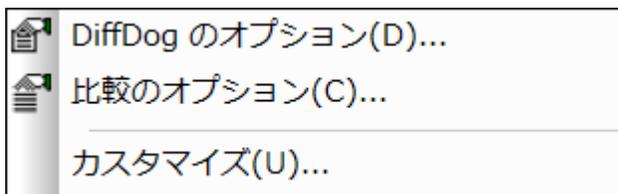
「[選択されたディレクトリの同期](#)」 コマンドは以下の条件が満たされていると使用することができます:

- 比較されたディレクトリの一つが選択されたサブディレクトリを含んでいる場合。
- 選択されたサブディレクトリは一つまたは複数の等価でないファイルを含んでいます。

[ディレクトリの同期](#) ダイアログボックスを開き、選択されたサブディレクトリ内で存在する全ての等しくないファイルを作成します。

10.9 ツールメニュー

「ツールメニュー」には[アプリケーション](#)と[比較](#) オプションを設定し、DiffDog の外観を[カスタマイズ](#)するコマンドが含まれています。



10.9.1 DiffDog オプション...

「DiffDog オプション...」 コマンドは、[アプリケーション](#)、[ファイルの比較](#)、と[ディレクトリ比較](#)、比較することのできる[ファイル型](#)を定義するためのオプションを設定することのできる DiffDog オプション ダイアログボックスを開きます。

10.9.2 比較オプション...

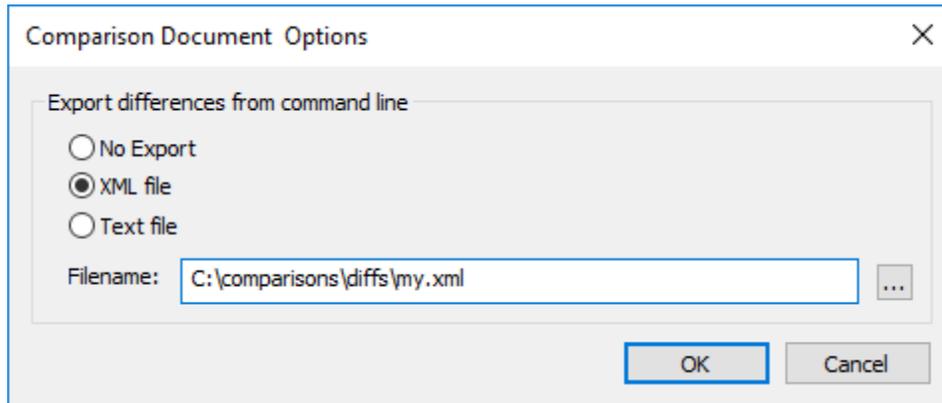
「比較オプション...」 コマンドは、[ファイルの比較](#)と[ディレクトリ比較](#)のための比較オプションを設定する個別のタブを与える「比較オプション」ダイアログボックスを開きます。

比較の前にオプション設定を表示するオプションが、「比較とマージ」メニュー内でオンに切り替えられている場合、「比較オプション」ダイアログボックスは、比較が開始される前に[自動的に表示されます](#)。

10.9.3 ドキュメントの比較オプション

このコマンドはライセンス供与されているDiffDog Server を持ち、DiffDog により作成されたファイル(.filedif と.dirdif) の比較を DiffDog Server を使用して行う場合使用することができます。[DiffDog Server を使用して比較を行う](#)を参照してください。

.filedif または.dirdif ファイルをDiffDog Server を使用して比較を行うと、XML またはテキストファイルに比較の結果を報告するかを任意でダイレクトします。下のダイアログにより出力レポートの書式とサイズを指定することができます。

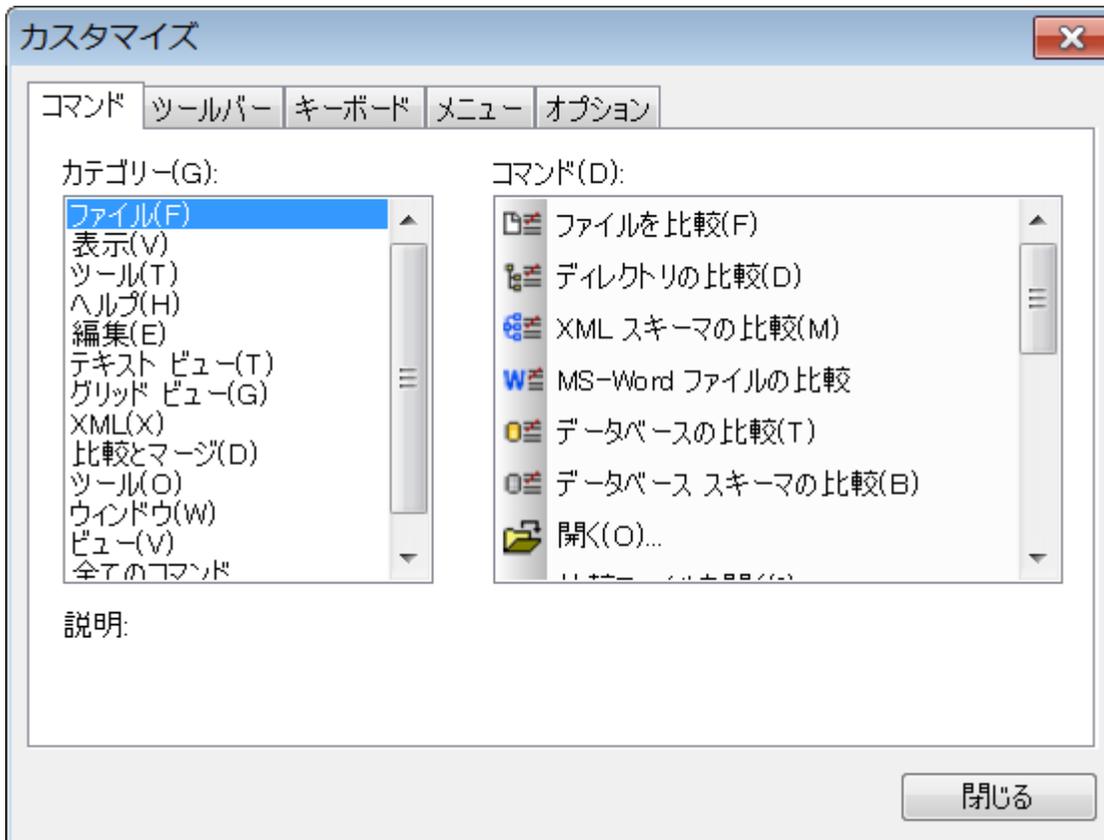


10.9.4 カスタマイズ...

「カスタマイズ...」コマンドは、個人のニーズにあわせるためにDiffDog をカスタマイズすることができます。

10.9.4.1 コマンド

「コマンド」タブによりメニューまたはツールバーをカスタマイズすることができます。



ツールバー またはメニューにコマンドを追加する:

1. メニューオプション「ツール | カスタマイズ」を選択します。
「カスタマイズ」ダイアログボックスが表示されます。
2. カテゴリリストボックス内の全てのコマンド カテゴリを選択します。
使用することのできるコマンドがコマンドリストボックスに表示されます。
3. コマンドリストボックス内のコマンドをクリックして、既存のメニューまたはツールバーにドラッグします。
I-beamがコマンドをドロップする場所にカーソルがポイントされると表示されます。
4. マウスボタンをコマンドを挿入場所でリリースします。
 - コマンドをドラッグすると、小さなアイコンがマウスポインターの先端に表示されます。ポインターの下の「x」は、現在のカーソルの位置にコマンドをドロップできないことを意味します。
 - コマンドをドロップする箇所(ツールバーまたはメニュー)にマウスがポイントされると「x」が消えます。
 - カーソルをメニューにドラッグすると、メニュー内にコマンドを挿入することができます。
 - コマンドをメニューまたはツールバーに配置することができます。自身のツールバーが作成されると、自身のコマンド/アイコンを使用してツールバーを作成することができます。

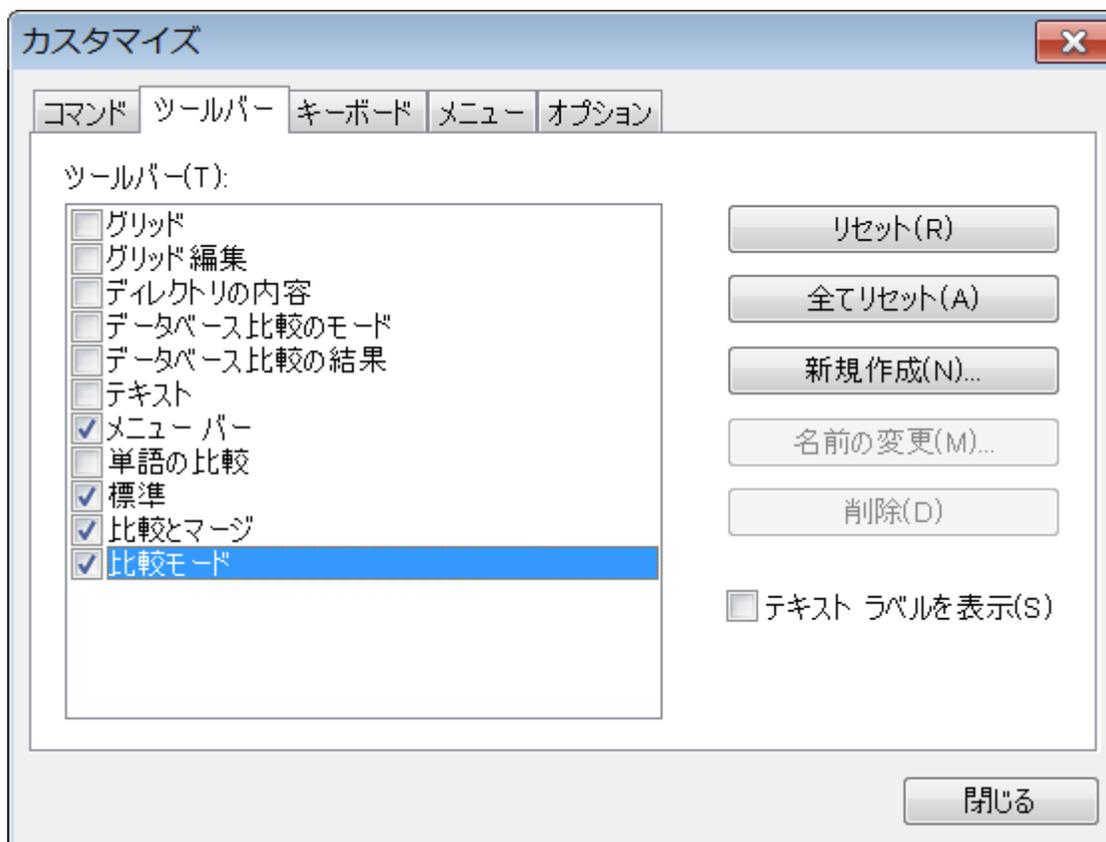
メモ コンテキストメニュー内の編集コマンドを同じメソッドを使用して使用することができます(コンテキストメニューを開くために右クリックします)。メニュータブをクリックし、コンテキストメニューをポップアップで使用するのことができる特定のコンテキストメニューを選択します。

10.9.4.2 ツールバー

ツールバータブにより、特定のツールバーを有効化、または無効化することができ、特別なツールバーを作成することができます。

DiffDog ツールバーには、最も頻繁に使用されるメニューコマンドのためのシンボルが含まれます。各シンボルには、短いヒントが表示され、マウスカーソルが直接アイテムとステータスバー上にポイントされると、詳しいコマンドの説明が表示されます。

標準の場所からツールバーをフロートウィンドウとして表示されるスクリーン上の場所ドラッグすることができます。または、メインの左端、または右端ドックすることができます。



テキストラベルの表示:

このオプションは、有効化されるとツールバーアイコンの下に説明のテキストが表示されます。各ツールバーのためにこのオプションを有効化、または無効化することができます。

ツールバーの有効化、または、無効化する:

- 特定のツールバーを有効化 (または、無効化) するためにチェックボックスをクリックします。

新しいツールバーの作成する

1. 「新規作成」ボタンをクリックし、表示されるツールバー名 ダイアログボックスにツールバーに与える名前を入力します。
2. 「カスタマイズ」ダイアログボックスの **コマンド** タブ内のツールバーコマンドをドラッグします。

メニューバーをリセットする:

1. メニューバーエントリをクリックします。
2. 「リセット」ボタンをクリックし、DiffDog がインストールされた時点の状態にメニューコマンドをリセットします。

すべてのツールバーとメニューコマンドをリセットする:

1. 「全てをリセット」ボタンをクリックして、プログラムがインストールされた状態に全てのツールバーコマンドをリセットします。すべてのツールバーとメニューがリセットされることを通知するプロンプトが表示されます。
2. 「はい」をクリックしてリセットを確認します。

ツールバー名を変更する:

- 「名前の変更」ボタンをクリックしてツールバーの名前を編集します。
このオプションは、ユーザーにより定義されたツールバーのためこのみ使用することができます。

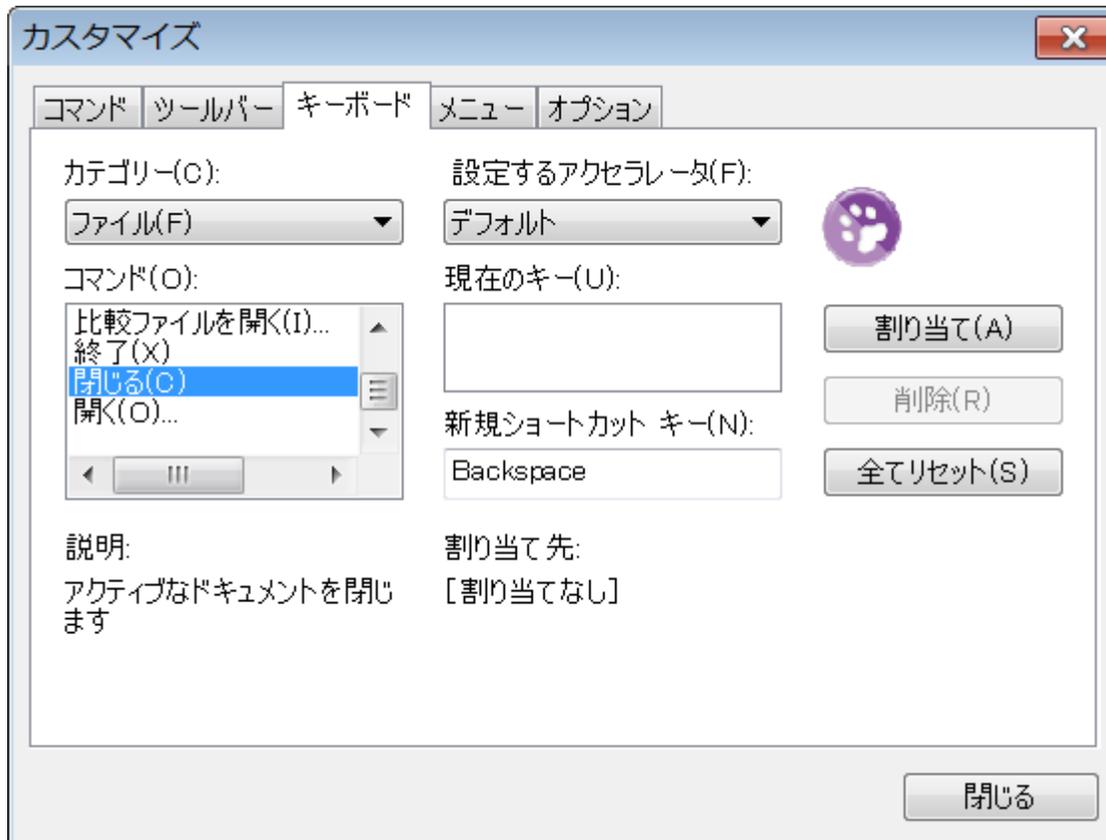
ツールバーを削除する:

1. ツールバーリストボックス内で削除するツールバーを選択します。
2. 「削除」ボタンをクリックします。
削除を確認するプロンプトが表示されます。
3. 「はい」をクリックして、削除を確認します。

このオプションは、ユーザーにより定義されたツールバーのためこのみ使用することができます。

10.9.4.3 キーボード

キーボード タブを使用すると、DiffDog コマンドのためのキーボードショートカットを定義 (または変更) することができます。



コマンドに新規ショートカットを割り当てる

1. カテゴリーリストからコマンドメニューを選択します。例えば「ファイル」など。(または全てのコマンドを選択して全てのメニューからコマンドを確認します)。
2. コマンド リストから新しいショートカットを割り当てるコマンドを選択します。
3. 新規のショートカットキー テキストボックスをクリックして、コマンドを有効化するためのショートカットキーを押します。ショートカットは、テキストボックス内に表示されます。ショートカットが前に割り当てられている場合、その関数はテキストボックスの下に表示されます。(テキストボックスをクリアするには、コントロールキー、CTRL、ALT または SHIFT の一つを押します)。
4. 「割り当て」をクリックします。ショートカットが現在のキーリストボックス内に表示されます。

メモ ロックダウンリストのためのアクセラレータの設定 内でサポートされている値はデフォルトだけです。

ショートカットを再度割り当てる、または、削除する

1. 現在のキーリスト内で削除するショートカットを選択します。
2. 「削除」をクリックします。
3. 「閉じる」をクリックして確認します。

すべてのショートカットキーをリセットする

1. プログラムがインストールされた時の状態に全てのショートカットキーをリセットするために「全てをリセット」ボタンをクリックします。すべてのツールバーとメニューがリセットされることを通知するメッセージボックスが表示されます。
2. 「はい」をクリックして、リセットを確認します。

現在割り当てられているキーボードショートカット

キー別のホットキー	
Ctrl+C	コピー
Ctrl+F	検索
Ctrl+G	ライン/文字に移動する
Ctrl+H	置き換える
Ctrl+O	開く
Ctrl+P	印刷
Ctrl+S	保存
Ctrl+V	貼り付け
Ctrl+X	切り取り
Ctrl+Z	元に戻す
F1	目次
F3	次を検索
F5	比較の開始
F7	整形形式のチェック
F8	検証
Alt+Enter	現在の差分にする
Ctrl+Enter	現在の差分を表示
Delete	削除
Shift+Delete	切り取り
Alt+Backspace	元に戻す

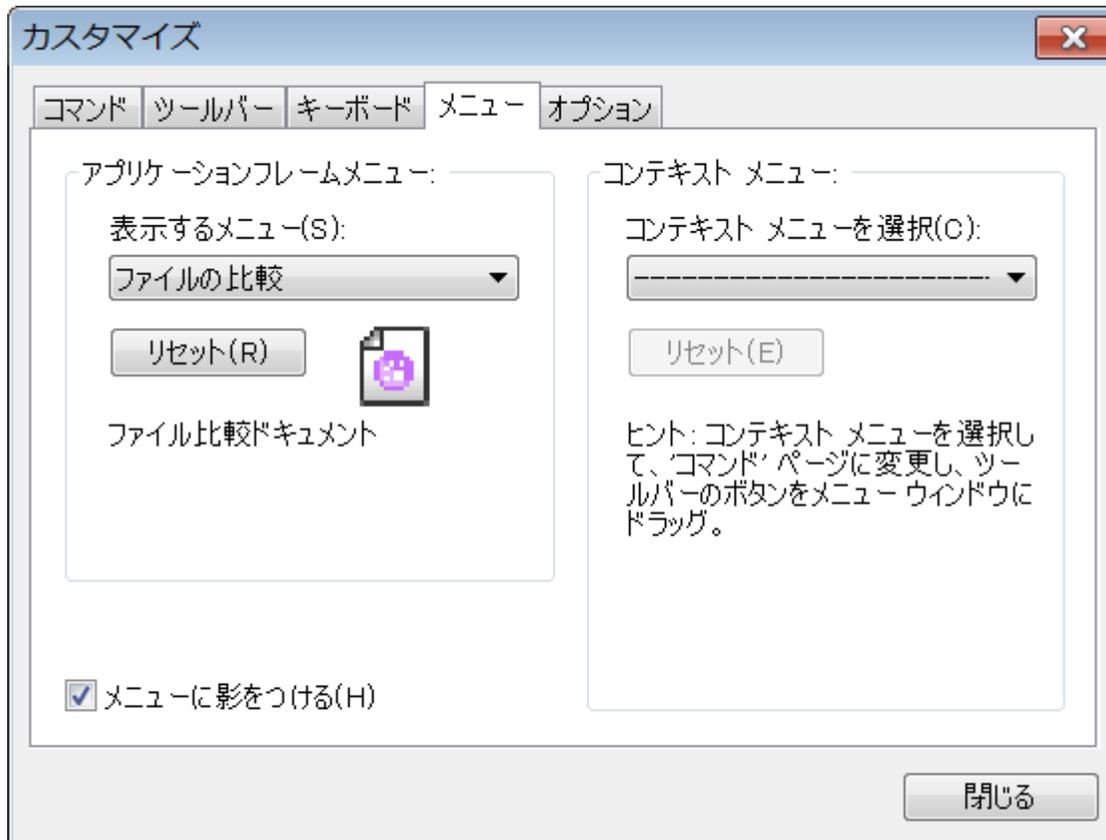
キー別のホットキー	
Ctrl+Insert	コピー
Shift+Insert	貼り付け
Alt+Down	次の差分
Alt+Up	前の差分
Alt+Home	最初の差分
Alt+End	最後の差分
Alt+Left	右から左にコピーする
Alt+Right	左から右にコピーする

機能別のホットキー		
整形形式のチェック	F7	
コピー	Ctrl+C	Ctrl+Insert
左から右にコピーする	Alt+Right	
右から左にコピーする	Alt+Left	
切り取り	Ctrl+X	Shift+Delete
削除	Delete	
現在の差分を表示	Ctrl+Enter	
検索	Ctrl+F	
次を検索	F3	
最初の差分	Alt+Home	
ライン/文字に移動する	Ctrl+G	
最後の差分	Alt+End	
現在の差分にする	Alt+Enter	
次の差分	Alt+Down	

機能別のホットキー		
開く	Ctrl+O	
貼り付け	Ctrl+V	Shift+Insert
前の差分	Alt+Up	
印刷	Ctrl+P	
置き換える	Ctrl+H	
保存	Ctrl+S	
比較の開始	F5	
目次	F1	
元に戻す	Ctrl+Z	Alt+Backspace
検証	F8	

10.9.4.4 メニュー

メニュータブによりメインメニューバーとコンテキストメニューをカスタマイズすることができます。



デフォルトのファイルの比較、とディレクトリの比較メニューバーをカスタマイズすることができます。

DiffDog 内で比較ウィンドウが開かれていない場合、デフォルトのメニューが表示されています。

ファイル(E) 表示(V) ツール(I) ヘルプ(H)

少なくとも1つのファイルの比較ウィンドウが開かれ、アクティブな場合、ファイルの比較メニューがメニューバーに表示されます。

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) テキストビュー(I) グリッドビュー(G) XML(X) 比較とマージ(D) ツール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

少なくとも1つのディレクトリの比較ウィンドウが開かれ、アクティブな場合ディレクトリの比較メニューがメニューバーに表示されます。

影を付けるメニュー

デフォルトでチェックされている、メニューに影をつけない場合、メニュー「影を付ける」チェックボックスを無効化することができます。

メニューをカスタマイズする:

1. コボボックスのためメニューを表示するからカスタマイズするメニューバーを選択します。
2. [コマンド](#) タブをクリックし、コマンドを選択するメニューバーをドラッグします。

メニューからコマンドを削除する:

1. メニューオプション「ツール | カスタマイズ」を選択して、「カスタマイズ」ダイアログボックスを開きます。
2. 以下を行います:
 - コマンド **お** はコマンドを示すアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから、削除 オプションを選択します。
 - メニューからコマンドをドラッグし、マウスポインタの下にチェックマークアイコンが表示されるとドロップします。

メニューバーをリセットする:

1. コボボックスのためのメニューを表示内で、デフォルトのファイルの比較、**お** はディレクトリの比較 **エ** を選択します。
2. メニュー名の下に「リセット」ボタンをクリックします。
メニューバーのリセットを確認するプロンプトが表示されます。
3. 「はい」をクリックします。

コンテキストメニュー (メニューを右クリックして) をカスタマイズする:

1. コンテキストメニューの選択 コボボックスからコンテキストメニューを選択します。
選択されたコンテキストメニューが表示されます。
2. [コマンド](#) タブをクリックし、コマンドをコンテキストメニューにドラッグします。

コンテキストメニューからコマンドを削除する:

1. メニューオプション「ツール | カスタマイズ」を選択して、「カスタマイズ」ダイアログボックスを開きます。
2. 以下を行います:
 - コマンド **お** はアイコンを示すコマンドを右クリックし、コンテキストメニューから「削除」オプションを選択します。
 - コンテキストメニューから、コマンドをドラッグし、マウスポインタの下にチェックマークのアイコンが表示されるとすぐにドロップします。

コンテキストメニューをリセットする:

1. コボボックスからコンテキストメニューを選択します。
2. コンテキストメニュー名の下に「リセット」ボタンをクリックします。
コンテキストメニューのリセットを確認するプロンプトが表示されます。

コンテキストメニューウィンドウを閉じる:

以下を行います:

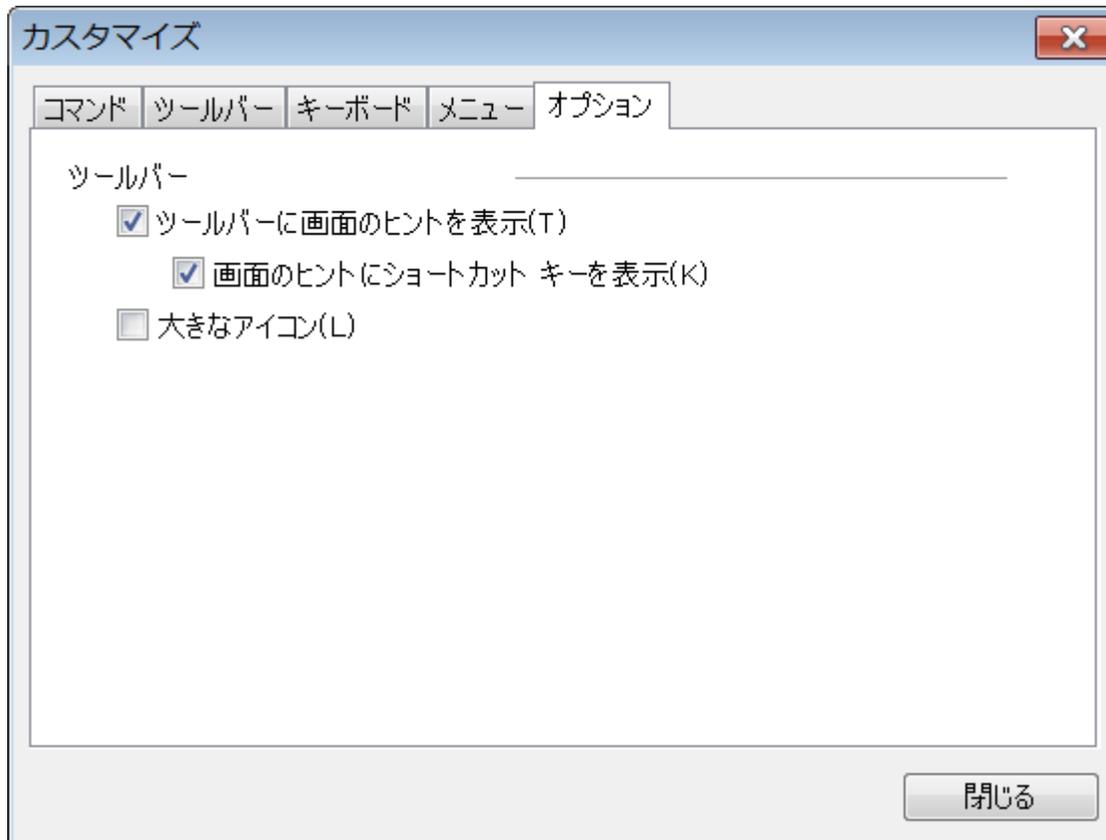
- タイトルバーの右上の閉じるアイコンをクリックします。
- 「カスタマイズ」ダイアログボックスの「閉じる」ボタンをクリックします。

メニューの外観を変更する:

- 必要な場合、影を付けるメニューチェックボックスを無効化します。

10.9.4.5 オプション

オプションタブにより環境設定全体を設定することができます。



ツールバー

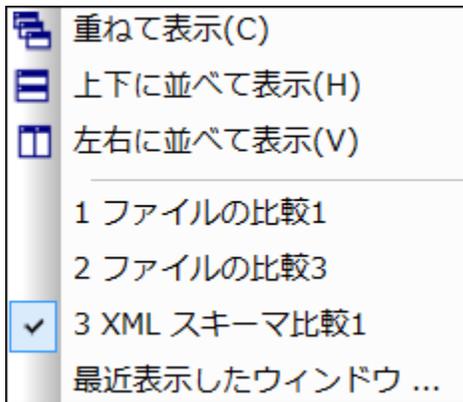
アクティブな場合、ツールバー上でスクリーンヒントを表示する チェックボックスは、アイコンバー内のアイコンにマウスポインターがポイントされるとポップアップを表示します。ポップアップには、アイコン機能の短い説明が含まれており、割り当てられている場合は、関連付けられたキーボードショートカットが表示されます。

スクリーンヒント内のショートカットキーの表示 チェックボックスにより、ヒント内にショートカットを表示するかどうかを決定することができます。

アクティブな場合、大きいアイコン チェックボックスは、標準サイズアイコンとアイコンの大きいバージョン間を切り替えます。

10.10 ウィンドウメニュー

「ウィンドウ」メニューは開かれているウィンドウの表示を整理するコマンドを提供します。



開かれているウィンドウを [重ねて表示](#)、[左右に並べて表示](#) または [上下に並べて表示](#) することができます。または、縮小化するドキュメントアイコンを整理することができます。また、メニューから直接 [開かれているドキュメントのウィンドウ](#) に切り替えることができます。

10.10.1 重ねて表示

「重ねて表示」  コマンドは、全ての開かれているドキュメントウィンドウを重ねてすなわち、互いに重ねられて表示するように並べ替えます。

10.10.2 左右に並べて表示

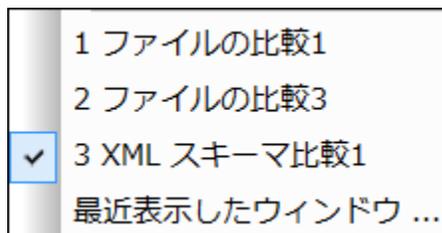
「左右に並べて表示」  コマンドは、開かれている全てのドキュメントウィンドウを、左右に並べて全て同時に表示します。

10.10.3 上下に並べて表示

同時に「上下に並べて表示」  コマンドは、開かれている全てのドキュメントウィンドウを、上下に並べて全て同時に表示します。

10.10.4 現在開かれているウィンドウのリスト

現在開かれているすべてのウィンドウをリストし、ウィンドウ間を切り替えることができます。

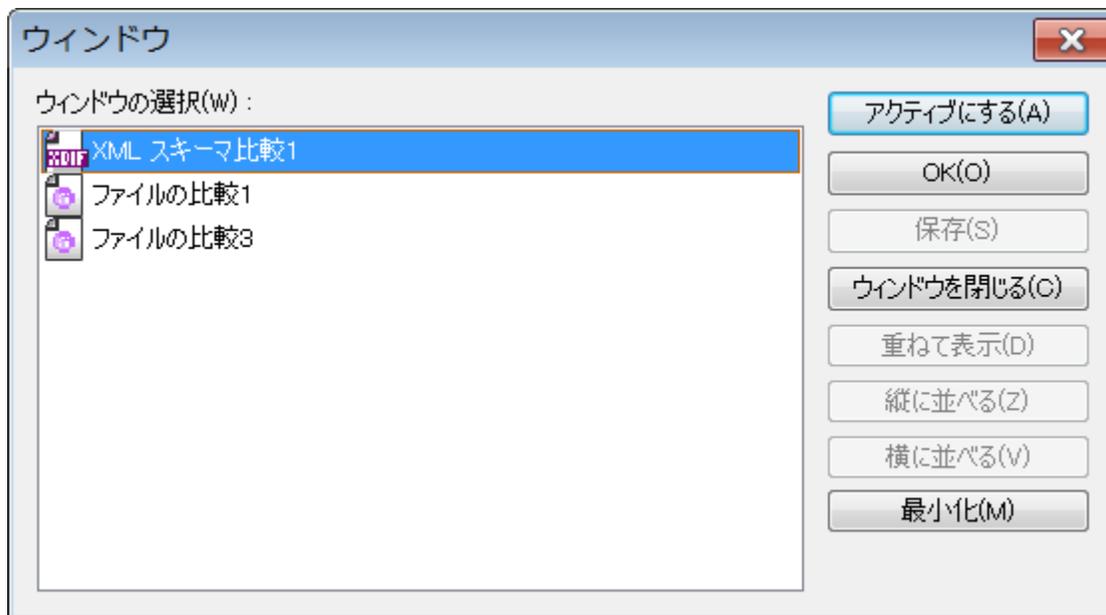


ウィンドウが開かれた順番にリストは順序付けられています。アクティブなウィンドウは、チェックマークで示されています。

Ctrl+Tab または **Ctrl+F6** キーボードショートカットを使用して、開かれているウィンドウを循環します。

10.10.5 ウィンドウ

開かれたウィンドウのリストの下に「ウィンドウ」コマンドが表示されています。このエントリをクリックすると、開かれている全てのウィンドウのリストを表示し、選択されたウィンドウに適用することのできるコマンドを与える「ウィンドウ」ダイアログボックスが開かれます。ウィンドウ名前をクリックすることにより選択できます。



1つ以上のウィンドウが開かれている場合、「重ねて表示」と「分割」オプションを使用することができます。単一のウィンドウが選択されている場合、「アクティブにする」オプションが有効化されています。

メモ ウィンドウダイアログボックスを終了するには、「OK」をクリックします。ダイアログボックス内の「ウィンドウを閉じる」ボタンをクリックしないでください。「ウィンドウを閉じる」ボタンは「ウィンドウ」ダイアログボックス内で現在選択されているウィンドウを閉じます。

10.11 ヘルプメニュー

▼ 目次

☐ 説明

ヘルプウィンドウの左側のペインに目次を表示した、DiffDog の画面上のヘルプマニュアルを開きます。目次はヘルプドキュメント全体の概要を表示しています。目次のエントリをクリックしてトピックに移動することができます。

▼ インデックス

☐ 説明

ヘルプウィンドウの左側のペインにキーワード インデックスを表示したDiffDog の画面上のヘルプマニュアルを開きます。目次はヘルプドキュメント全体の概要を表示しています。インデックスはキーワードをリストし、キーワードをダブルクリックすることでトピックへ移動することができます。キーワードが 1 つ以上のトピックにリンクされている場合は、トピックのリストが表示されます。

▼ 検索

☐ 説明

ヘルプウィンドウの左側のペインに検索ダイアログを表示したDiffDog の画面上のヘルプマニュアルを開きます。単語を検索するには、入力フィールドに検索対象を入力して、(i) 「Return」を押す、または(ii) 「トピックのリスト」をクリックします。を押します。ヘルプシステムは、ヘルプドキュメント全体で全文検索を行いヒットしたリストを返します。アイテムを表示するためにはアイテムをダブルクリックします。

▼ ソフトウェアのライセンス認証

☐ 説明

Altova 製品ソフトウェアをダウンロードすると、無料評価キーまたは購入されたライセンスキーを使用して、製品にライセンスを供与、または、ライセンスの認証を行うことができます。

- **無料 評価ライセンス**初めて製品のダウンロードとインストールを行うと、ソフトウェアライセンス認証ダイアログが表示されます。ダイアログでは無料 評価 ライセンスをリクエストすることができます。ユーザーの名前、所属会社名、そして電子メールアドレスを表示されるダイアログに入力し、リクエストをクリックします。ライセンスファイルが入力された電子メールアドレスに送信されます。この手順は数分を要します。ライセンスファイルを適切な場所に保存します。リクエストをクリックすると、リクエストダイアログの下に入力フィールドが表示されます。このフィールドはライセンスファイルのパスを取ります。ライセンスファイルを参照、またはライセンスファイルへのパスを入力し「OK」をクリックします。(「ソフトウェアのライセンス認証ダイアログ」内で「新規のライセンスをアップロードする」をクリックしてライセンスファイルへのパスを入力するダイアログにアクセスすることができます。)ソフトウェアは30日の間アンロックされます。
- **永続的なライセンスキー**:ソフトウェアライセンス認証ダイアログには永続的なライセンスキーを購入するためのボタンが含まれています。このボタンをクリックすると、製品の永続的なライセンスキーを購入することのできるAltova オンラインショップに移動することができます。受信する電子メールはライセンスデータを含むライセンスファイルの書式で送信されています。3つの種類の永続的なライセンスが存在します: インストール済み、同時使用ユーザー、名前を持つユーザー。
インストール済みのライセンス は単一のコンピュータ上のソフトウェアのロックを解除します。インストール済みのライセンスをN 台のコンピュータのために購入するとN 台までのコンピュータ上でソフトウェアを使用することができます。**同時使用ユーザーライセンス** はN 人の同時使用ユーザーにN 人のユーザーが同時にソフトウェアを使用することを許可します。(10N 台のコンピュータにソフトウェアをインストールすることができます)。名前を持つユーザーライセンスは特定のユーザーがN 台の異なるコンピュータ上でソフトウェアを使用することを許可します。ソフトウェアのライセンスを認証するには「新規のライセンスをアップロードする」をクリックして表示されるダイアログ内でライセンスファイルを参照、またはライセンスファイルのパスを入力し「OK」をクリックします。

メモ 複数のユーザーライセンスのために各ユーザーは各自の名前を入力するようにプロンプトされます。

ライセンスの電子メールと Altova 製品へのライセンス供与(有効化)の異なる方法

Altova から受信するライセンス電子メールにはライセンスファイルが添付ファイルとして含まれています。ライセンスファイルは .altova_licenses ファイル拡張子を有しています。

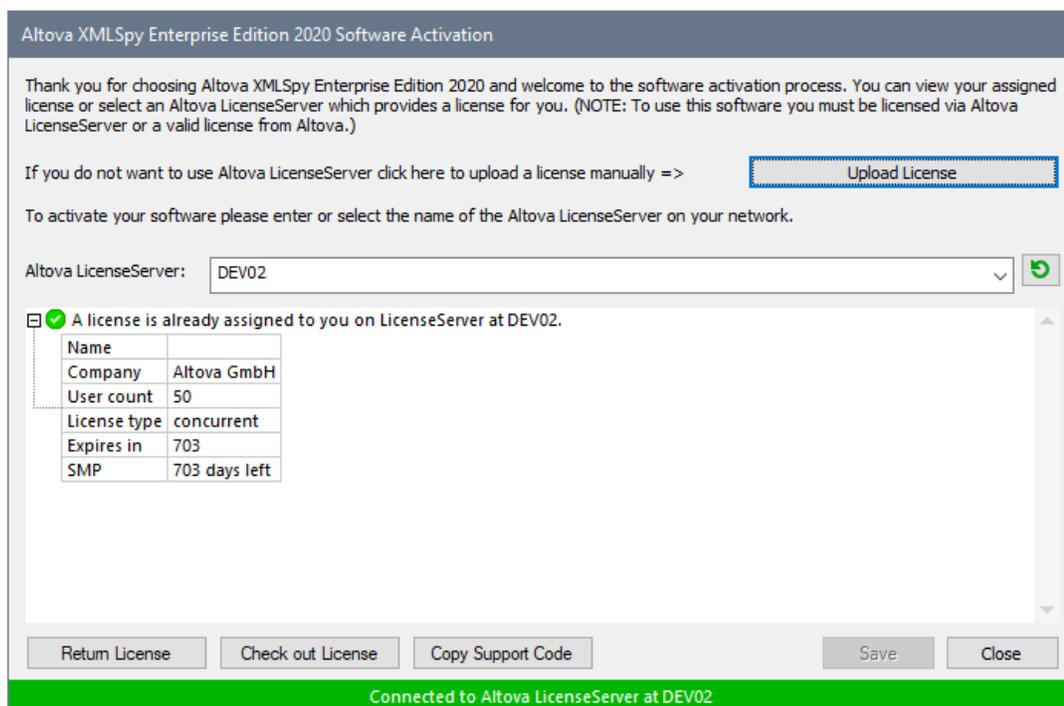
Altova 製品のライセンスを認証するには、以下のうち1つ行ってください！

- 適切な場所にライセンスファイル(.altova_licenses)を保存し、ライセンスファイルをダブルクリック、表示されるダイアログに必要な情報を入力し、「キーの適用」をクリックして完了します。
- ライセンスファイル(.altova_licenses)を適切な場所に保存します。Altova 製品内では「ヘルプ | ライセンス登録メニュー」コマンドを選択し、新規のライセンスをアップロードします。ライセンスファイルへのパスを入力し「OK」をクリックします。
- 適切な場所にライセンスファイル(.altova_licenses)を保存し、Altova LicenseServer のライセンスプールにアップロードします。以下を行うことができます: (i) 製品のソフトウェアライセンス認証ダイアログから Altova 製品からライセンスを取得します。(以下を参照)または(ii) Altova LicenseServer から製品へのライセンスを割り当てます。LicenseServer の使用の詳細に関しては、下記の外リンクを参照してください！

ソフトウェアライセンス認証ダイアログ(下のスクリーンショット)は、「ヘルプ | ソフトウェア アクティベーション」をクリックすることにより常にアクセスすることができます。

以下の方法によりソフトウェアをアクティブ化することができます:

- **ソフトウェアライセンス認証ダイアログでライセンスを登録する方法。**ダイアログ内で、「新規のライセンスをアップロード」をクリックして、ライセンスファイルを参照し選択します。「OK」をクリックしてライセンスファイルへのパスを確認し、複数のユーザーライセンスの場合は個人の名前です。「保存」をクリックして完了します。
- **ネットワーク上の Altova LicenseServer を使用してライセンス供与する方法。**ネットワーク上の Altova LicenseServer を使用してライセンスを取得するにはソフトウェアのライセンスの認証ダイアログの下にある **Altova LicenseServer** を使用するをクリックします。使用する LicenseServer がインストールされているマシンを選択します。License Servers の自動検知は LAN 上で配線が送信されることを意味します。これらの配線がサブネットに制限されているため License Server は自動検知のためのクライアントマシンと同じサブネット上に存在する必要があります。自動検知が作動しない場合、サーバーの名前を入力します。Altova LicenseServer はライセンスプール内で Altova 製品のためのライセンスを有している必要があります。LicenseServer プール内に存在する場合、ソフトウェアライセンス認証ダイアログ内に表示されます (Altova XMLSpy 内のダイアログで表示されている例を参照してください)。「保存」をクリックしてライセンスを取得します。



マシン固有のライセンスがLicenseServer からインストールされると、7日間は、LicenseServer に戻すことができません。7日過ぎると、「ライセンスを戻す」をクリックして、マシンのライセンスをLicenseServer に戻すことができ、このライセンスは、他のクライアントによりLicenseServer から取得することができます。LicenseServer 管理者は、LicenseServer のWeb UI を使用して、取得されたライセンスの割り当てを解除することができます。ライセンスの返却は、マシン固有のライセンスのみが適用され、現在使用中のライセンスには適用されないことに注意してください。

ライセンスのチェックアウト

ライセンスが製品マシン上に保管されるように、ライセンスをライセンスプールから 30 日間チェックアウトすることができます。これにより、オフラインで作業することが可能になります。この機能は、とても役に立ちます。Altova LicenseServer にアクセスできない環境（例えば、旅行中にAltova 製品がインストールされたラップトップコンピュータで作業する場合など）が挙げられます。ライセンスはチェックアウトされていますが、LicenseServer は、ライセンスが使用中と表示し、ライセンスは他のマシンで使用することができません。ライセンスはチェックアウトの期間が終わると自動的にチェックインされた状態に戻ります。または、チェックアウトされたライセンスはソフトウェアのライセンスの認証ダイアログのボタンを使用して「チェックイン」することができます。

ライセンスをチェックアウトするには以下をおこないます: (i) ソフトウェアのライセンスの認証ダイアログで「ライセンスのチェックアウト」をクリックします（上のスクリーンショット参照）。(ii) ライセンスのチェックアウトダイアログ内から、チェックアウトの期間を選択し、「チェックアウト」をクリックします。ライセンスがチェックアウトされます。ライセンスのチェックアウト後2つの状態が発生します: (i) ソフトウェアのライセンス認証ダイアログは時刻およびチェックアウトの期限を含むチェックアウトに関する情報を表示します。(ii) ダイアログ内の「ライセンスのチェックアウト」ボタンは「チェックイン」ボタンに変更されます。「チェックイン」ボタンをクリックして、ライセンスをチェックインすることができます。チェックアウト期間の期限が切れると、ライセンスは自動的にチェックイン状態に戻されるため、選択したチェックアウトの期間がオフラインで作業する期間をカバーするように確認してください。

メモ ライセンスのチェックアウトを可能にするには、LicenseServer 上でチェックアウト機能が有効化されている必要があります。チェックアウトを試みる際この機能が有効化されていない場合、エラーメッセージが表示されます。この場合、LicenseServer 管理者に連絡してください。

サポートコードのコピー

「サポートコードのコピー」をクリックして、ライセンスの詳細をクリックボードにコピーしてください。これは[オンラインサポートフォーム](#)を使用してサポートをリクエストする際に必要なデータです。

Altova LicenseServer を使用することにより、IT 管理者は、リアルタイムでネットワーク上の全てのライセンスの概要、および、クライアントの割り当てと、クライアントのライセンスの使用状況を確認することができます。LicenseServer を使用する利点は、ですから、多数のAltova ライセンスを管理することのできる管理機能です。Altova LicenseServer は、[Altova Web サイト](#)で無料で提供されています。Altova LicenseServer およびAltova LicenseServer を使用したライセンスの供与に関する詳細は、[Altova LicenseServer ドキュメントを参照してください](#)。

▼ 注文フォーム

☐ 説明

ソフトウェア製品のライセンス許与バージョンを注文する準備が整っている場合、(前のセクション参照) ソフトウェアライセンス認証ダイアログ内の「永久ライセンスの購入」ボタン、または「注文フォーム」コマンドを使用して Altova オンラインショップへ移動して注文することができます。

▼ 登録

☐ 説明

Altova 製品登録ページをブラウザのタブに表示します。Altova ソフトウェアを登録することにより、最新の製品の情報が得られます。

▼ 更新のチェック

☐ 説明

Altova サーバーに接続して、より新しいバージョンの製品が利用可能かどうかチェックし、その結果を表示します。

▼ サポートセンター

☐ 説明

インターネット上にある Altova サポートセンターへのリンクとなっています。サポートセンターには FAQ やディスカッションフォーラムが含まれており、問題の解決方法を探り、Altova の技術サポートスタッフへアクセスすることができます(現在英語のみの提供となります)。

▼ WEB 上の FAQ

☐ 説明

インターネット上にある Altova の FAQ へのリンクとなっています。FAQ データベースは Altova のサポートスタッフにより常時更新されています。

▼ コポーネントのダウンロード

☐ 説明

インターネット上にある Altova のコポーネントダウンロードセンターへのリンクとなっています。このリンク先から様々なコポーネントソフトウェアをダウンロードして、Altova 製品ともども使用することができます。ソフトウェアコポーネントは XSLT や XSL-FO プロセッサからアプリケーションサービスプラットフォームまで、幅広く提供されています。コポーネントダウンロードセンターにてご利用いただけるソフトウェアは、通常無料でご利用いただけます。

▼ インターネット上のDiffDog

☐ 説明

インターネット上にある [Altova Web サイト](#) へのリンクとなっています。[Altova Web サイト](#) では、DiffDog や関連するテクノロジーについて確認することができます。

▼ DiffDog について

☐ 説明

スプラッシュ画面と製品のバージョン番号が表示されます。DiffDog の64 ビットバージョンを使用している場合、これはアプリケーション名の後のサフィックス(x64) により示されています。32 ビットバージョンにはサフィックスは存在しません。

10.12 ステータスと結果メッセージ

ステータスと比較のための結果メッセージは、各比較ウィンドウの下にある比較ウィンドウステータスバーに表示されます。

ステータスメッセージ

ステータスメッセージは、特定の比較のステータスを示し、基本的にはファイルディレクトリが選択されたかどうか、比較が実行されたかどうか、どの種類の比較（すなわち、使用された比較モード）が実行されたかを示します。

結果メッセージ

差分が検知された場合、比較の結果の概要はステータスバー内の結果メッセージにより提供されます。差分が存在しない場合もステータスバー内に報告されます。結果メッセージは、フォーム内の差分の個数と型をリストします：

結果: n 差分、左側のペインのみ n、右側のペインのみ n。

ファイルの比較ウィンドウ内では、[ライン内で差分を表示する](#) オプションが選択されている場合でも、テキストの比較は、テキストの比較が隣接した差分のブロックの単位で差分をカウントします。4つのライン内に6つの差分が存在すると、4つの差分が報告されます。差分のある2つの、またはそれ以上のラインの差分は、両方のファイル内で等しいラインとして解釈され連続的に表示され、1つの差分として結果メッセージ内に表示されます。また、XML 比較内では、差分はノードのアイテム内でカウントされます。両方のドキュメント内で異なるノードが存在する場合差分がカウントされます。1つのドキュメント内でノードが存在しない場合、このようなノードは左のみ、または右のみでのみ存在するものとしてリストされます。バイナリ比較内で、ファイルのペアが異なるかが示されている場合、差分の場所、または、個数などの詳細は表示されません。

11 コマンドラインオプション

グラフィカルなインターフェイスでのDiffDogの実行に加え、コマンドラインウィンドウから比較をトリガーすることもできます。比較するファイルまたはディレクトリをDiffDog実行可能引数として提供します。(下記の追加比較オプションも与えることができます。コマンドが実行されると、DiffDogが開始され、ファイルまたはディレクトリが適切な比較ウィンドウで開かれ、比較を実行し、結果が表示されます。

メモ コマンドラインでのDiffDog実行可能ファイルの呼び出しにより、指定されたオプションと共にDiffDogのグラフィカルなユーザーインターフェイスが開かれます。比較の結果をコマンドラインウィンドウに表示、または、比較の結果をコマンドラインにエクスポートすることもできます。これらの機能はDiffDog Server (<https://www.altova.com/diffdog-server>)で 사용할 ことができます。

DiffDog をコマンドインターフェイスから作動する方法:

1. Windows 検索ボックスにcmdを入力し、**Enter** を押して、新規のコマンドラインウィンドウを開きます。
2. DiffDog がインストールされているディレクトリを現在のディレクトリに変更します。例:

```
cd C:\Program Files (x86)\Altova\DiffDog2021\
```

3. **DiffDog.exe** を呼び出し、引数として比較するファイルまたはディレクトリ名、およびオプションのコマンドラインオプションを提供します。例えば、下のコマンドラインでは、2つのテキストファイルは比較されオプション /cF /mT が明示的に設定されます:

```
DiffDog.exe /cF /mT file1.txt file2.txt
```

上記のオプションに関する詳細は、[コマンドラインの構文](#)を参照してください。

DiffDog が既にコマンドラインを開始する前に作動している場合、「ツール | DiffDog オプション | [アプリケーション](#)」タブの「複数のインスタンスを許可する」が有効化されていることを前提として、新規のインスタンスとして開始します。「複数のインスタンスを許可する」が無効化されている場合、既に作動しているDiffDogインスタンスの新規比較ウィンドウ内で比較が開かれます。

11.1 コマンドラインの構文

コマンドラインオプションは簡単に切り替えることが出来、任意で使用することができます。指定されていない場合、オプションはオフに切り替えられます。最善の結果を得るために、/cD or /cF オプションを指定し、DiffDog (ファイルまたはディレクトリ)の比較を明示的に命令することが奨励されます。しかしながら、DiffDog をソース管理システムの差分ツールとして使用する場合、管理システムの一部はファイル名以外の追加引数を受け入れない場合があります。

コマンドラインオプションはシンプルな切り替えで、任意で使用します。指定されない場合、オフに切り替えられます。これはグループ別に整理されていますが、リストされるオプションの順序は決まいません。オプションでは大文字と小文字は区別されません。 マイナスサイン(-) と スラッシュ(/) の両方をオプション前に使用することができます。コマンドライン構文は以下のとおりです:

```
DiffDog.exe [source name1 name2 [name3]] [general options] [compare mode] [compare options] [filter filtername] [directory compare options] [file-filter file filtername]
```

source:

/cd [ディレクトリ](#) を比較する
/cf [ファイル](#) を比較する

name1 name2:

比較されるファイルまたはディレクトリの名前

general options:

/h ヘルプファイルを開く

compare mode:

/mE [拡張子](#) 設定に従い比較する
/mX [XML](#) として比較する
/mT [テキスト](#) として比較する
/mB [バイナリ](#) を比較する

compare options:

/dD [詳細な差分](#)
/dL [ライン内の](#) 差分を表示する
/iB [blank lines](#) を無視する
/iC ノード名内以外の、[大文字と小文字の区別](#) を無視する
/iCN 大文字と小文字の区別を無視
/iD [ノードの深さ](#) を無視する
/iN [名前空間](#) を無視する
/iNT A CD C PI D X [ノード型](#) (Attributes, CData, Comments, Processing Instructions, Doctype, XML declaration) を無視する
/iOA 属性の[順序](#) を無視する
/iOC 子ノードの順序を無視する
/iOC A G groupname T 子ノードの順序を無視し、属性 (All Attributes, Specific Attributes as [defined](#) in Group groupname, Add Element Text as Comparison Criteria) を追加する
/iP [プレフィックス](#) を無視する
/iT [text](#) (XML) を無視する
/e [エンティティ](#) を解決する
/wN [空白スペース](#) の標準化する

/wS 空白スペースをすべて削除する

filter:

/f [特定な要素/属性](#)をフィルターアウトする

filename:

定義済みのフィルターの名前

directory compare options:

/iS [サブディレクトリ](#)を無視する

file-filter:

/fD ディレクトリ比較内の[特定のファイル/ディレクトリ](#)をフィルターアウトする

file filename:

定義済みのファイルフィルターの名前

export:

/rT テキストフォーマット内の差分の[エクスポート](#)

/rX XML フォーマット内の差分のエクスポート

このスイッチの後には「result」パラメーターが続く必要があります(下を参照)。テキスト比較内では、/rX と /rT スイッチを使用することができます。XML 比較内では、/rX スイッチのみの使用が許可されています。ファイルに差分をエクスポートする場合、ライン(/dL)内の差分がエクスポートされます。

result:

エクスポートファイルの名前

> filename.txt

Filename.txt は、比較の結果が書き込まれるファイル名です。> サインが後に続き、コマンドの最後のパラメーターである必要があります。パラメーターとこのオプションを一緒に使用しないでください。

メモ 比較のオプションの一部はXML 比較モード(例えば /iN と /iNT)のみ適用することができます。これらのオプションは[比較モード] オプション /mX ではない場合無視されます。

11.2 コマンドライン サンプル

下のサンプルでは、現在の作業ディレクトリはDiffDog がインストールされている場所です。このため、全てのコマンドはDiffDog.exe から始まります。ディレクトリが異なる場合、(例えば "C:\Program Files (x86)\Altova\DiffDog2021\DiffDog.exe") などの代わりにDiffDog 実行可能ファイルへのフルパスを入力してください。実行可能ファイルにスペースが含まれると、引用符で囲むことを忘れてください。同様に参照されたスペース文字を含むファイル、またはディレクトリ名にも適用することができます。

ファイルの拡張子に従い2つのファイルを比較する場合は、以下を使用します。

```
DiffDog.exe /cF c:\work\Alice.txt c:\work\Bob.txt /mE
```

(右側から左側、左側から右側のマージを可能にするために)詳細比較が有効化された状態で、XML モードで2つのXML ファイルを比較する場合は、以下を使用します。

```
DiffDog.exe /cF c:\work\Alice.xml c:\work\Bob.xml /mX /dD
```

ファイルのXML 構造のみを比較しテキストを無視する場合、以下を使用します。

```
DiffDog.exe /cF c:\work\Alice.xml c:\work\Bob.xml /mX /iT
```

2つのディレクトリを比較する場合、以下を使用します。

```
DiffDog.exe /cD c:\work1 c:\work2
```

サブディレクトリを無視して2つのディレクトリを比較する場合、以下を使用します。

```
DiffDog.exe /cD c:\work1 c:\work2 /iS
```

(グラフィカルなユーザーインターフェイスで事前に作成された)定義済みのフィルターを適用することにより、次のコマンドは2つのディレクトリ内のXML ファイルのを比較します。[比較されたディレクトリのコンテンツをフィルターする](#)も参照してください。名前にスペース文字が含まれるため、引用符が使用されていることにご注意してください。

```
DiffDog.exe /cD c:\work1 c:\work2 /mX /fD "xml conformant files"
```

12 バージョンコントロールシステム 統合

DiffDog を、簡単に比較とマージのためのカスタム(外部)の実行可能ファイルを使用するオプションを提供するバージョンコントロールシステムと統合することができます。

参考のために、このセクションはDiffDog を比較およびまたはマージツールとして使用してバージョンコントロールシステムを構成する方法のための命令について説明しています。バージョンコントロールシステムがインストールされない場合、または異なるバージョンが存在する場合、カスタムの差分またはマージツールを使用する方法のための命令に関するドキュメントを参照してください。

このセクションは次のトピックが含まれています:

- [DiffDog を Git と統合する](#)
- [DiffDog を TortoiseSVN と統合する](#)
- [DiffDog を SmartSVN と統合する](#)
- [他のバージョンコントロールシステム](#)

12.1 DiffDog を Git と統合する

バージョンコントロールシステムとして Git (<http://www.git-scm.com>) を使用する場合、DiffDog を Git 差分ツールとして設定します。DiffDog を Git をベースにしたカスタムの外部の差分ツールを定義するオプションを与えるツール例えば **gitk** に統合することができます。下の構成命令は、Git 1.9.4 のためテストされています。他の Git バージョンと類似しています。外部の差分ツールに Git を統合するための詳しい情報は、Git ユーザーマニュアルを参照してください。

DiffDog を Git 差分ツールと設定する

- **.gitconfig** ファイル内の次のラインを追加、または、編集します (このファイルは、通常: **C:\Users\\.gitconfig** ディレクトリに存在します):

```
[diff]
  tool = diffdog
[difftool "diffdog"]
  cmd = "'C:/Program Files/Altova/DiffDog2021/DiffDog.exe'" "$LOCAL"
"$REMOTE"
```

メモ DiffDog 32 ビットを 64 ビット オペレーティングシステムで使用している場合、**パス**を、**C:/Program Files** ではなく、**C:/Program Files (x86)** を指すように調整してください。

DiffDog を差分ツールとして設定するか確認する

- Git シェルを開き、コマンド `git difftool --tool-help` を以下に示されるように入力します。

DiffDog 内で Git レポトリファイルへの変更を確認する:

1. Git シェル内で Git レポトリを開き、コマンド `git difftool <changed file>` を入力します。例

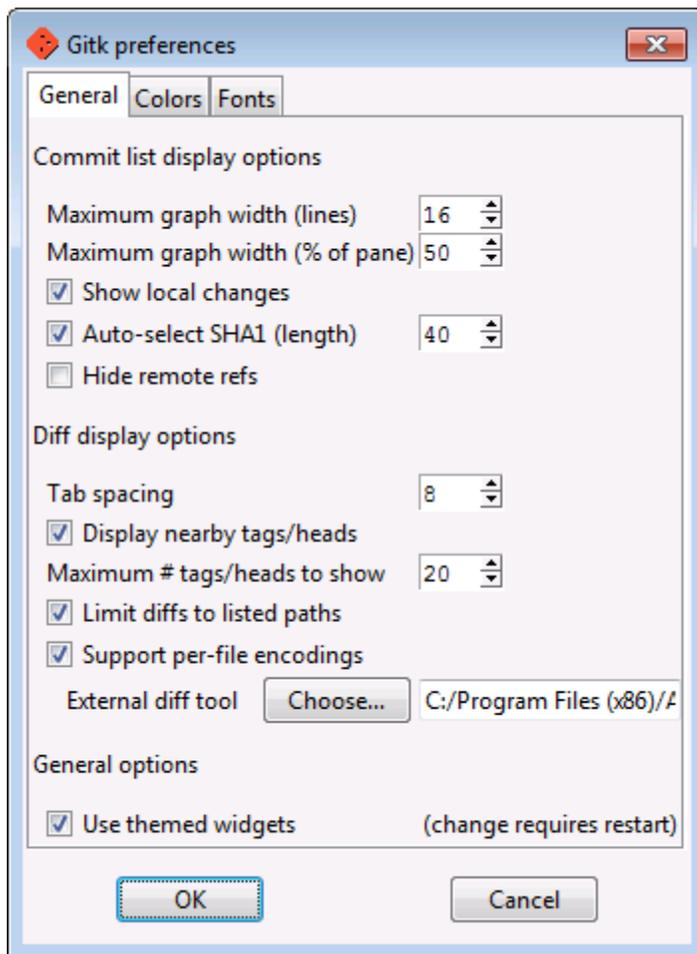
```
git difftool MyFile.txt
```

2. DiffDog をローチするか確認するように促されると、「Y」を入力し、「Enter」を押します。DiffDog をプロンプト無しで動作するには、コマンド `git difftool -y <changed file>` を使用してください。

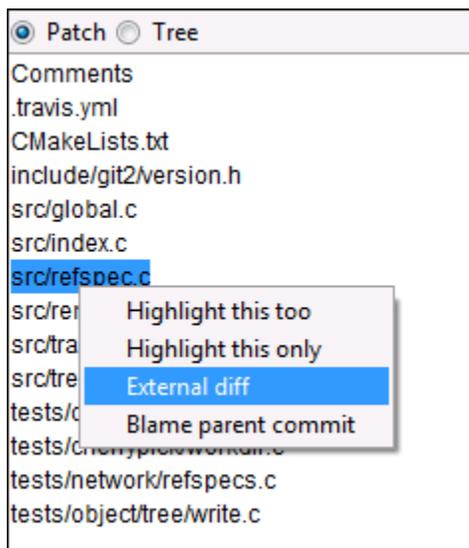
変更されていないファイルを引数として与えると、difftool コマンドの結果は作成されません。

Git グラフィカルユーザーインターフェイス内で DiffDog を差分ツールとして構成する

1. **gitk** を実行します。(例えば、Git コントロールの下のディレクトリを右クリックし、Git 履歴を選択します)。
2. 「編集」メニューから「基本設定」をクリックします。
3. 外部の差分ツールから、**選択** をクリックし、DiffDog 実行可能ファイルの **パス** を選択します (例えば、**C:/Program Files/Altova/DiffDog2021/DiffDog.exe**)。



Git グラフィカルユーザーインターフェイス内では、外部の差異コマンドを使用して、DiffDog 内で2つのGitコミット間の変更を確認することができます。



12.2 DiffDog を TortoiseSVN と統合する

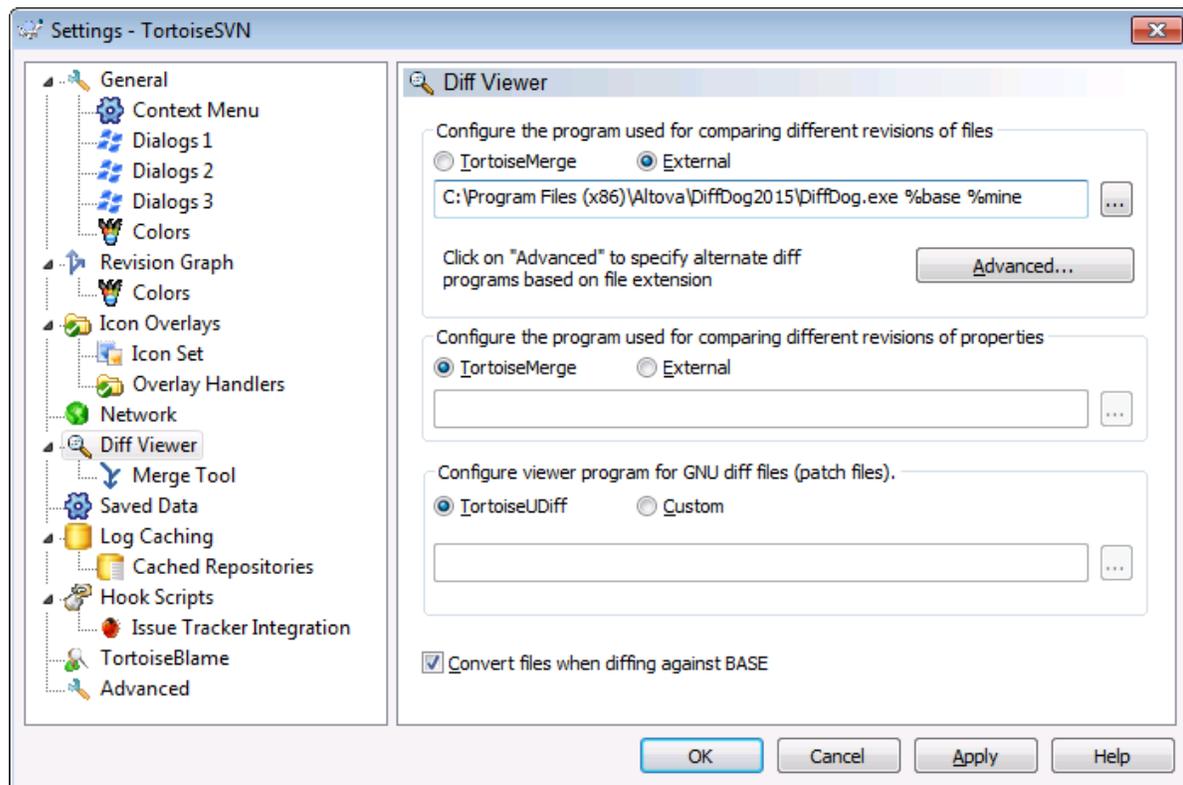
TortoiseSVN (<http://www.tortoisesvn.net>) を Subversion クライアントとして使用している場合、DiffDog を異なるファイルのバージョンの比較のために使用されるプログラムと設定することができます。下の構成命令は TortoiseSVN 1.8.8 のために適用でき、他のバージョンと類似しています。詳細に関しては、TortoiseSVN ユーザーマニュアルを参照してください。

DiffDog を TortoiseSVN 差分ツールとして設定する

1. フォルダを右クリックし、「TortoiseSVN | 設定」を選択します。
2. 「Diff Viewer」をクリックします。
3. 「外部」を選択し、DiffDog 実行可能ファイルのパスを以下のように入力します。

```
C:/Program Files/Altova/DiffDog2021/DiffDog.exe %base %mine
```

メモ DiffDog 32 ビットを 64 ビット オペレーティングシステムで使用している場合、パスを、C:/Program Files でなく、C:/Program Files (x86) を指すように調整してください。



12.3 DiffDog を SmartSVN と統合する

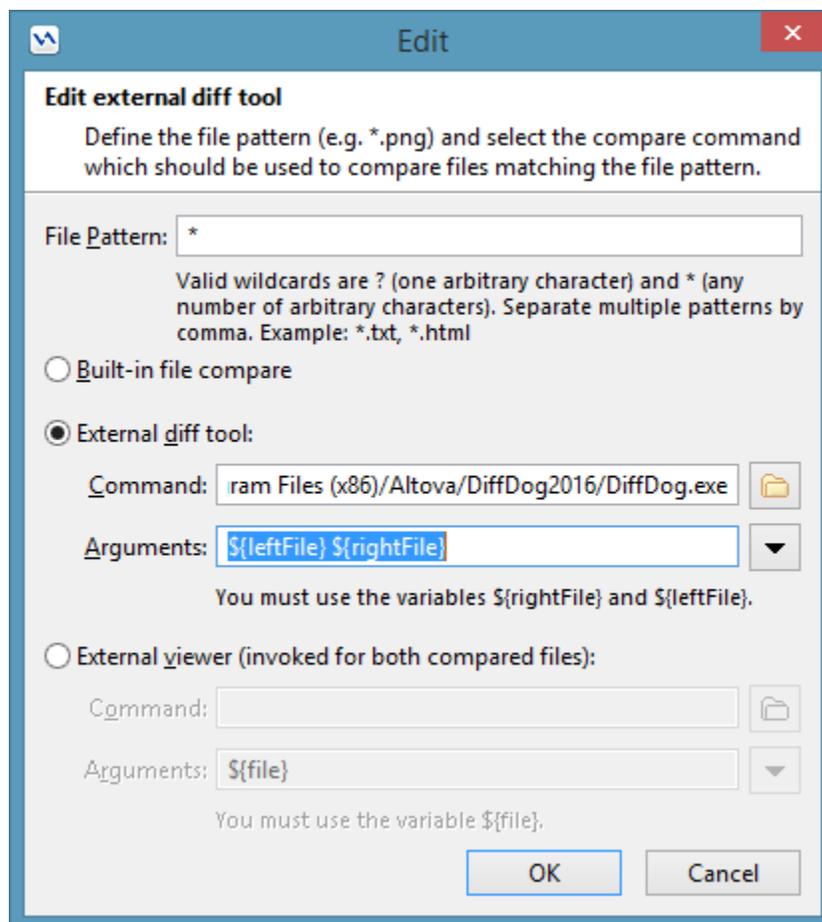
SmartSVN (<http://www.smartsvn.com>) を Subversion クライアントとして使用する場合、内蔵の比較ツールに加え、DiffDog をファイルの比較ツールとして追加することができます。SmartSVN 8.5 のために以下の構成命令を適用することができます。

比較ツールとして DiffDog を設定する

1. SmartSVN を実行します。
2. 「編集」メニューから Preferences をクリックします。
3. 「ツール」から、ファイルの比較をクリックします。
4. 「追加」をクリックし、「外部の差分ツール」を選択します。
5. ファイル/パターン の横に DiffDog を使用して比較するファイル型に一致するパターンを入力します。例えば、*.xml。
6. コマンド の横に DiffDog 実行可能ファイルのパスを入力します。例えば、C:/Program Files/Altova/DiffDog2021/DiffDog.exe。

メモ DiffDog 32 ビットを 64 ビット オペレーティングシステムで使用している場合、パスを、C:/Program Files ではなく、C:/Program Files (x86) を指すように調整してください。

7. 「引数」の横に、`${leftFile} ${rightFile}` を入力します。



12.3.1 他のバージョンコントロールシステム

Borland StarTeam Cross-Platform Client 2008 R2

<http://www.borland.com/us/products/starteam>

次のステップにより Altova DiffDog を Borland Star Team に統合することができます:

1. StarTeam クライアント パーソナルオプション (「ツール」 | パーソナルオプション | ファイル | 別のアプリケーション) を使用します。
2. ユーティリティの比較 DiffDog フルパスを入力します。
3. ユーティリティの比較 オプション: \$file1 \$file2.

Dynamsoft SourceAnywhere for VSS 5.3.2 Client

http://www.dynamsoft.com/Products/SAW_Overview.aspx

次のステップにより、Altova DiffDog を Dynamsoft SourceAnywhere for VSS に統合することができます:

1. Dynamic SourceAnywhere For VSS クライアント オプションに移動します。
2. 引数: %FIRST_FILE%" "%SECOND_FILE% を使用して、DiffDog フルパスを差分/マージのために外部のアプリケーションとして指定します。

警告: 外部アプリケーション パラメータが挿入される可能性があるため、Altova 製品オプションにこれらの設定を操作しないでください。

Dynamsoft SourceAnywhere Hosted Client (22252)

<http://www.dynamsoft.com/Products/SourceAnywhere-Hosting-Version-Control-Source-Control.aspx>

Dynamsoft SourceAnywhere Standalone 2.2 Client

<http://www.dynamsoft.com/Products/SourceAnywhere-SourceSafe-VSS.aspx>

次のステップにより、Altova DiffDog を Dynamsoft SourceAnywhere Hosted と Dynamsoft SourceAnywhere Standalone に統合することができます:

1. ソースコントロールタブの「**Advanced**」ボタンをクリックします。
2. 引数: %FIRST_FILE%" "%SECOND_FILE% を使用して、DiffDog フルパスを差分/マージのために外部のアプリケーションとして指定します。

Jalindi Igloo 1.0.3

<http://www.jalindi.com/igloo/>

次のステップにより、Altova DiffDog を Jalindi Igloo に統合することができます:

1. Altova アプリケーション、または、ソースコントロールシステムの差分ツールに関連する他のアプリケーション内で差分の表示 コマンドを開始します。
2. 差分の表示 または ファイルのマージ ペンを開きます。
3. DiffDog フルファイルパスを外部 Diff EXE パスとして入力し、外部差分コマンドを設定します。

警告: デフォルトの差分エディター CvsConflictEditor に長いラインを持つファイルと比較する際に問題が発生する可能性があります。レポジトリに保管する前に、全てのファイル (特に ump ファイル) を整形出力することが奨励されます。これによりラインの長さを制限し、CvsConflictEditor による問題を回避することができます。

March-Hare CVS Suite Client 2008 (3321)

<http://www.march-hare.com/cvsnt/en.asp>

次のステップにより、Altova DiffDog を Marc-Hare CVS Suite 2008 に統合することができます:

1. TortoiseCVS Preferences に移動し、「ツール」タブを選択します。
2. DiffDog フルパスを Diff アプリケーションとして指定し、パラメーター %1 %2 を 2通りの差異パラメーターとして設定します。

Mercurial

次を参照: [Sergey Antonov HgScc 1.0.1](#)

Microsoft Visual Source Safe 2005 with CTP

<http://msdn.microsoft.com/en-us/vstudio/aa718670.aspx>

次のステップにより、Altova DiffDog を Microsoft SourceSafe 2005 に統合することができます:

1. ソースコントロールタブの「**Advanced**」ボタンをクリックします。
2. カスタムエディタータブをクリックし、C:\Program Files\Altova\DiffDog2021\DiffDog.exe %1 %2 をコマンドラインフィールドに入力します。
3. オペレーションメニューボックスからファイル差分を選択します。

Microsoft Team Foundation Server 2008/2010 MSSCCI Provider

<http://www.microsoft.com/downloads>

必要条件: Visual Studio 2008 Team Explorer または Visual Studio 2008 with Team Explorer 2008.

次のステップにより Altova DiffDog を Microsoft Visual Studio Team System 2008 Team Foundation Server MSSCCI Provider に統合することができます:

1. マネージャー (Visual Studio 2008 Team Explorer または Visual Studio 2008) オプション内で、新規のユーザーツールとして Altova DiffDog を構成します。
2. Visual Studio Team Foundation Server ソースをプラグインとして選択します。
3. 次を指定するために新しいユーザーツールを構成します: (i) DiffDog で比較するファイルの拡張子 (ii) DiffDog フルファイルパス。

Perforce P4V 2008.1

<http://www.perforce.com/>

次のステップにより、Altova DiffDog を Perforce 2008 に統合することができます:

1. ソースコントロールタブの「**Advanced**」ボタンをクリックします。
2. 基本設定ペインから差異タブを選択します。
3. 差分アプリケーションとして、フィールド「他のアプリケーション」を選択し、DiffDog フルファイルパスを入力します。

PushOK CVS SCC NT 2.1.2.5

PushOK CVS SCC x64 バージョン 2.2.0.4

PushOK SVN SCC 1.5.1.1

PushOK SVN SCC x64 バージョン 1.6.3.1

http://www.pushok.com/soft_cvs.php

次のステップにより、Altova DiffDog を PushOK CVS NT と PushOK SVN SCC に統合することができます:

3. ソースコントロールタブの「**Advanced**」ボタンをクリックします。
2. CVS 実行可能 タブを選択します。
3. 値 外部の マージ比較 ツールを 差分/マージフィールドで選択します。
4. DiffDog フルファイルパスを挿入します。
5. 「2 way diff cmd」フィールド内で値 `%first %second into` を編集します。

警告: デフォルトの差分エディター CvsConflictEditor には長いラインを持つファイルと比較する際に問題が発生する可能性があります。レポネリに保管する前に、全てのファイル(特に .ump ファイル) を整形出力することが奨励されます。全てのファイル(特に .ump ファイル) によりラインの長さを制限し、CvsConflictEditor による問題を回避することができます。

QSC Team Coherence Client 7.2.1.35

<http://www.teamcoherence.com>

次のステップにより、Altova DiffDog を Team Coherence Version Manager に統合することができます:

1. Team Coherence クライアント オプション「ビューアー」に移動します。
2. デフォルトの差分ビューアーアプリケーションとして、DiffDog フルファイルパスを指定します。
3. パラメーターとして指定します: "\$LF \$RF"。

警告: 新規の設定は、Windows ログオフの後のみ適用できます。

Seapine Surround SCM Client 2009.0.0

<http://www.seapine.com/surroundscm.html>

次のステップにより、Altova DiffDog を Seapine Surround SCM に統合することができます:

1. Surround SCM クライアント ユーザーオプション(差分/マージ) セクションに移動します。
2. 差分/マージ 設定を編集して、選択されたアプリケーションを使用して比較します。
3. パラメーター“% 1” “% 2” を使用して DiffDog フルパスを入力します。
4. Surround SCM クライアント および Altova 製品を再起動します。

Sergey Antonov HgSCC 1.0.1

http://www.newsupaplex.pp.ru/hgsccl_news_eng.html

次のステップにより、Altova DiffDog を Mercurial に統合することができます:

1. ソースコントロールタブの「**Advanced**」ボタンをクリックします。
2. 差分ツール「カスタム」を選択し、DiffDog フルパスを指定します。

SourceGear Vault 4.1.4 Client

<http://www.sourcegear.com/vault>

次のステップにより、Altova DiffDog を SourceGear Fortress と SourceGear Vault に統合することができます:

1. ソースコントロールタブの「**Advanced**」ボタンをクリックします。
2. 差分/マージ 競合オプションを引数を使用して差分プログラム DiffDog フルパスとしてを指定して設定します:
`/ro1 /ro2 /title1:"%LEFT_LABEL%" /title2:"%RIGHT_LABEL%" "%LEFT_PATH%" "%RIGHT_PATH%"`

SourceGear SourceOffsite Client 4.2.0 (Windows)

<http://www.sourcegear.com/sos/>

次のステップにより、Altova DiffDog を SourceGear SourceOffsite に統合することができます。

1. ソースコントロールタブの「**Advanced**」ボタンをクリックします。
2. 「外部プログラム」として「ファイル比較のためのアプリケーションアプリケーション」DiffDog フルパスを指定します。

TamTam CVS SCC 1.2.40, TamTam SVN SCC 1.2.24

<http://www.fieldstonsoftware.com/software/tamtam/index.shtml>

次のステップにより、Altova DiffDog を TamTam CVS SCC と TamTam SVN SCC に統合することができます。

1. ソースコントロールタブの「**Advanced**」ボタンをクリックします。
2. 差分/マージと競合のための外部ツールとして DiffDog フルファイルパスを指定します。

警告: デフォルトの差分エディター CvsConflictEditor には長いラインを持つファイルを比較する際に問題が発生する可能性があります。レポネリに保管する前に、全てのファイル(特に .ump ファイル) を整形出力することが奨励されます。これによりラインの長さを制限し、CvsConflictEditor による問題を回避することができます。

13 ライセンス情報

このセクションには以下の内容が含まれています:

- ソフトウェアの配布に関する情報
- ソフトウェアのアクティベーションとライセンスの計測
- ソフトウェアの使用に関する使用許諾契約書

本製品を使用する前に、上記の情報をよくお読みください。ソフトウェアのインストール時に上記のすべての条件に同意したとみなされ、お客様は上記の条件に拘束されることを同意したとみなされます。

Altova ライセンスの内容を確認するには、[Altova Web サイト](#) の [Altova 法的な情報のページ](#) に移動してください。

13.1 電子的なソフトウェアの配布

この製品は電子的なソフトウェアの配布により利用することが可能で、この配布方法により、以下のユニークなメリットがあります：

- 購入を決定する前に、無料でソフトウェアを試用することができます。(Note: *Altova Mobile Together Designer* に対してライセンスを無料で割り当てることができます)。
- Once ソフトウェアの購入を決定した際は、[Altova Web サイト](#) にて注文を行います。すぐにライセンス登録された製品の使用を開始することができます。
- オンラインにて注文を行うと、常に最新のソフトウェアをご利用いただけます。
- 製品パッケージには包括的なヘルプシステムが画面上に表示されます。最新バージョンのユーザーマニュアルは <https://www.altova.com/ja/> 上にあり、(i) HTML フォーマットによる閲覧、ならびに(ii) PDF フォーマットのダウンロードと印刷に対応しております。

30日間の評価期間

この製品をダウンロードした後は、最大で30日の間無料で製品の評価を行うことができます。20日間を超えた頃から、製品がライセンス登録されていないことがソフトウェアより表示されます。このメッセージはアプリケーションが起動されるたびに表示され、30日間を超えてプログラムを使用するには、キーコードを含むライセンスファイルから提供される製品のライセンスを購入します。ライセンスファイルを製品のソフトウェアアクティベーションダイアログにアップロードして、製品をアンロックします。

<https://shop.altova.com/> でライセンスを購入することができます

組織内でソフトウェアの評価を行う

評価版のソフトウェアを組織内のネットワークにて配布した場合、またはインターネットに接続されていないコンピュータにてソフトウェアを使用する場合、どのような状態でも変更されていないことを条件に、セットアッププログラムでの配布を行うことが可能です。ソフトウェアインストーラーへアクセスした人は、例外なく30日間の評価ライセンスキーコードをリクエストして、試用期間が経過した後は、製品を使い続けるためにライセンスの購入を行う必要があります。

13.2 ソフトウェアのアクティベーションとライセンスの計測

Altova のソフトウェアアクティベーションの一部として、ソフトウェアにより内部ネットワークまたはインターネットへの接続を行い、インストール時、登録時、Altova により使用されるライセンスサーバーの更新やライセンスの正当性を検証することで、ソフトウェアの不正な使用を防ぎ、顧客サービスを向上するため、ライセンスに関する情報を送信することもあります。アクティベーションにより、オペレーティングシステムや IP アドレス、日付/時刻、ソフトウェアのバージョン、コンピュータの名前などのライセンスに関する情報が、お使いのコンピュータと Altova ライセンスサーバー間にてやり取りされます。

お使いの Altova 製品にはライセンス計測モジュールが内蔵されており、エンドユーザー使用許諾契約書の意図しない違反を防ぎます。お使いの製品はシングルユーザーまたはマルチユーザーとしてインストールされており、ライセンス計測モジュールにより、ライセンスされている数を超えたユーザーが同時に製品を使用することが無いことが保証されます。

このライセンス計測技術により、ローカルエリア接続 (LAN) において、別々のコンピュータ間で動作しているアプリケーションインスタンス間の通信が行われます。

シングルライセンス

ライセンス計測プロセスの一部としてアプリケーションが起動すると、ソフトウェアにより短いデータグラムがブロードキャストにより送信され、同一のネットワークセグメントにある他のコンピュータにてプログラムが動作してはいないかのチェックが行われます。応答が無い場合は、アプリケーションの他インスタンスから送信される信号に反応するため、ポートが開かれます。

マルチユーザーライセンス

同一の LAN 内に 2 つ以上のアプリケーションインスタンスが使用された場合、スタートアップ時に、これらインスタンス間において通信が行われます。これらのインスタンス間にてキーコードのやりとりが行われ、購入された数のライセンスを超えてインスタンスが起動しないよう保証することができます。このようなライセンス計測システムは UNIX やデータベース開発ツールにて広く使用されているもので、Altova ユーザーはリーズナブルな価格にて同時使用マルチユーザーライセンスを購入することができます。

弊社はアプリケーションのデザインも行っており、少数の小さなネットワーク ネットを送信することで、ネットワークに対する負荷を最小限に抑えておきます。Altova により使用される 2799 番 TCP/IP ポートは IANA により公式登録されており(詳細は ([IANA Web サイト](http://www.iana.org) (<http://www.iana.org>) を参照ください)、弊社のライセンス計測モジュールは既にテストされたものです。

ファイアウォールを使用している場合、2799 番ポートにて Altova 製品が動作しているコンピュータ同士が通信しているのが気づかれるかも知れませんが、その他の手段によりライセンス使用許諾書の内容が守られることを保証できる限り、組織間の異なるグループにおいてこのようなトラフィックをブロックすることは勿論可能です。

証明書に関するメモ

Altova アプリケーションは HTTPS を介して Altova ライセンスサーバー (link.altova.com) に通信します。この通信のために Altova は登録済みの SSL 証明書を使用します。(例えば、社内 IT 部署または外部エージェントによりこの証明書が置き換えられている場合、使用中の Altova アプリケーションは接続が安全でないことを警告します。Altova アプリケーションを開始するため代替の証明書を使用することができますが、自己責任で行ってください。安全ではない接続の警告メッセージが表示されると、証明書の発行元を確認して (Altova 証明書の代替証明書の使用の継続または停止を決定することができる) 社内 IT チームと相談してください。

(例えば、クライアントマシンへまたはクライアントマシンへの通信を監視するため) 自身の証明書の使用が必要な場合 Altova の無料管理ソフトウェアである [Altova LicenseServer](#) を使用中のネットワークにインストールすることが奨励されます。このセットアップでは Altova LicenseServer は Altova との通信のために Altova 証明書の使用を許可しつつクライアントマシンが所属機関の証明書の使用を継続することができます。

13.3 エンドユーザー使用許諾契約書

- Altova エンドユーザー使用許諾契約書: <http://www.altova.com/ja/legal/eula>
- Altova プライバシーポリシー: <http://www.altova.com/ja/privacy>

インデックス

D

- DiffDog,
 - Git 差分ツールとして, 159
 - GUI, 16
 - TortoiseSVN 差異ツールとして, 161
 - アプリケーションウィンドウ, 16
 - インターフェイス, 16
 - オプション, 78
 - はじめに, 8
 - メイン 機能, 10
 - ユーザーレファレンス, 92
 - 機能, 10
 - 設定, 78
 - 複数のインスタンスの許可, 79
 - 用語, 12

G

- Git,
 - DiffDog の統合, 159
- GUI,
 - 説明, 16

O

- Office Open XML,
 - 開く, 53
- OOXML,
 - 開く, 53

T

- TortoiseSVN,
 - DiffDog を統合する, 161

W

- Windows エクスプローラー 統合, 79

X

- XML メニュー, 126
- XML 比較,
 - オプション, 25
 - フィルター, 30
 - 差分の詳細, 25
 - 属性グループ, 28
 - 属性のグループ, 28
- XML 比較 モード,
 - 定義, 14

Z

- ZIP アーカイブ,
 - 開く, 53
- アプリケーション ステータスバー, 16
- アプリケーションウィンドウ,
 - 説明, 16
- インターフェイス,
 - 説明, 16
- インデントガイド, 33
- ウィンドウ メニュー, 146
- エクスポート,
 - XML に, 72
 - テキストに, 72
 - 差分, 72
- エンコード, 79
- エンティティ,
 - 解決, 25
- エンティティの解決, 25
- エンドユーザー使用許諾契約書, 167, 170
- オプション,
 - Windows エクスプローラー 統合, 79
 - XML 比較, 25
 - アプリケーション, 79
 - エンコード, 79
 - スタートアップオプション, 79

- オプション,
 - ディレクトリの同期, 65
 - ディレクトリフィルター, 83
 - ディレクトリ比較, 57, 83
 - テキストの比較, 23
 - バックアップファイル, 81
 - ファイルの比較, 23, 81
 - ファイルフィルター, 83
 - ファイル型, 88
 - 開く前の表示, 76
 - 最近比較された組み合わせ, 77
 - 色, 81
 - 比較の管理, 75
- カスタマイズ,
 - オプション, 145
 - キーボード, 139
 - コマンド, 136
 - コンテキストメニュー, 143
 - ツールバー, 137
 - テーブル, 38
 - メニュー, 143
- キーボード ショートカット, 139
- クイック 比較 モード,
 - 定義, 14
- グリッドツールバー, 93
- グリッドビュー,
 - テキストの検索, 46
 - テキストの置換, 46
 - ノードの展開, 93
 - 差分の表示, 37
 - 最適な幅, 93
 - 折りたたみノード, 93
- グリッドビューメニュー, 108
 - サブメニューに変換する, 121
 - サブメニューの挿入, 108
 - サブメニューの追加, 113
 - テーブルサブメニュー, 122
 - 子サブメニューの追加, 117
- グリッド編集ツールバー, 93
- コピー,
 - ファイルのコンテンツ, 71
- コマンド,
 - CData, 110
 - DiffDog オプション..., 134
 - XML テキストを整形して出力, 105
 - XML として比較, 128
 - カスタマイズ..., 135
 - グリッドビュー, 102
 - コピー, 100
 - サイズと更新日時を比較, 132
 - ステータスバー, 102
 - ツールバー, 102
 - ディレクトリの同期, 132
 - ディレクトリ比較, 96
 - テーブルとして表示する, 123
 - テキストの比較だけを行う, 127
 - テキストビュー, 102
 - バイナリとして比較, 128
 - ファイルの拡張子設定によって比較, 128
 - ファイルの比較, 95
 - ブックマークの挿入/削除, 106
 - やり直し, 100
 - ワードラップ, 105
 - 印刷..., 97
 - 印刷プレビュー, 97
 - 印刷設定..., 98
 - 右から左にコピー (ディレクトリ), 132
 - 右から左にコピーする (ファイル), 130
 - 右に移動, 124
 - 開く..., 96
 - 検索, 101
 - 検証, 126
 - 元に戻す, 99
 - 現在の差分にする, 129
 - 現在の差分の表示, 129
 - 行/文字に移動, 103
 - 行の挿入, 123
 - 行の追加, 123
 - 降順で並べ替え, 124
 - 左から右にコピー (ディレクトリ), 132
 - 左から右にコピーする (ファイル), 129
 - 左に移動, 124
 - 差分のエクスポート..., 97
 - 最近比較した組み合わせをサポートする, 130
 - 最後の差分, 129
 - 最初の差分, 129
 - 削除, 101
 - 子の追加 | ATTLIST, 121
 - 子の追加 | CData, 119
 - 子の追加 | DOCTYPE, 120
 - 子の追加 | ELEMENT, 120
 - 子の追加 | ENTITY, 121
 - 子の追加 | ExternalID, 120
 - 子の追加 | NOTATION, 121
 - 子の追加 | XML, 119
 - 子の追加 | コメント, 119

- コマンド,
 - 子の追加 | テキスト, 119
 - 子の追加 | 処理命令, 119
 - 子の追加 | 属性, 118
 - 子の追加 | 要素, 118
 - 次のブックマークへ移動, 106
 - 次の差分, 128
 - 次を検索, 101
 - 終了, 98
 - 昇順で並べ替え, 123
 - 整形形式のチェック, 126
 - 切り取り, 100
 - 選択されたディレクトリの同期, 133
 - 前のブックマークへ移動, 106
 - 前の差分, 129
 - 全てのブックマークを削除, 106
 - 全ての行の展開/折りたたみ, 107
 - 全て閉じる, 96
 - 挿入 | ATTLIST, 112
 - 挿入 | DOCTYPE, 111
 - 挿入 | ELEMENT, 112
 - 挿入 | ENTITY, 113
 - 挿入 | ExternalID, 111
 - 挿入 | NOTATION, 113
 - 挿入 | XML, 110
 - 挿入 | コメント, 110
 - 挿入 | テキスト, 110
 - 挿入 | 処理命令, 111
 - 挿入 | 属性, 109
 - 挿入 | 要素, 109
 - 置換, 101
 - 追加 | ATTLIST, 117
 - 追加 | CData, 115
 - 追加 | DOCTYPE, 116
 - 追加 | ELEMENT, 114, 117
 - 追加 | ENTITY, 117
 - 追加 | ExternalID, 116
 - 追加 | NOTATION, 117
 - 追加 | XML, 115
 - 追加 | コメント, 115
 - 追加 | テキスト, 115
 - 追加 | 処理命令, 116
 - 追加 | 属性, 114
 - 貼り付け, 100
 - 同時スクロール, 103
 - 比較 オプション..., 134
 - 比較の開始, 128
 - 比較の前にオプション設定を表示する, 130
 - 比較を自動的に開始する, 130
 - 閉じる, 96
 - 編集集中に比較する, 130
 - 保存, 97
 - 要素の中へ, 124
- コマンドライン,
 - GUI モード, 154
 - 構文, 155
 - 静音モード, 154
- コンテキスト メニュー,
 - カスタマイズ, 143
- サブディレクトリ,
 - 含む, 59
 - 折りたたみ, 59
 - 展開, 59
 - 非表示, 59
 - 表示, 59
- ショートカット, 139
- ズーム,
 - テキストビュー内, 33
- スタートアップオプション, 79
- ステータスバー,
 - アプリケーション, 16
 - ステータスメッセージ, 153
 - 結果メッセージ, 153
 - 比較 ウィンドウs, 16
- ステータスメッセージ, 153
- ソフトウェア製品ライセンス, 170
- タブサイズ, 33
- ツールバー, 93
 - コマンドの追加, 136
- ツールメニュー, 134
- ディレクトリ,
 - 開く, 53
 - 同期, 64
 - 比較のための選択, 56
- ディレクトリコンテンツ ツールバー, 93
- ディレクトリの同期,
 - オプション, 65
 - 開始, 68
 - 実行, 68
 - 設定, 65
 - 同期アクション, 66
- ディレクトリの比較,
 - ファイルの比較, 63
 - 同期アクションの変更, 66
 - 同期の開始, 68
- ディレクトリ比較,

- ディレクトリ比較,
 - ZIP アイコン, 61
 - オプション, 57
 - サブディレクトリの表示, 59
 - ディレクトリの選択, 56
 - ディレクトリの同期, 64
 - ファイルアイコン, 61
 - フィルター, 58
 - フォルダーアイコン, 61
 - 開く, 53
 - 開始, 58
 - 機能, 10
 - 差分の表示, 61
 - 実行, 58
 - 色, 61
 - 定義, 12
 - 同期の設定の変更, 65
 - 比較 ウィンドウを開く, 55
 - 比較 シンボル, 61
 - 比較 モード, 14
 - 比較 モードの変更, 57
 - 表示の構成, 59
- ディレクトリ比較 ウィンドウ,
 - ディレクトリの選択, 56
 - 開く, 55
 - 比較の実行, 58
 - 比較をフィルター, 58
- テーブルビュー,
 - カスタマイズ, 38
 - 表示, 38
 - 並べ替え, 38
- テキスト ツールバー, 93
- テキスト 比較 モード,
 - 定義, 14
- テキストの比較,
 - オプション, 23
 - 行内の差分を表示, 23
- テキストビュー,
 - 差分の表示, 33
- テキストビュー メニュー, 105
- テキストビュー 設定, 33
- デフォルトの比較モード, 88
- ナビゲート,
 - 現在の差分, 70
 - 差分, 70
- バイナリ 比較 モード,
 - 定義, 14
- はじめに, 8
- ファイル,
 - デフォルトの比較モード, 88
 - バックアップオプション, 81
 - 自動再ロード, 81
- ファイル メニュー, 95
- ファイルの比較, 18
 - XML 比較 オプション, 25
 - XML 比較のためのフィルター, 30
 - オプション, 23
 - グリッドビュー, 37
 - グリッドビューの検索, 46
 - コンテンツの編集, 40
 - ディレクトリ比較内でのファイルの比較, 63
 - テーブルビュー, 38
 - テキスト 比較 オプション, 23
 - テキストの検索, 42
 - テキストの置換, 42
 - テキストビュー, 33
 - テキストビュー設定, 33
 - ファイルの再ロード, 40
 - ファイルの比較を確認する, 18
 - ファイルの編集, 40
 - ファイルの保存, 52
 - 開く, 18
 - 開始, 20
 - 機能, 10
 - 差分の表示, 33
 - 実行, 20
 - 定義, 12
 - 比較 モード, 14
 - 変更構造, 41
 - 編集中に開く, 76
- ファイルの比較ウィンドウ,
 - 比較の実行, 20
- フィルター,
 - XML 比較, 30
 - ディレクトリ, 58
 - デフォルトのフィルター, 85
 - 作成, 85
 - 属性, 30
 - 要素, 30
- ブックマーク余白, 33
- ヘルプメニュー, 148
- マージ,
 - 差分, 71
 - 定義, 12
- メニュー,
 - XML, 126

- メニュー,
 - ウィンドウ, 146
 - グリッドビュー, 108
 - コマンドの追加, 136
 - ツール, 134
 - テキストビュー, 105
 - ファイル, 95
 - ヘルプ, 148
 - 比較とマージ, 127
 - 表示, 102
 - 編集, 99
- メニューバー,
 - カスタマイズ, 143
- ユーザーレファレンス, 92
- ライセンス, 170
 - 情報, 167
- ライセンス計測,
 - Altova 製品にて, 169
- ラインマーカーの終わり, 33
- ライン番号マージン, 33
- リセット,
 - コンテキストメニュー, 143
 - メニューバー, 143
- 開く, 53
 - Office Open XML, 53
 - OOXML, 53
 - ZIP アーカイブ, 53
 - ディレクトリ, 53
 - ディレクトリ比較, 53
 - ディレクトリ比較 ウィンドウ, 55
 - ファイルの比較, 18
 - 空のディレクトリ比較, 55
- 開く ディレクトリ,
 - ディレクトリ比較を参照, 53
- 開始,
 - ディレクトリの同期, 68
 - ディレクトリ比較, 58
 - ファイルの比較, 20
- 割り当て,
 - キーボードショートカット, 139
 - ショートカット, 139
- 機能, 10
- 空白, 23, 25
- 空白のライン, 23
- 空白マーカー, 33
- 空白行, 25
- 結果メッセージ, 153
- 検索,
 - XML ノード型, 46
 - グリッドビュー内のコンテンツ, 46
 - グリッドビュー内のテキスト, 46
 - グリッドビュー内の名前, 46
 - ファイルの比較内のテキスト, 42
 - 正規表現の使用, 49
- 現在の 比較 モード,
 - 定義, 14
- 構文色分け, 88
- 左/右の新しいファイル,
 - 非表示, 59
 - 表示, 59
- 左/右の不足しているファイル,
 - 非表示, 59
 - 表示, 59
- 差分,
 - ZIP ファイル内, 61
 - エクスポート, 72
 - グリッドビュー内, 37
 - コンテンツのコピー, 71
 - ディレクトリ内, 61
 - テキストビュー内, 33
 - ナビゲート, 70
 - ファイル内, 33
 - マージ, 71
 - 行内, 23
 - 色, 81
 - 定義, 12
- 差分の表示,
 - ZIP アーカイブ内, 61
 - グリッドビュー内, 37
 - ディレクトリ内, 61
 - テキストビュー内, 33
 - ファイル内, 33
- 再ロード,
 - ファイル, 40
 - 自動再ロード, 81
- 最近比較された組み合わせ, 77
- 作成,
 - 属性グループ, 28
 - 属性のグループ, 28
 - 属性フィルター, 30
 - 要素フィルター, 30
- 削除,
 - ファイル拡張子, 88
 - ファイル型, 88
- 視覚補助,
 - インデントガイド, 33

- 視覚補助,
 - ラインマーカーの終わり, 33
 - 空白マーカー, 33
- 試用期間,
 - Altova ソフトウェア製品の試用, 168
- 実行,
 - ディレクトリの同期, 68
 - ディレクトリ比較, 58
 - ファイルの比較, 20
- 正規表現,
 - 検索と置換の条件式, 49
- 製品機能, 10
- 折りたたみ,
 - サブディレクトリ, 59
 - 選択されていないノード, 93
 - 全ての選択されたノード, 93
- 折りたたみマージン, 33
- 選択,
 - Windows Explorer 内のディレクトリ, 56
 - 最近比較された組み合わせ, 77
 - 比較のための選択, 56
- 大文字と小文字の区別, 25
- 大文字と小文字を区別する, 23
- 置換,
 - グリッドビュー内のテキスト, 46
 - ファイルの比較内のテキスト, 42
 - 正規表現の使用, 49
- 著作権に関する情報, 167
- 追加,
 - コマンドからツールバー, 136
 - コマンドからメニュー, 136
- 定義,
 - ファイル拡張子, 88
 - ファイル型, 88
- 展開,
 - サブディレクトリ, 59
 - 選択された子ノード, 93
 - 全ての選択されたノード, 93
- 等しいファイル,
 - 定義, 12
 - 非表示, 59
 - 表示, 59
- 等しくないファイル,
 - 定義, 12
- 同期,
 - ディレクトリ, 64
 - 定義, 12
- 配布,
 - Altova ソフトウェア製品, 167
 - Altova ソフトウェア製品の配布, 168
- 比較,
 - Office Open XML, 18
 - OOXML, 18
 - ZIP アーカイブ, 18
 - ディレクトリの選択, 56
 - ファイル, 18
 - 開く前の表示オプション, 76
 - 自動的に開始, 76
 - 定義, 12
 - 保存, 73
- 比較 ウィンドウ ステータスバー, 16
- 比較 モード,
 - XML, 14
 - クイック 比較, 14
 - テキスト, 14
 - バイナリ, 14
 - 拡張子, 14
 - 現在の, 14
 - 変更, 57
- 比較 モード ツールバー, 93
- 比較とマージ ツールバー, 93
- 比較とマージ メニュー, 127
 - ディレクトリ比較, 131
 - ファイルの比較, 127
- 比較の管理, 75
- 比較を保存, 73
- 比較不可能なファイル,
 - 非表示, 59
 - 表示, 59
- 非表示,
 - サブディレクトリ, 59
 - 新しいファイル 左/右, 59
 - 等しいファイル, 59
 - 比較不可能なファイル, 59
 - 不足しているファイル 左/右, 59
- 標準ツールバー, 93
- 表示, 59
 - サブディレクトリ, 59
 - ショートカットキー, 145
 - スクリーン上のヒント, 145
 - ツールバー上のテキストラベル, 137
 - テーブル, 38
 - 開く前のオプション, 76
 - 空白のライン, 23
 - 空白行, 25
 - 繰り返し要素, 38

- 表示, 59
 - 行内の差分, 23
 - 最近比較された組み合わせ, 77
 - 新しいファイル 左/右, 59
 - 大きなアイコン, 145
 - 等しいファイル, 59
 - 比較不可能なファイル, 59
 - 不足しているファイル 左/右, 59
- 表示 メニュー, 102
- 評価機関,
 - Altova ソフトウェア製品, 167
- 複数のインスタンス, 79
- 並べ替え,
 - テーブル, 38
- 変更, 57, 65
 - グリッドビュー, 37
 - ディレクトリの同期アクション, 66
 - ディレクトリの同期のための設定, 65
 - ディレクトリ比較のためのオプション, 57
 - デフォルトの比較モード, 88
 - ファイルの比較のためのオプション, 23
 - 同期アクション, 66
 - 同期の設定, 65
 - 比較 モード, 57
 - 比較されたファイルのコンテンツ, 40
 - 比較されたファイルの構造, 41
- 編集,
 - コンテンツ, 40
 - テキストの検索, 42
 - テキストの置換, 42
 - ファイル, 40
 - 構造, 41
 - 編集集中に開く, 76
- 編集メニュー, 99
- 保存,
 - ファイル, 52
- 法的な情報, 167
- 無視,
 - テキスト, 25
 - ノードの深さ, 25
 - ノード型, 25
 - ノード型の順序, 25
 - プレフィックス, 25
 - 空白のライン, 23
 - 空白行, 25
 - 属性の順序, 25
 - 大文字と小文字, 23, 25
 - 名前空間, 25
- 余白,
 - ブックマーク, 33
 - 行番号, 33
 - 折りたたみ, 33
- 用語, 12